

京都府立総合資料館

開館 50周年記念誌

1963-2013



京都府立総合資料館

目 次

挨拶 総合資料館開館50周年を迎えて	京都府知事 山田 啓二	1
祝辞 総合資料館開館50周年を祝して	友の会会長 渡辺 信一	2
早わかり！総合資料館		3
■ 総合資料館50年のあゆみ		3
■ ユネスコ記憶遺産へ 東寺百合文書		4
■ 総合資料館の日常		5
■ 新総合資料館の紹介		6
■ 新館に向けて 新しいプロジェクト		7
知りたい！を支えて50年		8
ある日の資料館		9
50年のあゆみ		23
先輩に聞いてみよう！		33
特に人気のある資料		37
資料を集める・紹介する		43
開館50周年を記念して		47
新館に向けて		57
写真で見る総合資料館		60
資料編		64
あとがき	京都府立総合資料館長 伊藤 秀一	112

資料編 目次

資料名	頁
施設の概要	65
京都府立総合資料館 50年史年表	66
年度別利用者数の推移	71
館蔵資料数の推移	72
主要所蔵資料	73
東寺願智院金剛藏聖教調査実施状況	74
古文書所在情報調査実施状況	74
古文書実地調査実施状況	75
近世領主並びに近世村町別閲覧可能関連文書所在調査実施状況	78
民謡調査実施状況	78
昔話調査採集話数一覧	78
府内市町村行政文書保存状況・実態調査実施状況	79
展覧会開催状況	80
古文書講習会開催状況	84
古文書教室開催状況	85
古文書解説講座開催状況	88
古文書入門教室開催状況	89
講座開催状況	90
出張講座開催状況	94
歴史資料カレッジ開催状況	94
歴史資料解説講座開催状況	94
半木半講会開催状況	95
刊行物出版状況	95
館蔵資料の国宝等指定一覧	98
館蔵資料の所蔵状況	99
歴代館長一覧	99
総合資料館基本構想	100
北山文化環境ゾーン整備推進についての検討報告（一部抜粋）	110





総合資料館開館 50 周年を迎えて

京都府知事 山田 啓二

京都府立総合資料館は、平成 25 年 11 月 15 日をもって開館 50 周年を迎えました。

当館は、京都に関する歴史、文化、産業、生活等の諸資料を総合的に収集・保存し、展示して、府民の皆様の調査研究等に御利用いただくことを目的として、昭和 38(1963)年 11 月 15 日に開館いたしました。

以来、図書館・文書館・博物館の 3 つの機能を有する総合的な施設として御利用いただいております。

昭和 63 年の京都文化博物館の開館を機に、美術工芸、歴史民俗等の現物資料の収集、保存及び展示については、同博物館を運営する京都文化財団へ業務委託を行い、さらに平成 13 年には、府立図書館の新築開館に合わせて、同図書館への図書資料の一部移管を行うなど機能分担を図り、現在では京都の歴史、文化、産業、生活等の諸資料を重点的に収集・保存する「京都に関する専門資料館」としての役割を担っているところであります。

当館の所蔵資料は、図書、古文書、行政文書、美術工芸品、写真資料、近代文学資料など約 62 万点に及び、国宝や重要文化財を含む大変貴重な文化的資料であります。このうちの多数が府民をはじめ多くの皆様の尊い篤志により寄せられたものであり、これまで御寄贈いただいた多くの方々に深く感謝申し上げます。

これらの資料は、日常の閲覧や展示、講演、出版物、インターネットなどにより広く公開するとともに、府民講座、古文書入門教室、歴史資料解読講座などの生涯学習の場においても御利用いただいております。開館以来の延べ利用者数は 900 万人を超えております。

開館から 50 年を経た今、改めて総合資料館のあるべき機能や当館を取り巻く環境の変化等を踏まえ、府立大学(文学部・附属図書館)との機能連携のもと、国際京都学センターの新たな設置など、京都の歴史・文化についての研究・学びを支援し、情報を発信する拠点として、昨年 7 月から新総合資料館(仮称)の建設に着工いたしました。

また、昨年 5 月には、当館所蔵の国宝「東寺百合文書」が、記憶遺産の登録候補として日本ユネスコ国内委員会ユネスコ記憶遺産選考委員会から推薦されることに決定しました。平成 27 年 5 月に予定されるユネスコ記憶遺産の登録決定に向けて、展覧会や講演会、翻刻史料の刊行等の普及事業を実施するとともに、デジタル画像の WEB 公開を行うなど、その内容をわかりやすく国内外に広く発信してまいります。

新総合資料館(仮称)のオープンに向け、さらなる機能の充実を図り、府民の皆様の御期待に応え得る施設となりますよう準備を進めてまいりますので、なお一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

平成 26 年 3 月 31 日



総合資料館開館 50 周年を祝して

京都府立総合資料館友の会会長
元同志社大学教授 渡辺 信一

京都府立総合資料館（以下、資料館）は、昨年、開館 50 周年を迎えた。時あたかも文部科学省は、資料館が所蔵する国宝「東寺百合文書」をユネスコの世界記憶遺産の登録候補として推薦すると発表した。二重の慶事である。

資料館は周知のように昭和 38 年 11 月に新しく発足した。初代館長・西村精一氏は厳しい府の財政の中、図書館サービスの重要性に鑑み、（これまで館長職にあった）府立図書館とは別個に構想し資料館開館を実現された。西村館長の率いる優秀なスタッフたちをメンバーに複数の委員会を館内に立ち上げ、用意周到な準備の上、開館を迎えるに至った。

当時、府立図書館員であった私は、西村館長より英文のパンフレットの作成を任せられ、京都アメリカ文化センターの館長に最終的な英文原稿の校正をお願いした。西村館長はあくまでも府立図書館との違いを鮮明にする上で、蔵書についても古文書を含めた総合的なコレクションを目指していたところから、英文名を“Kyoto Prefectural Library and Museum”とされた。したがって、図書部に併せて資料部が置かれ、司書だけでなく学芸員の資格を持つ有能な人材を多数、擁するに至った。

資料館発足時に、西村館長は友の会の必要性を説き、当時、展示課長であった佐橋寿郎氏に責任を委ね友の会が発足した。

当時の資料館は、庶務部のほか、資料部（資料課・展示課）、図書部（集書課・目録課・閲覧一・二・三課）より構成されていた。そのうち展示課は、図書以外の資料、風俗史料（吉川観方コレクション）、郷土玩具（^{みかづき} 臚 コレクション）を中心に、京都の伝統工芸・美術を扱い、博物館や美術館の連盟に加入して活動を行った。

友の会は当初、会長を立てず、民俗学者 井上頼寿氏（1900～1979）を顧問に迎えて発足、会員には、展示室への招待をはじめ、岩倉幡枝土器遺跡の見学などを実施した。当時の催しとしては、開館記念第 1 回伝統工芸資料展「陶・漆・金工芸展」、吉川観方コレクション「浮世絵総合展」、第 2 回伝統工芸資料展「染織工芸展」、臚コレクション「郷土玩具展」などであった。

当時、資料館の構想として古文書を含む図書資料をイメージしていた西村館長とは別個に、嵯峨知事の意向で、京都の美術工芸博物館資料が加えられ、展示課の業務が大幅に拡大された。その後、京都文化博物館の発足に伴い、この業務は同館に移管されている。

資料館はこの度、開館 50 周年という輝かしい歴史を持つ。この機をとらえて資料館は、新しい構想のもとにすばらしい新館に生まれ変わる。

同じく輝かしい歴史をもつ友の会についても、資料館の事業、京都の伝統文化や伝統産業に理解・関心ある会員の諸氏には、現地講座や見学会の諸行事その他の催しに今後ともご参加、ご協力くださって友の会を大いに盛り立てていただき、資料館と友の会がますます発展していくことを心より祈念する次第である。

平成 26 年 3 月 31 日

いつもご利用いただき、ありがとうございます！！

総合資料館 50 年のあゆみ

1. 概要

京都府立総合資料館は、「京都に関する専門資料館」です。
 京都に関する諸資料（歴史、文化、産業、生活等に関する図書や古文書、行政資料など）を府民の調査研究等に役立ててもらうために、整理・保存・公開する施設です。
 館蔵資料は 62 万点以上（平成 24 年度現在）に及びこれらの資料を使った展覧会や講座、講演会も行っています。

現在の利用状況

- ・ 開館日数 319 日
- ・ 図書閲覧室 52,781 人
- ・ 文書閲覧室 2,571 人
- ・ 図書の書庫出納冊数 52,172 冊
- ・ 図書資料の相談件数 13,414 件

（平成 24 年度実績）



【府民講座】



【歴史資料カレッジ】



【寺子屋講座】



【座談会】



【友の会】

2. 昭和 38 年 (1963) 開館！

昭和 34 年府議会で当時の知事は総合資料館の構想について発表し右のように述べました。

「ハリの図書館やロンドンの図書館のようなつもりで単に図書を閲覧させるというばかりでなく（中略）地方の文化の促進のためにいろいろな展示をして貢献しよう」
 （3月7日府議会会談録）

知事の構想案に基づき検討委員会を設置、何度も検討を重ねた末に昭和 38 年 11 月 15 日総合資料館は開館式を迎えました。



【総合資料館竣工式】昭和 36 年 12 月 4 日撮影



【総合資料館旧館建築】昭和 37 年 2 月 2 日撮影



【総合資料館全築】昭和 38 年 11 月 11 日撮影



【総合資料館】昭和 38 年 11 月 11 日撮影

3. 平成 25 年 (2013) 開館 50 周年！



【放送原稿】



【開館 50 周年ロゴ】



【京都北山アーカイブズ】

ユネスコ記憶遺産へ 東寺百合文書

1. ユネスコ記憶遺産 (Memory of the World) とは

ユネスコが世界の重要な記憶遺産の保護と振興を目指し、1992年に開始した事業です。

- 世界的に重要な記憶遺産の保存を最も相応しい技術を用いて促進すること
- 重要な記憶遺産になるべく多くの人がアクセスできるようにすること
- 加盟国における記憶遺産の存在と重要性への認識を高めること

現在国内の登録資料は3点

- 山本作兵衛炭竹記録簿・記録文書（福岡県田川市）
- 御堂岡日記（陽明文庫・京都市右京区）
- 院長遊歌使節関係資料（宮城県仙台市）



ユネスコ記憶遺産ホームページ
<http://www.unesco.org/new/en/communication-information/flagship-project-activities/memory-of-the-world/homepage/>

平成25年5月 当館所蔵の国宝「東寺百合文書」が、ユネスコ記憶遺産の登録候補として日本ユネスコ国内委員会ユネスコ記憶遺産選考委員会から推薦されることに決定

2. 東寺百合文書の概要

東寺百合文書は、東寺という大きな組織が平安時代以来、長年にわたって活動するなかで蓄積してきた2万点近い文書の集まりです。日本の中世において人々が何を考えどのようなことをしていたのかを探ろうとするとときに欠かせないものであり、記憶遺産として、国内のみならず国際的な認知を受けるのにふさわしい史料です。

総合資料館では、東寺百合文書の受け入れ後、整理を進め、保存と公開の体制を整えてきました。



【東寺百合文書シ函と文書】



【摂津園壘水庄（現大阪府吹田市）の進坊を止め東寺の権利を認める後醍醐天皇の輪旨書】



【丹波国大山庄（現兵庫県篠山市）の用水指図案】



【補田備長が入洛後、東寺に対して発給した禁制】



【展示会の開催】

3. 記憶遺産決定に向けて

【登録までのスケジュール】

- 平成25年6～12月 ユネスコ記憶遺産推薦書作成ワーキンググループによる推薦書の作成
- 平成26年3月 日本ユネスコ国内委員会へ報告後、ユネスコへ推薦
- 平成27年5月頃 ユネスコ記憶遺産国際諮問委員会（IAC）で登録の可否決定



現在、総合資料館では登録に向けた準備を進めています。また、東寺百合文書のデジタル化も継続して進めています。



【推薦決定を受けての知事コメント】

この度、京都市府が所蔵する国宝「東寺百合文書」の推薦決定を心から歓迎します。東寺百合文書は、中世日本社会の全体構造を原形する最も優れた貴重な歴史資料であり、それだけに京都市府としても、平成27年5月頃に予定されている国際諮問委員会での登録決定に向け、積極的に協力して参りたい。

京都市知事 山田啓二

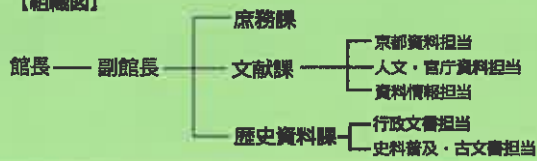


総合資料館の日常

普段の業務の様子を一部ご紹介します。詳しくは『総合資料館 業務概要』（毎年度刊行）をご覧ください。

総合資料館は京都府の文化環境部に属し、庶務課・文献課・歴史資料課で構成されています。

【組織図】



【展示の準備作業】



【列品解説の様子】



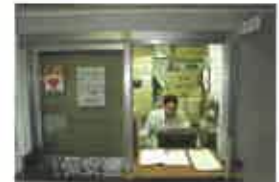
【学習室】

1. 庶務課

平成 28 年に開館予定の新総合資料館の整備計画、規程等の制定改廃、人事、広報や文書事務、予算・決算や会計事務、財産管理・運営と庁舎の整備、総合資料館友の会、保安業務など他の課の所管に属さない業務を担当しています。



新館の開館に向けた企画の立案や予算の調整などを他の課と連絡を取り合いながら進めています。



施設の老朽化は進んでいますが、総合資料館を変わらず安心してご利用いただける環境づくりを行っています。写真は、講堂の雨漏り対策と保安室の様子です。

2. 文献課

図書等資料の収集、整理、保存、閲覧、利用やレファレンスに関すること、図書等資料の普及に関すること、図書閲覧室や書庫の管理運営に関することを担当しています。



資料の利用案内や調査・研究の支援等を行っています。カウンターでの相談だけでなく電話や文書による相談にも応じています。休館日には集中して書架の点検を行うなど、書庫や閲覧室の管理に努めています。



痛みが激しく利用に支障のない図書資料の修理を行います。上の写真は図書の背表紙を補強する作業の様子です。

3. 歴史資料課

古文書、行政文書、写真資料及び近代文学資料の保存、利用、調査・研究等に関する業務を担当しています。



文書閲覧室では古文書や重要文化財に指定されている行政文書、写真資料などの閲覧や複写サービスを受けることができます。また、資料に関するレファレンスや古文書相談などにも応じています。



東寺百合文書をより広く利用していただくため史料集を刊行しています。写真は原稿執筆の様子です。

新総合資料館の紹介

1. 新施設の整備

平成 19 年 (2007) 年以降、施設の老朽化、総合資料館の機能や取り巻く環境の変化等を踏まえ、より一層府民の皆様のご期待に応える施設となるため、館の果たすべき役割・機能のあり方を見据えながら、新たな施設整備に向けた検討を進めています。



↑ 総合資料館・府立大学・植物園の包括協定を締結 (平成 21 年 3 月)

- ・「総合資料館あり方検討プラン」(平成 19 年度策定)
- ・「総合資料館基本構想」(平成 20 年度策定)
- ・北山文化圏ゾーン整備推進についての検討報告 (平成 21 年度策定)
- ・「新総合資料館(仮称)設計仕様要領・設計条件(案)の作成や国際京都市センター設立準備の検討など(平成 22 年度～)
- ・設計業者との協議(木が、府立大学と共同)や統合データベース構築に係る検討・協議など(平成 23 年度～)



【コンセプトイメージ図】
平成 23 年、新施設の設計競技が行われ、飯田義彦氏の作品が最優秀に選ばれました。

新施設の外観イメージ図



下鴨中通りより見る東側全貌



プロムナードから西側全景を見る



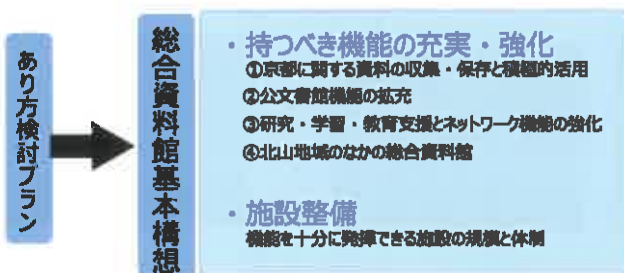
下鴨中通側の外観を歩道より見る



南側全景。国際京都市センター入口を見る

2. 基本構想の概要

「総合資料館あり方検討プラン」に示された基本コンセプトおよび施設整備を具体化していくため、平成 21 年 3 月に「総合資料館基本構想」が策定されました。



3. 着工から竣工まで

平成 25 年 7 月 新館の主体工事を「竹中・増田・あめりか屋特定建設工事共同企業体」が請負うことが決定
 平成 25 年 8 月～9 月 準備工事
 平成 25 年 10 月～平成 27 年 12 月 本工事



【本工事が進む様子 平成25年10月(左)と平成26年3月】

【新施設の利用計画(予定)】

階層	主な機能
1～2階	国際京都市センター(ホール・セミナー等) 総合資料館閲覧室、展示室 府立大学附属図書館閲覧室
3～4階	府立大学文学部実習室・演習室・教員研究室
地下1階～2階	資料館収蔵庫、閉架図書

地上 4 階建地下 2 階 延べ床面積 24,000 m²程度

新館にむけて 新しいプロジェクト

1. 地蔵プロジェクト（京都の「地蔵」信仰と地蔵盆を活かした地域活性化事業）

文化庁の平成 25 年度「文化遺産を活かした地域活性化事業」の補助金をうけ、京都府立総合資料館を中心に実行委員会を組織して平成 25 年 7 月から実施しています。約 20 ヶ所の地域の皆様にご協力いただきながら、京都でなじみ深い「地蔵盆」の現状を記録するとともに、京都市内にある「地蔵」の分布調査を通して「地域」信仰の実態を明らかにしようとしています。このプロジェクトを通じて、地域コミュニティの再構築など、京都の活性化につなげたいと考えています。



お化粧を済ませたお地蔵さまたちです。

京都には至るところにお地蔵さまがいて子供たちを見守っています



ただいま地蔵盆の準備中



雨の中、大勢の人がお参りに来ました。



地蔵の分布調査と記録の作業も進めています。



↑まもなくゲームの始まりです。この日のために観品のお菓子やおもちゃをたくさん購入しました。

【調査で記録した地蔵盆行事一覧】

- 7月2日、9日、16日 太秦地区 地蔵盆準備作業
- 8月7日 六道珍皇寺盆行事
- 8月9日 お精進迎え風景
- 8月10日 西院地区 地蔵化粧
- 8月11日 太秦地区 盆準備作業
- 8月12日 西陣にてお盆飾りなど
- 8月16日 矢田寺送り鐘
- 8月17日 中京区と西院地区 地蔵盆
- 8月18日 宇治田原町 地蔵盆・盆踊り/西院地区 地蔵盆
- 8月23日 太秦地区 地蔵盆準備作業/大徳寺門町 地蔵盆記録
- 8月24日 太秦・西陣 地蔵盆記録
- 8月25日 太秦地区 地蔵盆記録・聞き取り 西院地区 地蔵盆記録

ほか



↑地蔵盆を行っている地域を訪ねて地元の方からお話を伺います

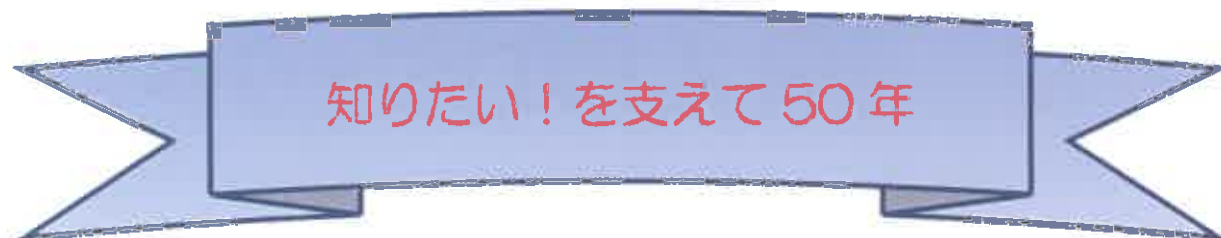
←記録のために地蔵盆の様子をビデオ撮影しています

2. 地域史シンポジウム

地域の歴史を掘り起こし、次世代につなげる活動をしている個人や団体にスポットをあけるとともに、地域史研究者のネットワークづくりのシンポジウムを開催しています。平成 25 年度は山城地域で活動する研究者によるシンポジウムを文化パルク城陽で開催しました。

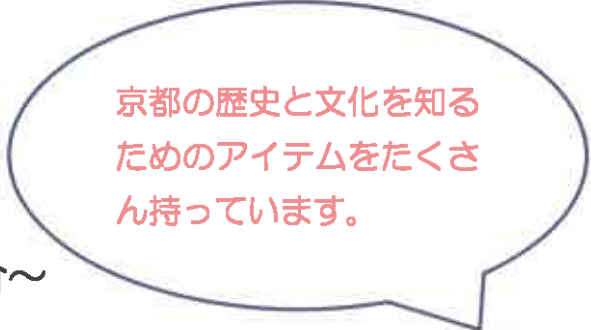


【シンポジウム『山城地域の活動報告を中心として』の様子】
(平成 25 年 9 月 29 日開催)



1963 年の開館以来、総合資料館はみなさまの「知りたい！」を支えるために、資料を集め、京都の歴史と文化を記録し続けてきました。2013 年、開館 50 周年を記念して、50 年目を迎えた総合資料館の今を記録することとし、ここに記念誌をつくりました。

この 50 周年記念誌は、子供から大人まで多くの方に読んでいただくため、写真やイラストを多く用いました。どうぞ楽しみながらご覧いただければと思います。



京都の歴史と文化を知るためのアイテムをたくさん持っています。

～京都府立総合資料館の簡単な紹介～

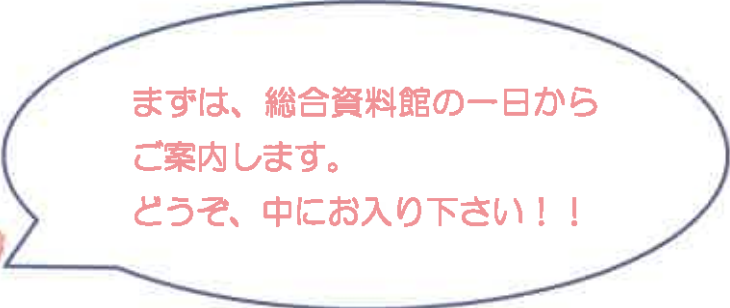
所蔵している資料：約 62 万点

年間の利用者数^{注 1)}：約 9 万人（2012 年度実績）

休館日：毎月第 2 水曜日、祝日、年末年始、資料整理期
（2014 年 3 月現在）

アクセス：京都市左京区下鴨半木町 1-4

市営地下鉄「北山駅」1 番出口下車 徒歩 1 分！



まずは、総合資料館の一日からご案内します。
どうぞ、中にお入り下さい！！

注 1) 閲覧室利用者、学習室、展示室、各種講座等への参加者を含みます。

ある日の資料館



はじまり



【保安室の奥に宿直室があります】



庶務課の入口って、ずいぶん古いわね。



【お正月の花です】

• 宿直さんと保安さんの交代

総合資料館の警備は、昼は職員が、夜は警備員が行っています。国宝の資料を保管している施設ですので、夜は委託を受けた民間の警備会社の社員(宿直さん)が泊まって警備を行うのです。そのため、保安室の奥には小さな畳の部屋があります。

前日の夕方から泊まっている宿直さんは、午前6時過ぎ、朝早く出勤する職員や掃除をされる方たちのために、東側の小さな門を開けます。朝の見回りを終えた8時30分に、保安室の職員と仕事を交代します。

• 開館前の仕事

一日の仕事は午前8時30分に始まります。開館までの30分の様子をご紹介します。

庶務課では、午前8時30分になるとすぐに問い合わせや別の部署からの連絡の電話が鳴り始め、通常業務が始まります。通常の業務の詳しい内容は、後で述べることにしますが、開館前に特に気をつけて行う業務は、清掃と安全点検です。館を見回り、開館に間に合うように掃除の進み具合を確認し前庭や館周辺の点検などを保安室の職員と協力しながら行い



【庶務課の様子】

ます。

午前9時になると、庶務課にはお客さまや業者の方が多く訪れますので、庶務課の入口には、館の庭に咲いていたものや職員が自宅から持参した花を飾っています。



【新聞を綴じています】

文献課でも、午前8時30分、始業のチャイムと同時に開館準備をはじめます。蔵書検索用のパソコンを起動させ、正常に稼働しているかを確認します。

当日の朝刊と前日の夕刊を専用のフォルダーに綴じ、カウンター付近の机を清掃します。書架の資料に直接日光が当たらないようー特に冬場は太陽の位置が低いのでーブラインドを微妙に調節し、資料のケアに気をつかいます。節電を意識しつつ開館5分前には閲覧室の照明をつけ、その日来館される方を待ちます。



【文書閲覧室は南西角にあります】

図書閲覧室の奥にある**文書閲覧室**は、歴史資料課が所蔵する文書資料の閲覧室です。そこでは、まず、その日の受付当番がパソコンを立ち上げます。次に、資料に直射日光に当たらないようにブラインドの調整を行います。夏場にはエアコンの補助として、扇風機も設置します。

そのほか、展覧会や講座の案内などや配布物の確認、朝には週1回、利用者が

申請された資料の複写（コピー）の申込みを専門の業者に発注したり、出来上がった複製物を受け取ります。



【開館前の正面玄関】



【富士山と日の出を描いた花壇】



午前9時 開館



【カウンターに来られる方を待ちます】

・玄関

午前9時前、正面玄関では資料館が開くのを待つ人たちがいます。一列に並んで順番待ちをしている光景は、毎朝必ず見られる光景です。正面玄関の鍵を開けるのは、保安室の職員です。並んでいる利用者の方と言葉を交わすなかで、「今回の展示はここが良かった」「ここはもっと改善した方が良い」など、教えてもらうこともあります。

また、掃除は開館前から始めています。広い施設ですのでトイレや床を磨き、ゴミの処理、ハトの糞の駆除などいろいろな仕事があります。古い施設ですが、利用者の方に気持ちよく利用していただくために一日をかけて丁寧に掃除します。

・図書閲覧室

開館のチャイムと同時に3階にある閲覧室にも人が入ってきます。階段を勢いよく上がって来られたのか息を切らしながら「おはようございます」と声をかけてくださる方もいます。

カウンターは当番制で、平日は午後1時までの班と、午後1時から閉館までの班があります。カウンターでは、書庫にある資料の出し入れ（出納）、資料の複写



【ある日の閲覧室の様子】



【書庫の中の本、本、本…】



【文書閲覧室の様子】

案内、置いてある場所（配架場所）の案内、資料相談などを行っています。

資料館の図書資料約 36.7 万冊のうち、みなさんが自由に手に取って見ることのできる資料はほんの一部で、ほとんどの資料は書庫にあります。職員は請求記号と呼ばれる番号を頼りに、書庫に眠る膨大な資料の中から特定の資料を見つけ出します。書庫という名の迷路に迷い込み、すぐに資料が見つからない場合もありますが、温かい目で見守ってください。

また、「〇〇について知りたい」「××について書かれている本はあるか」といった相談にも応じています。質問内容も十人十色で、京都の地名について調べている方もいれば、美術作品について調べている方もいます。ご先祖のことを調べている方も多く、思い出話や体験談に熱が入る方もいます。全く同じ質問に出会うことは滅多になく、回答を探すのに苦心しますが、答えが見つかった時には「ありがとうございます」と感謝の言葉をいただきます。

他にも、静かに読書をしている方、新聞を読まれている方、調べ物に熱中している方、パソコンを持ち込んで作業している方など、みなさん思い思いの時間を過ごされているようです。

• 文書閲覧室

文書閲覧室は一般の方、研究者、行政



【夏涼しく、冬寒い書庫の中…】



【文書の出し入れには専用エレベーターを使います】

関係者などに幅広く利用されています。この部屋で閲覧できる資料は、東寺百合文書(国宝)や革嶋家文書(重要文化財)などの古文書約13万点、主として京都府庁から移管した行政文書(一部重要文化財)約8万点など、約24万点です。

文書閲覧室にはこれらの文書資料はなく、代わりに文書の名前などが書かれた目録を置いています。利用される際には目録を見て目的の資料を探していただくことになります。職員は、資料を探すお手伝いをしたり、必要な資料を紹介したりしています。見たい資料を受付に申請すると、職員が書庫から資料を持ち出してくれます。なお、見ていただく前に、文書資料のなかに個人の権利や利益を損なう情報が含まれていないかなども確認します。

所蔵資料は、複写も受け付けています。特別撮影という手続きを取ることで、本や雑誌へ掲載することもできます。

また、当館ホームページの「京都北山アーカイブズ」や「京の記憶ライブラリ」でも文書資料や写真などを公開しています。これらは皆様の関心や歴史的な価値が特に高い資料を選んでデータ化した画像データベースです。

• 複写室

3階には資料の複写を専門に行う小さな部屋があり、資料館から委託を受けた



【複写にはいろいろな道具を使います】



【1階の北東角に学習室があります】

学習室は毎年 3 万人近くの方が利用されています。50 年間で最も利用者数が多かった年は 9 万人を超えました（1967 年）。



会社が仕事をしています。

この部屋で複写する資料は、昭和 30 年以前に出版された資料や、取り扱いに特別な注意が必要で自分でコピーができない資料です。

書籍だけでなく写真や地図などさまざまな資料を扱いますので、担当者は資料を傷つけないように細心の注意を払っています。そのためのコピー機や特別なスキャナーなども備えています。

複写室での複写業務は午後 4 時までです。その直前には申込みが増え、混み合うことがよくあります。

・学習室

学生時代、総合資料館の学習室で勉強したという方も少なくないのではないでしょうか。140 席ある学習室は、毎日試験勉強や受験勉強に励む学生や資格の勉強をする社会人の方たちに利用され、根強いファンもいます。

近年、静かな環境でめいめいに学習できる環境を備えた公共施設は少なくなってきましたので、当館の学習室は貴重な存在と言えるでしょう。特に、学校が休みになる夏休みの間は、しばしば満席になります。



バックヤードの仕事



【職員玄関を入るとまず保安室があります】



あれ？ 保安室の
ドアに俳優さんの
サインがある！！



・保安室

利用者の方にはなじみが薄いかもかもしれませんが、保安室の仕事は、縁の下の力持ちと言えるでしょう。

開館から 50 年が経ち建物はずいぶん古くなってきましたが、総合資料館を今までと変わらずに安心して利用していただけるような環境づくりをしています。

まず、資料館には、収蔵庫や倉庫をはじめ閲覧室、会議室などたくさんの部屋があります。これらの部屋の鍵は全部で約 200 にもなり、保安室では全ての鍵の使用状況を管理しています。

それから、資料を展示する 2 階の展示室には、防犯カメラを設置し、盗難や事故が発生しないようにモニターの様子に注意を払っています。車で資料館に来る利用者の方もいますので、駐車場で事故が起こらないようにも気をつけています。

そのほか、前庭の花壇の手入れや草刈り、古くなった床のタイルの貼り替え、壊れた備品の修理など、資料館のいろいろな「困った！」に対応します。

総合資料館の建物はドラマや映画の撮影で使われたことがあるからね。そのとき記念にもらったサインなんだよ。





【文献課の様子】



みなさまのご厚意に
感謝します！



【目録を作成している様子】

・カウンターからは見えない仕事

カウンター対応は図書館業務の花形だと言われますが、資料が利用できるまでには様々な作業が伴います。ここでは、みなさまからは見えにくい「裏方」の仕事をご紹介します。

多くの人が書店に行って本を買うのと同様に、総合資料館でも新刊本など書店に流通している資料を「購入」して図書館の資料にします。ほとんどの図書館ではこの「購入」が主となりますが、総合資料館ではその割合は少なく、大多数は「寄贈」本で成り立っています。寄贈とは「無償で資料を提供していただくこと」で、総合資料館の蔵書の大半はみなさまのご厚意から成り立っています。

寄贈された資料には、表紙を1枚めくった箇所に寄贈印を押印し、寄贈者には丁寧にお礼状を書いて送付します。寄贈者の中には礼状を部屋に飾るなどして、総合資料館に資料を寄贈したことに対して誇りに思っている方もおられるようです。

さて、蔵書をインターネット等で検索できるようにするには、検索対象となるデータを作成する必要があります。書名や著者名等の情報を一定の分類方式によって配列したものを目録と呼びます。目録の作成には専用のシステムを使いますが、何をどの項目に入力するのか、入力する文字を半角または全角にするのか、スペースを空けるのかなど、細かく指定された規則を守らなければなりません。



【壊れた図書の修理中です】



【歴史資料課の様子】



【東寺百合文書の翻刻作業】

10桁の番号の付いたバーコードを貼り、目録づくりが終わると、資料の背表紙の下部に4段のラベルを貼ります。また、背にタイトルが書かれていない資料は、書架に並んだ時に資料名が分かるように背タイトルを印字して貼付します。資料を探す時には、これらの情報を頼りに資料を探すため重要な作業となります。こうして、様々な工程を経た資料が書架に並び目の目を見ることとなりますが、総合資料館ではここでは紹介しきれない仕事他にも多数あります。休館日には棚に並んだ資料を点検し、ラベルが剥がれたり破損したりしている資料は修理します。例年5月には蔵書点検を行い、行方不明となっている資料がないか調べます。

・文書閲覧室の奥で行う作業

古文書や写真資料は、寄付や購入などによって集めています。そして、館の所蔵資料として受け入れ閲覧できるようにするために、目録を作ります。基本的には資料1点ごとの内容をよく調べて、年月日や名前などを一覧表にして、「資料目録」を作っていきます。そして、資料目録の内容と間違わないように資料1点ずつにラベルを貼っていきます。

利用者の方が古文書などを探すときには、まず資料目録が手がかかりとなりますのでこれらの作業は大切です。

最近では、総数にして約3万5千点(ラ



【出来上がった翻刻本】



【修理前】



【修理後】



【行政文書展の準備の様子。本庁ロビーにて】

ベル貼付実数 6 万枚以上) にのぼる「上野家文書」や、最終的にはおよそ 10 万点に達する「近藤豊撮影写真資料」など、膨大な整理作業が必要な資料も少なくありません。一般府民・研究者の皆さまの目に触れていただけるまでには、長期間にわたる担当職員の努力があります。これらの資料は館内の収蔵庫・書庫に並べますが、この収蔵庫・書庫の保全・管理も重要な仕事の一つです。

また、東寺百合文書については、当館で整理、公開した後、さらに多くの方に利用してもらうために 2003 (平成 15) 年度から翻刻史料集を作り始めました。

翻刻とは、資料をそのままの内容で活字にし、印刷、出版することです。東寺百合文書の翻刻史料集は、2012 年度まで毎年一冊ずつ出版し、現在、第 11 巻の刊行に向けて作業中です。文書 1 点ずつを活字にし、人物や事項に短い説明を加える作業は、高度な専門性と膨大なバックデータに支えられています。細かいところまで調べて明らかにする作業の結果、ようやく 1 冊の翻刻史料集が出来上がるのです。

行政文書は、もとの文書のまま閲覧していただくものが多いため、年数を経ると傷み劣化してしまいます。府の活動や歴史を記録した行政文書を永久に保存し、将来に伝えていくためには、毎年、計画的に行政文書の修理を行う必要があります。行政文書の中でも重要文化財に指定されているものは、文化庁の指導のもと

行政文書を見ると、京都府の政策がどのようなプロセスを経て実施されているのかがよくわかりますよ。



で専門の技術者が修理します。それ以外の行政文書は、館職員が簡単な修理をします。

なお、修理をする文書は、歴史資料として特に重要で閲覧の回数が多いもの、簿冊の用紙が弱く綴じの粗いもの、個人情報等の閲覧制限情報が多くそのまま利用していただくのは難しいものなどを優先します。これらは、利用者の方が閲覧しやすい環境を作るための工夫です。

・庶務課

庶務課では通常、利用者と直接お会いする機会はそれほど多くありませんが、人事や経理、備品や施設の管理など資料館の運営に欠かせない様々な仕事をしています。

例えば、壊れた施設の修理の手配をしたり、資料館で利用者や職員が使う備品や消耗品がなくならないように、補充したりするのも庶務課の仕事です。

地下鉄の駅や公共機関などで、資料館のポスターやチラシを見かけることはありませんか。資料館が実施する展示やイベントを広く多くの方に知っていただくために、ポスターやチラシを作成して配ったり、情報をマスコミなどに発信しています。

資料館には、しばしば国内外から視察や意見交換のための来客があります。文献課や歴史資料課と協力しながら、対応しています。視察の成果として、資料館の取り組みが海外の機関誌に大きく掲載されたこともありました。



【2013年10月16日、アメリカからのお客様】



【当館の取り組みを紹介したスウェーデンの雑誌『ARKIV』（2014年）】



午後4時30分閉館



【書庫資料を返却しています】



【行政文書を書庫に戻しています】

午後4時30分に『椰子の実』（島崎藤村作詞）が流れると、閉館です。昼間、賑わっていた館内は、利用者の方がいなくなるとガラんとした物寂しい雰囲気に変わります。

閉館後は、通常業務の合間に閲覧室や展示室、学習室、トイレ等に忘れ物がないかを見て回り、部屋に鍵をかけていきます。展覧会が開かれている間は、その日の入場者数を確認し、図録など販売物の売り上げを集計し、アンケート用紙の回収なども行います。

3階の閲覧室では、4時30分になると蔵書検索用のパソコンをシャットダウンさせます。閲覧室に人が残っていないか確認しながら、返却台に置いてある資料を所定の場所に戻します。

また、書庫出納のあった資料は、書庫の所定の場所に返却します。次の日に気持ち良く利用してもらえるよう、書架に並んでいる資料をきれいに揃え、並び順が合っているか確認します。午後5時になると閲覧室の照明を消して、総合資料館の一日が終わります。

文書閲覧室では、4時30分になり、館が閉館されると、まず、ロッカー等に忘れ物がないか確認します。それから、利用者が使った鉛筆を削り、複写箇所印をつける紙の付箋^{ふせん}を補います。また、文書が汚れないように、閲覧室のテーブルを丁寧に雑巾がけします。

本日のご利用ありがとうございました。
また明日ね！！



なお、資料は利用されるたびに、状態を確認しています。簡単に修復できる場合は閲覧後必要な処置を行い、本格的な修理が必要な場合は、今後修理する文書としてリストアップしておきます。また、個人情報等により閲覧制限箇所のある文書については、次回閲覧される時にすぐ提供できるよう、付箋を挟み、印を付けておく作業を行います。



コラム



【南と北に大きな窓を備えた講堂】



せきぐちえいたろう
【関口鉄太郎氏が設計した中庭です】

普段、あまり気づかない総合資料館のスポットをいくつかご紹介しましょう。

まず、講堂です。講堂は 4 階にあり、350 人が入ることができる広い部屋です。南側から日が差し込むのでとても明るく、総合資料館のなかでは一番見晴らしの良い場所にあると言えるでしょう。

講堂は、開館から昭和 63 年まで一般に有料で貸し出しており、講座や講演会などさまざまなイベントが行われてきました。ステージ横の小部屋にはピアノもありますので、音楽会もできました。

老朽化が進み、現在は利用されていません。雨の日には雨漏りがして、たくさんのバケツが並べられることもあります。

次に、中庭を見てみましょう。この庭は、天橋立を主題（モチーフ）にしています。京都府北部にある天橋立は日本三



景の一つで、周辺は海と山に囲まれています。総合資料館の中庭は、そのうちの栗田峠方面から見た天橋立をイメージして造られました。庭の奥に置かれた石は天橋立の背景にある山並みを表し、砂利や小石は海を表しています。中庭を見るには、2階から3階に続く階段の踊り場が一番良いでしょう。



【電気自動車用の急速充電器】

前庭にある電気自動車用の急速充電器を知っていますか。東側の片隅にひっそりとありますのであまり目立ちませんが、実は人気のあるコーナーです。

京都府では、環境にやさしい電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHV）を多くの方に利用してもらうため、京都府内に無料の急速充電器をいくつか設けています。総合資料館の急速充電器もその一つです。

総合資料館の一日、いかがでしたか。
普段見られないバックヤードの様子もご紹介しました。近年は、新しいサービスとして、バックヤードをご案内する「書庫ツアー」も行うようになりました。参加された方もいるのでは？

では次に、当館の歴史をご紹介します！



50年のあゆみ

総合資料館、オープン！



【祝賀会の様子】



【テープカットをする蟠川虎三知事】



1963（昭和38）年11月15日午前11時、総合資料館の前庭で開館式が行われました。式には海外からのお客さんも招かれ、1,000名を超える来賓の人々が出席しました。

開館式では、蟠川京都府知事（当時）が「古い伝統と新しい文化が生きている京都の地に“庶民の暮らしを語る資料館”ができた意義は大きい」「府民の方がどんどん利用して、資料館を育ててほしい」と挨拶しました。来賓からも次々と祝いの言葉が述べられ、建設に携わった方々へは感謝状が贈られました。開館式のあと、出席者全員が参加して盛大な祝賀会も開かれました。

午後からはテープカットが行われ、開館を記念した展示「風俗変遷展」が始まりました。

翌日の午前9時から、いよいよ一般向けに公開され、利用が始まりました。当日は開館の1時間前から学生や一般の人たちがつめかけ、夕方までに約3,000人が訪れるほど賑わいました。当日の様子を、新聞は「規模、設備ともに日本一のライブラリー」「岡崎の図書館とはうって変わった明るいデラックスなふんいき」と伝えています。

開館の様子は、「先輩に聞いてみよう！」でも紹介しているよ。
ぜひ読んでみてね！



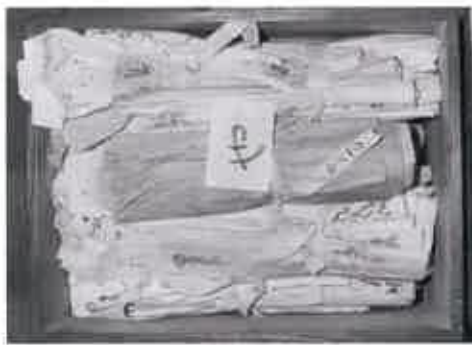
現在は無料の展示室も、当初は有料でした。



開館当時の料金表

展示室	大人 50 円・小人 30 円
	団体 (20 人以上) 割引あり
講堂	5000 円 (午前、午後とも)
小集会場	1000 円 (午前、午後とも)
特別研究室	一人 200 円
郷土研究室	一人 100 円
	(※小人は中学生以下)

東寺百合文書を受け入れる



【購入したときの東寺百合文書と桐箱】



1967 (昭和 42) 年、京都府は文化財保護の目的で、東寺から東寺百合文書を一

括購入しました。膨大な量の古文書が、古文書が入っていた桐の箱とともに総合資料館に運ばれてきました。

東寺百合文書は約 1 万 9 千点に及びます。さっそく、職員たちは整理をはじめ、壊れたり傷んだりしている古文書を補修し、目録を作り始めました。第一次補修事業は 1973 年まで続き、約 9 千点の古文書が補修されました。1976 年から 1979 年までに『東寺百合文書目録』(全 5 巻) も作りました。

1980 年からは一般にも文書を公開し、マイクロフィルム化事業をはじめました。

3 年間でおおよそ 8 万カットにも及ぶマイクロフィルムが作られ、これらを全て紙焼き写真にして製本し、写真帳として公開しました。こうして、多くの人が東寺百合文書を見

わあー！箱の中の文書を一つ一つ整理するのは大変な作業だわ。





【桐箱が並ぶ収蔵庫の様子】

現在、文書は新しく作られた、桐のたんす形式の文書箱で保存しています。



• 百年の歴史をまとめる



【現在も販売中！】

ることができる仕組みを整えてきました。

1980（昭和 55）年 6 月には国の重要文化財に指定されました。1983 年からは第二次補修事業がはじまり、約 1 千点の文書が国庫補助を受けて補修されました（1988 年度まで）。

そして 1997（平成 9）年 6 月には国宝に指定されることとなります。この間、総合資料館では東寺百合文書を人々に利用してもらえるような活動も続けてきました。東寺百合文書展を 20 回以上行い、館主催の古文書教室や古文書講習会等で、テキストに東寺百合文書を使用するなど工夫してきました。

2013（平成 25）年 1 月からは東寺百合文書をすべてデジタル画像にする作業に着手。2014 年 3 月から、ホームページで公開しています。



京都府が生まれたのは 1868

（慶応 4）年 閏 4 月 29 日です。1968（昭和 43）年は誕生し

てから 100 年目にあたります。そこで、京都府は 100 年記念事業として京都府の百年間の歴史をまとめて本にすることにしました。1965 年に事務の担当が総合資料館に置かれましたが、事業が本格的になると 1968 年に百年史編さん室が設置されました。

京都府立総合資料館友の会編発刊物一覧

刊行物名	発行年	発行部数	刊行物名	発行年	発行部数
京都府百年の年表	1972	1000	京都府百年の資料	1972	1000
京都府百年の資料	1972	1000	京都府資料所在目録	1972	1000
京都府関係雑誌論文目録	1972	1000	京都府市町村合併史	1972	1000
京都府統計史料集	1972	1000	京都府写真集	1973	1000
京都府民の暮らし百年	1973	1000			

※ 掲載の刊行物は、総合資料館の発行物で、他機関で発行されているものも含みます。

百年史編さん室では、資料館の職員と京都市内の大学の研究室が協力して、編集や執筆をしました。そして、『京都府百年の年表』全10巻、『京都府百年の資料』全9巻、『京都府資料所在目録』、『京都府関係雑誌論文目録』、『京都府市町村合併史』、『京都府統計史料集』全4巻などを刊行しました。100年記念事業が終わると、1972年6月に百年史編さん室も廃止されます。

それに代わって、総合資料館の資料部には、当館に移管されることになった京都府庁文書の整理・公開を行う行政文書課が設けられました。その後、百年史編さん室が集めた資料をもとにして、『写真集 京都府民の暮らし百年』が1973年に出されました。

販売価格は50年間変わってないんだって！
どうりで安い！



・収蔵庫が足りない！



【昭和54年頃の収蔵庫見取図 総合資料館文書98】



開館してまもなく、職員たちは資料を収蔵するスペースが足りないことに悩むようになりました。

1963（昭和38）年に開館したとき、第1収蔵庫（701㎡）がありましたが、1971年には第2収蔵庫（208㎡）、1973年には第3収蔵庫（706㎡）が作られています。

そして、1980年ごろになると、また書庫や収蔵庫が足りないことが大きな問題になりました。当時、永年保存の行政文



【収蔵庫へ続くエレベータ。現在も使われています】



【収蔵庫の扉】

集めた資料は保存する環境も大切なのね。



・京都文化博物館ができる

書は収納場所が足りず、通路に仮置きせざるを得ないほどでした。近世文書も、書庫や収蔵庫などあちこちに分散して保管していたため、整理したり利用する際に差し支えがありました。

それにしても、なぜこんなにも収蔵スペースが足りなくなるのでしょうか。もちろん、収集する資料の数が毎年増えるからなのですが、それに加えてそれぞれの資料は利用方法や保管方法が違うからです。

たとえば、図書のような文献資料は、利用者が読みたいと思いカウンターで請求したとき、すぐに提供できるような状態で書庫に並べておかななくてはけません。

一方、美術工芸資料は、形がさまざま。大きな絵画から扇子1本まで多種多様です。保管方法も資料によって違います。乾燥を好まない漆器や楽器類、反対に湿気が多い場所を好まない衣裳や油絵など、資料の性質に適した収蔵スペースが必要なのです。



1981（昭和56）年、京都府文化懇談会（座長：岡本道雄 京都大学名誉教授）の意見を受けて、平安建都1200年記念事業（平安京が造られてから1200年目を記念した事業の



【文化博物館の別館（旧日本銀行京都支店）】

総合資料館の博物館機能は、京都文化博物館に移ったんだね。

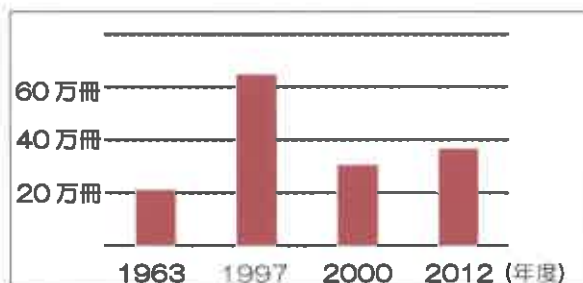


こと)の一つとして、京都の文化を紹介し伝える博物館を建設することになりました。

中京区三条高倉にある平安博物館の土地・建物が府へ寄贈されることになり、京都国体(1988年開催)の目玉の一つとして、京都の歴史や、京都在住の作家の作品を常に展示する博物館が建設されました。これにより、総合資料館が果たしていた、京都府の博物館機能は新博物館に移りました。

博物館は公立の施設でなく、財団法人が運営しますので、文化資料の管理と業務を管理委託する方式を取ることになりました。1988(昭和63)年4月から管理委託が始まり、同年10月1日、新博物館は京都府京都文化博物館として開館しました。

・ 府立図書館へ本を移す



【総合資料館の図書の数の変り変わり】



1997(平成9)年度から京都府立図書館を改築し整備する工事が始まりました。そこで総合資料館と府立図書館は機能を分けることになり、2000(平成12)年10月から総合資料館が持つ図書の約半分にあたる約30万冊分を府立図書館に移しました。このとき移した図書は、政治・経済や自然科学、文学などに関する一般向けの図書です。

総合資料館は、
「京都に関する専門資料館」
を目指しています！



・デジタル化を進める



デジタル化を進めながら、資料を使った大学・高校との連携事業も進めています。



現物の資料に触れる機会も大切にしているんだね。



この間、総合資料館はお休みをし、2001（平成13）年5月に再び開館しました。その後は、京都の歴史や文化、産業、生活等に関する資料を重点的に収集・整理・保存するようになりました。



ここ15年ほど、総合資料館では所蔵する資料をデジタル化する取組みを進めてきました。デジタル化とは、資料を電子情報にすることです。

デジタル化した資料は、これまでに「貴重書データベース」（2001年）、「京都北山アーカイブズ」（2004年）、「京の記憶ライブラリ」（2011年）として公開しました。そのほかに「行政文書アーカイブズ」や、大学の協力を得て作成したデータベース（「京都地誌データベース」など）もあります。

これらはその時々の方々のあり方や予算に応じて作られたものです。今振り返ると不十分な面も多いのですが、とにかく資料画像をウェブ上に公開することで、多くの方に資料に触れていただきたい、という思いと努力の積み重ねでした。2014年度末までに資料館では約30万コマの資料を画像にする予定です。

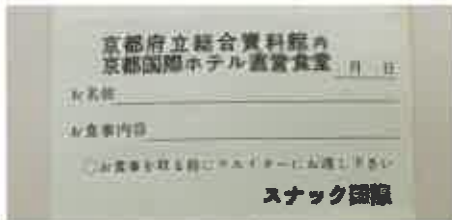
さらに、新資料館ではさらに画像数を増やして新しいデータベースを公開する

ために、現在総計 500 万件におよぶ書籍・古文書・行政文書・博物資料のメタデータ（目録）を整備しているところです。

コラム 開館当時の建物



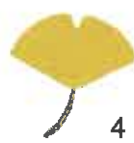
【開館時に使われていたダイヤル式の電話】



【かつては食堂がありました】



【現在ロッカーは3階の廊下にあります】



現在の総合資料館の建物は、鉄筋コンクリート造り、地上4階、地下1階建て、延べ床面積13,743平方メートルです。

1961（昭和36）年12月に起工式、1962年11月に定礎式、1963年11月15日に開館式が行われました。建物は富家建築設計事務所（富家宏泰氏）が設計し、清水建設が工事をしました。費用は当時のお金で約4億6千万円でした。

建物は東側が正面で、外から見ると太い柱と深い^{ひさし}庇があるのが特徴です。また、建物は中庭を挟んで玄関棟、北棟、南棟、西棟に分かれています。玄関棟、北棟は4階建て、南棟は地上3階、地下1階、西棟は2階建て、南棟1階・3階の南東側にはテラス、地下にはドライエリア（建物の周りを深く掘った空堀のこと）が作られました。

玄関棟は1階から3階まで吹き抜けの大階段があり、1階に手荷物を預けるロッカー室、3階に図書カードの検索をする目録室、4階に貸室の共同研究室がありました。

南棟は3階が400席もある図書の大閲覧室で、2階・1階を積層式書庫（簡単な

床板を挟んで縦に書架を積み重ねた書庫)にしました。1階の東側には東玄関と館長室、事務室、地下には複写室、機械室等を置きました。

北棟は1階を軽読書室、食堂、2階・3階を学習室、4階を350席の講堂、貸会議室など、西棟は1階を収蔵庫、2階を大展示室としました。中庭は関口鏝太郎氏（京都大学名誉教授）の設計による天橋立を題材にした庭園です。

正面入口である下鴨中通から玄関までの広場には、京都市電旧北野線で使われていた路面石が敷かれています。入口に立つ「京都府立総合資料館」と書かれた館名石は内藤乾吉氏の書です。



【開館当初から現在までのパンフレット】

前庭も中庭と同じ関口鏝太郎氏の設計です。幾何学的な植え込みに特徴があります。



コラム いろいろな展覧会



【展示室での解説の様子】



この50年の間、総合資料館で開いた展覧会は184回に及びます。絵画や民具、古文書、伝統工芸品、染織など様々なものを展示してきましたが、最も人気があった展覧会は、为什么呢。

それは、1973（昭和48）年に11月に開いた「京の百景展」です。わずか16日の展示期間に11,403人も人が訪れました。その後も「京の百景展」は何度も開かれましたが、毎回、大人気でした。そのほか、「写真に見る明治・大正の京都」（1982年2～3月）や、開館20周年記念の「洛中洛外図の世界展」（1983年10～11月）も8千人を超えるなど、とても人気を集めました。見るだけでも楽しめる絵画や写真は、多くの方に楽しんでいただけたようです。



【1964年に開かれた吉川観方コレクション「浮世絵総合展」のポスター】



【国宝東寺百合文書展のポスター】

1971（昭和46）年3月の「門外不出の名品による雛人形展」（展示期間27日）も、入場者数は1万人を超えました。逆に、1969（昭和44）年の「肖像画と風俗」（12月～1970年1月、19日間開催）のように、入場者数が千人に満たない展覧会もありました。理由はよくわかりませんが、展示の入場者数は季節や天候にも左右されるものです。

意外に思われるかもしれませんが、国宝の東寺百合文書展も入場者数が伸び悩む展覧会のひとつです。東寺百合文書は、50年の間に30回近く展覧会を開きましたが、昔の人が書いた字を読み解くことは訓練が必要ですので、多くの方は難しいと感じるようです。そこで、職員たちは古文書に親しんでもらうための努力も続け、今まで古文書講習会や古文書教室、古文書入門教室、古文書解説講座などを毎年開いてきました。

2014（平成26）年1月には、新しい試みとして、東寺百合文書をビデオやパソコンを使いデジタル展示を行いました。



【国宝東寺百合文書展のデジタル展示の様子】

先輩に聞いてみよう！

総合資料館OBインタビュー

2014（平成26）年1月16日の午後、総合資料館OBの佐橋寿郎氏にインタビューを行いました。佐橋氏は、総合資料館が開館する前の準備作業を経験されたあと、展示課長として業務にたずさわりました。1960年代の総合資料館の様子についてお話を伺い、当時のさまざまな資料を見せていただきました。

話者：佐橋寿郎氏（1933年（昭和8）生まれ）

聞き手：井口和起（総合資料館顧問）、川口朋子（庶務課新館担当）



【開館までの準備】

井口・川口：本日はよろしくお願い致します。

井口：さっそくですが、佐橋さんは、西村精一京都府立図書館長に指名されて、総合資料館の準備に携われたとか…。

佐橋：ええ、私は大学を出た後に昭和32年に府立図書館に就職し、分館勤務5年を経て整理係に勤めていたのです。総合資料館を作るという構想が当時あって、本庁の企画管理部（当時）が中心になって進めていました。（京都府立図書館の）西村館長は、総合資料館の建設懇話会のメンバーだったのです。館長と、前年から館長代理という形で実際上の準備責任者として本庁から転勤されて来た塩見悦夫さんに指名されて、総合資料館の準備委員会に入りました。

井口：準備委員会？ そのような名称ですか？

佐橋：いえ、西村館長と塩見さんが内部で作った委員会なので、特に名称はないです。“準備委員会”と呼んでいましたが。

川口：府立図書館のなかにだけあった委員会なのですね。それで、ずっと府立図書館に通いながら資料館の準備をされたのですか。

佐橋：図書館の館長室の一部を区切って、そこに詰めて仕事をしていました。準備委員会は、塩見さんが中心になって、メンバーは井上（裕雄）さんと竹中（靖雄）さん、浜辺（一彦）さん、小嶋（一夫）さん、基上（衛）さん、私ですね。昭和38年10月の人事異動で、私も府立図書館から総合資料館に移りました。そのときの辞令も何か役に立つかな思うて、今日は持ってきたんですけど。



写真1

井口：大切に保管されていたんですね。ああ、府立図書館は今でも教育委員会の管轄ですからね。教育委員会からの辞令で資料館へ移られたんですね。

佐橋：開館式は11月15日でしたけど、そのときに記念品をもらいました（写真1）。表紙を開くと、知事の言葉が書かれています（写真2）。

井口：河出書房の日本歴史年表ですか。来賓用に特注されたものでしょうね。

川口：知事の意気込みを感じますね。

井口：ところで、総合資料館には府立図書館の本をどれくらい移したのですか。

佐橋：ええ。西村館長は、府立図書館の発展的解消として総合資料館を考えておられましたから。府立図書館の蔵書は21万冊ありましたが、そのうち18万冊を総合資料館へ移しましたね。古文書3万1千点、行政文書2万3千点も一緒に移しました。



写真2

井口：なるほど。私が大学院生のころ、府立図書館にはずいぶん本がないように思っていましたけど、3万冊ぐらしか残っていなかったことになりますね。そんなに総合資料館へ移っていたんですね。

川口：準備委員会では具体的にどのような仕事をなさったのですか。今も新館の準備作業をやっていると、ソフト面、ハード面で本当にいろいろな仕事があるものだなあと感じているのですが。

佐橋：今もありますけど、中庭がありますでしょう。天橋立の景色に見立てた中庭です。

あれは、奈良の大和文華館に見学に行ったとき、中庭の周りのギャラリーに光りが差し込んでいて明るいし、これは良いと思って、総合資料館の中庭に取り入れたんです。

井口：大和文華館をモデルにしていたのですか。それは知らなかったですね。

【開館後の総合資料館】

佐橋：総合資料館ができた当時は、このあたりは何もなかったです。北大路通に市電が通っていましたが、北大路通から下鴨中通をずっと歩いてくるんですよ。北山通から北側はほとんど住宅がなかったですね。

川口：開館後はどのようなお仕事をされたのですか。

佐橋：展示物の収集・

管理・展示に携わりました。私と^あ舩健之助さん、広田長三郎さん（舩氏の友人）と三人で、生駒に^{みかづき}舩コレクションを受け取りに行きましてね。この写真は、昭和39年にそのコレクションを受け入れたときに知事一行を迎えた様子です



写真3 1964年 舩コレクション受入時の様子

左端から蛭川知事、企画管理部長、一人あけて秘書課長（左奥）、佐橋氏、総務課長、一人あけて庶務部長、資料館長、広田長三郎氏、舩健之助氏

（写真3）。蛭川知事が手前の左端におられて右端が舩氏です。

川口：知事が資料館に来て受け入れに立ち会っていたのですか。この部屋は、今の顧問室ですね。写真に写っている時計は、今でも同じ位置にありますし。

佐橋：もともとは、館長室だった部屋をカーテンレールで二つに仕切ったんです。

井口：舩コレクションとかいろいろな資料を収集して展示されたと思うのですが、そのなかで、この展示の仕事は面白かったとか、これは失敗したな、とかいう展示はありますか。

佐橋：私が携わった展示で、昭和39年の伝統工芸資料展は人気がありましたね。

川口：過去のデータを見ても、それは入場者数が特に多かった展示ですね。次の年の、第2

回伝統工芸資料展も随分人が集まったそうですし。

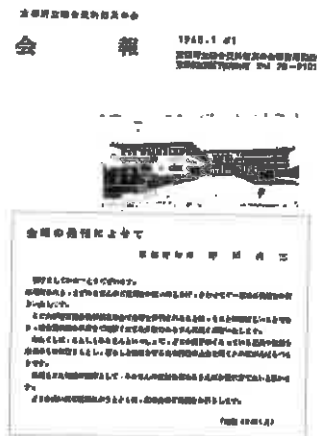
佐橋：そうなんです。それから、「風俗変遷展」（1963年11～12月）とか「風俗面の種類と浮世絵総合展」（1964年3月～4月）も関わりました。図録も作ったりしました。

井口：次に、友の会のこともお聞きしたいのですが。

佐橋：友の会は私が考案して発足させました。

井口：友の会を一から作ったのですか。どのような組織にしたのですか。

佐橋：いやあ、塩見図書部長から作れ作れと言われたので考えて作ったんです。後に井上頼寿（注¹）さんをお願いして代表というか世話人になってもらいました。昭和39年11月14日に友の会発会の総会をしました。会費の徴収とか出納も、私がやっていました。会費がいくらだったか、などは忘れましたが。これが、友の会の会報第1号です（資料1）。



資料1

井口：どのような活動をされていたのですか。

佐橋：みんなで（総合資料館内の）展示会を見たり、講座を開いたり。会報にあるように土器の実演を見に行ったり、いろいろしましたよ。

井口：基本的な活動は今の友の会と同じようですね。

川口：まだたくさんお話を伺いたいのですが、そろそろ時間がなくなってきましたので、現在進めているデジタル化について何かご要望があれば教えていただけますか。

佐橋：今やインターネットの時代ですし、資料の保存や発信にはパソコンが大切な役目を果たすと思います。でも、ぜひ原物の資料に触れる機会も大切にしてもらいたいと思いますね。

井口：やはり原物は違いますよね。

佐橋：ええ。本物の資料を見るということはとても大切だと思います。

井口・川口：本日はどうもありがとうございました。

（掲載写真・資料はすべて佐橋氏所蔵）

注¹ 1900年（明治33）～1979年（昭和54）。民俗学者。国学者井上頼圀の孫。京都府立二中（現在の鳥羽高校）、京都国学院講師。京都市教育委員会、総合資料館に嘱託として勤務。著書に『京都古習志』『京都民俗志』『近江祭礼風土記』。

特に人気のある資料

図書資料



総合資料館には現在 62 万点以上の資料があります。この中に特によく利用される人気者の資料がいるのです。さっそくご紹介しましょう！



① めいしょすえ名所図会、ちようかんず絵図、地図、鳥瞰図

- 江戸時代の京の町の様子を知りたい。
- 地形や土地利用の移り代わりが分かるものはありますか。
- 昭和 30 年代当時に住んでいた方を調べたいんだけど・・・。

菅田初三郎が作った鳥瞰図も人気があります。パノラマ風の観光案内図なので、眺めるだけで旅行気分！



このようなご質問は実はとても多いのです。『名所図会』・『町絵図』・『地形図』・『都市計画基本図』、『住宅地図』などをご紹介します。



②商工案内、人名録、電話帳

- 自分のルーツを探したい。
- 昔、ご先祖が京都の町で商売をやっていたんだけど、それが分かる資料はありますか。



【府内の住宅地図、ズラリ！】

このようなお尋ねもよくあります。そのときは、古い時代だと、商工業に関わっていた方などに対象が限られますが、各種の『案内記』、『商工人名録』、明治後期から所蔵している『電話帳』などが役に立ちます。

『住宅地図』も貴重な手掛かりです。

③官報、公報、路線価図

- 昔の法律や規則を調べたい。
- 昔、土地の値段はいくらだったの？



このような時には、官公庁などが刊行している『官報』『公報』『路線価図』を調べると分かります。これらの資料を調べる方も多く来館されています。

行政文書・古文書など

ほほーっ！この地図は北が右側ですね。



国絵図は江戸幕府が主要な大名に命じて作らせた旧国単位の地図だよ。



巨椋池は今の京都南インターチェンジ辺りにありました。でも、1941年に干拓されたので今はありませんよ。



やましろのくにすいけいず
①山城国水系図

享保年間（18世紀）頃の山城国絵図で、いくつもの川が流れる様子が描かれています。山城国とは、現在の京都府南部で、国絵図とは、国ごとに地形や村名、石高などを書いた絵図で、現在の県の地図のようなものです。

山城国水系図には、ほかの国絵図とは違う点がいくつかあります。まず、小さな楕円形が多く描かれていますが、楕円はそこに村があることを示しています。楕円の中に村名が書かれていますが、普通なら国絵図に書かれるはずの石高は記されていません。むしろ大きな川（木津川、宇治川、鴨川、桂川、淀川）の堤防や中州などを丁寧に描いており、地形や治水の情報を重視した絵図です。

図の左側には巨椋池も描かれています。巨椋池は、川の水位を調整する役割を果たしていました。また中央にある禁裏（京都御所）は金箔を使って描かれ、役人の名前も詳細に書き込まれています。





モボ・モガって、モダンボーイ・モダンガールの意味なんだって！へえ～。

②「新京極」(黒川翠山^{くろかわすいざん}撮影写真資料)

黒川翠山は明治末期から昭和初期(1900年前後から1940年ごろ)にかけて活躍した京都の写真家です。

この新京極の写真は、南から北を向いて撮影されています。レコードの宣伝看板に「^{まが}臉の母」、「^{まんや}艶歌流し」と書かれているのも見えます。「^{まが}臉の母」は昭和初頭の映画と関わり、また「^{まんや}艶歌流し」は高田浩吉が1936(昭和11)年に出したヒット曲であることから、その頃に撮影されたことがわかります。

手前の女性は^{はな}袴姿、後ろを向いている女性は洋装で、「モボ・モガ」の時代を思わせる資料です。



【寺院明細帳】

③「寺院明細帳」「神社明細帳」

千年の都として長い歴史を歩んできた京都には、仏教各宗派の大本山や格式の高い寺院をはじめ数多くの寺院があります。「寺院明細帳(全52冊)」は、1879(明治12)年から1882年頃にかけて、内務省の命令で京都府が管内寺院の所在地、宗派、坪数等を調べて作成したものです。寺院の来歴をたどることができる資料として幅広く利用されています。

神社についても同様に「神社明細帳(全23冊)」が作成されました。



わしの寺も載っているかな？

管理委託現物資料

管理委託現物資料とは、総合資料館の収蔵庫の中にある美術工芸品や風俗・民俗に関する資料で、京都文化博物館が管理している資料です。



① コレクションいろいろ

管理委託現物資料のなかにはさまざまなコレクションと呼ばれる資料たちがあります。

吉川観方コレクションは、日本画家で風俗史研究者でもあった吉川観方氏から寄贈された資料です。その内容は日本画、染織品、人形、装身具、調度品、古文書など実にさまざま。全部で約 15,000 点ほどあります。なかには、西川祐信「装通姫図」をはじめとする優れた美術品も数多く含まれています。

風俗研究者であった江馬務氏が集めた風俗や染織品の「江馬務コレクション」や、江戸末期以来の和楽器商、佐竹藤三郎氏が収集・復元した楽器資料「佐竹コレクション」、船健之助氏が集めた 12,000 点を超える日本・世界各地の郷土玩具、「船コレクション」も見逃せません。

② 池大雅美術館コレクション

1995（平成 7 年）と 2013 年には、財団法人池大雅美術館より、江戸時代の



【伏見人形の「猿」（舂コレクション）】



【美術品受け入れの様子】



【古清水 六角段重】

京都で活躍した南画家の一人、池大雅（1723～1776）の書画、関係資料を集めた「池大雅美術館コレクション」が寄贈されました。

重要文化財に指定された「柳下童子図屏風」や、「高士訪隠図屏風」、「天産奇葩画卷」、「芋字文」などの作品をはじめ、大雅の仕事を一通り知ることの出来る貴重な資料がそろっています。これらの資料は、京都文化博物館で毎年定期的に展示され、鑑賞することが出来ます。

そのほか清水焼の名工、清水家に伝来した歴代の清水六兵衛の作品など、江戸時代から現代に至るまでの歴代の作家たちによる、すぐれた美術工芸品もあります。

また、京都府が京都を代表する芸術家に依頼して制作した「京の百景」や「京の四季」、「いのち讃歌」、「こころの京都」などの絵画シリーズも収蔵しています。



【柳下童子図屏風】

資料を集める・紹介する

図書資料を集める



【団体の書庫調査風景】



【交付金による購入資料の一部】


図書資料は、書店を通じて購入するほか、個人や様々な機関・団体等から寄贈して頂いています。個人の方が蔵書を整理されたときや、団体などで廃棄する資料が生じたときには、依頼を受けて職員が調査にうかがいます。そして、資料を選び分けた上で収集するのです。

2010（平成23）年から2011年には、地域活性化策として国から本を買うための交付金が出た年がありました。この年には普段買えない高額の高額古書などを買いました。

図書資料を紹介する



・新着資料コーナー・資料紹介コーナー

 3階の図書閲覧室の隅には、新着資料やその時々のお話の話題を所蔵資料で紹介するミニコーナーをもうけています。これらのコーナーは、当館のメールマガジンやホームページの記事とも連動した職員の手作りです。

2013年度の場合、京都新聞連載記事とタイアップした「京滋文学道しるべ」、NHK大河ドラマに関して『八重の桜』にちなんで」などを開催しました。



京都府内の図書館職員向けに、総合資料館が力を入れている「レファレンス」のノウハウを活用した研修も行っているんだよ！



・デジタル発信



ご自宅でも当館の図書資料を利用して頂けるように、デジタル発信も進めています。当館のホームページにあるサイト、「北山アーカイブズ」や「京の記憶ライブラリ」などでは、いろいろな種類の絵図や、江戸時代に刊行された版本、写真資料を紹介しています。

また、外部の研究機関と協力して作成した「かわら版・芝居番付デジタルアーカイブ」や「京都地誌データベース」等もあります。ぜひご覧ください。



【寺子屋講座「知ろう！作ろう！北山杉」の様子】

・体験講座



小中学生も対象とする体験講座（現在は「寺子屋講座」の名称で実施）を2008（平成20）年からスタートさせました。所蔵資料を紹介しながら、「和算の基礎」「和本作り」「北山杉」「茶香服」など地域や歴史に関わるテーマを題材にした体験講座を行っています。

古文書を集める・紹介する



【上野家文書 整理の様子①】

・上野家文書



当館が所蔵する古文書は、ほとんど寄贈によって集めたものです。これらの古文書を利用者の方へ紹介できるようにするには、様々な事前準備が必要です。

例えば、2013（平成25）年9月、舞鶴市上野家に伝わった文書（約35,000点）



【上野家文書 整理の様子②】

資料を正式に受け入れる前には、いろいろな準備が必要です。まず「一時預かり」をしてどんな資料がどれくらいあるのか、目録を作ります。



【資料館に運ぶ前の近藤豊撮影写真資料】



【写真資料の目録を作る様子】

が当館に寄贈されました。写真①は正式に寄贈される前に行う調査の様子で、資料を館に運び入れ、資料の数や内容を調べています。まず1箱ごとに、資料のあらましと整理状況が分かるように表示します。その後、資料を正式に受け入れます。

次に、一般に公開できるようにするため、目録の内容と資料を照らし合わせて資料にラベルを貼る作業を行います。このような準備を経て、ようやくみなさんに利用していただけるのです（写真②）。

・近藤豊撮影写真資料

左の資料は、建築史家の近藤豊氏が撮影した写真など約10万カットの資料群です。管理していた近藤氏の遺族の方が府の文化財保護課建造物係に相談されたことがきっかけで、紹介を受けた当館が受け入れることになりました。

当館で一時預かりして目録を作成し、現在寄贈して頂く手続きを進めているところです。

資料は、建築物の部材やデザインを撮影したものがほとんどです。ほとんどすべての資料にいつどこで何を撮影したかが書かれています。撮影された場所も、京都を中心に全国に及び、中には韓国の貴重な建物の写真もあります。これほど克明に記録を残されている写真は他に存在しません。

行政文書を集める・紹介する



【行政文書 本庁での保管状況の一例】



【行政文書 整理中（館内）】

行政文書は、京都府の本庁等で作成または取得された公文書のうち当館に移管した物です。京都府の公文書は、簿冊ごとに保存期間が設定されています。保存期間が5年や10年などの有期限である公文書は、保存期間満了後原則として廃棄されますが、学術研究資料として価値が認められるものは、資料館へ引き渡されます。一方、保存期間が永年である公文書は、文書完結後25年が経過した時点で、資料館に移管されます。

移管した行政文書は、文書完結後25年経過後、目録等の整備ができたものから、一般の閲覧に供されます。

開館 50 周年を記念して



開館 50 周年となる 2013（平成 25）年は、総合資料館にとって大きな区切りの年になりました。そこで、「今まで」の資料館のあゆみをふりかえり、「これから」の資料館を考えるために、さまざまなイベントを実施しました。

■ トークセッション

2013 年 7 月 14 日



【車座になって話し合いをしました】



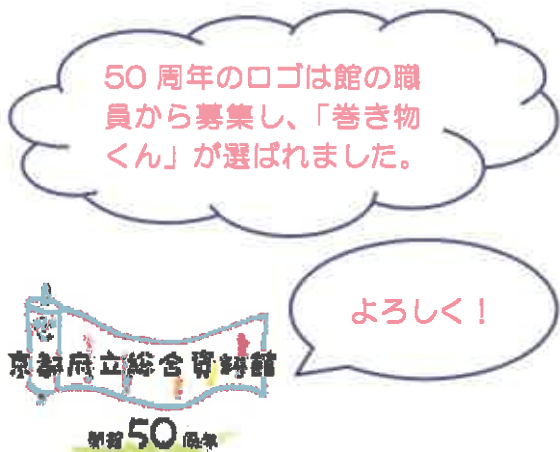
【オプションの書庫内ツアー。大人気でした】

開館 50 周年記念事業のはじまりとしてトークセッション「新資料館に期待する」を行いました。会場の様子を USTREAM（動画共有サービス）でウェブ中継するという試みもはじめて行いました。

トークセッションは、関西で活躍する若手の博物館員、図書館員、文書館員や大学関係者に、新資料館に期待する機能や役割について自由に話し合ってもらう場をつくるために開催しました。

図書館員、博物館員、文書館員それぞれの立場から意見が出されましたが、資料の形にこだわらず、広く資料や情報を集めて使いやすく発信し、人と人との出会いの場を作る役割を新資料館に望む、という意見が多くありました。

当日の会場には 61 名が集まり、ウエ



【50周年記念の統一ロゴ 巻き物くん】

ブ中継ではユニーク視聴者数（重複を除いた視聴者数）だけで101名（平均視聴時間約45分）となりました。事後のまとめや参加レポートに対する反響も多く、新施設に対する期待の大きさがうかがわれました。

■地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウムー山城地域の活動報告を中心としてー（地域史シンポジウム）

2013年9月29日



【山城地域の地域史シンポジウム(2013年9月)】

地域史シンポジウムは、京都府内で団体や個人が行っている地域史研究の活動を支えることを目的にしたシンポジウムです。活動の成果を地域に還元し、団体同士のネットワーク作りを進め、今後の活動の発展につなげていただくことを目指しています。

前回の地域史シンポジウム（2013年3月開催）では、洛北地域の研究報告が行われ、「地域の歴史を未来へ伝える」にはどのような方法があるかということが課題になりました。そこで、今回は山城地域で地域史研究を行う4名に活動報告をしていただきました。



【洛北地域の地域史シンポジウム(2013年3月)】

最後のディスカッションでは、このようなシンポジウムを今後も継続して行い、地域のネットワークを形成する必要性が再確認されました。

■ 国際京都学シンポジウム
「東寺百合文書のこれから
—ユネスコ記憶遺産に向かって—」

2013年10月14日



総合資料館主催（京都府立大学共催）の国際京都学シンポジウム「東寺百合文書のこれから—ユネスコ記憶遺産に向かって—」を京都府立大学で開きました。

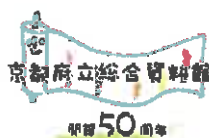
現在、当館が所蔵する東寺百合文書はユネスコ記憶遺産への登録を目指しています。シンポジウムの目的は、その勢いを盛り上げ、東寺百合文書の学術的価値や世界の「記憶遺産」としての価値を改めて見つけ出すことです。

シンポジウムでは、まず基調講演として、高埜利彦氏（学習院大学教授）が東寺百合文書が記憶遺産の登録を目指す意義などについて、アーカイブズの観点から話されました。次に、久留島典子氏（東京大学史料編纂所長）や富田正弘氏（当館OBで富山大学名誉教授）などが、日本中世史研究や東寺百合文書を調査・整理した観点からそれぞれ報告されました。当日は祝日にもかかわらず、200名近い参加者が集まり、熱心に聴き入りました。



■ 50周年記念シンポジウム
「総合資料館の50年と未来」

2013年11月16日



開館から50年と1日たった、2013年11月16日に50周年記念シンポジウム「総合資料館の50年と未来」を京都府職員研修・研究支援センターで開催しました。

7月のトークセッションの成果をもとに、シンポジウムのコンセプトを、従来の枠組みや資料の形にこだわらずに、広



【左から吉見俊哉講師と吉村和真講師】



【長尾真講師】

新資料館へ期待すること (シンポジウムのアンケートより)

- ・社会人でも利用しやすいように遅くまで開館して欲しい（近畿・40代男性）。
- ・館外から利用できるサービス。あまり来館できないので（近畿・40代女性）。
- ・読書スペースの確保を。学習室の確保を（京都市内・60代男性）。

く資料や情報を集めて使いやすく発信し、人と人との出会いの場を作る、つまり「資料・情報・人の交流の場」をどうつくるか、に設定しました。今後の当館の本質的機能はここにあるだろうと予想されたからです。

吉見俊哉氏（東京大学副学長）の基調講演では、2020年の東京オリンピックを見据え、ナショナル・デジタル・アーカイブを京都・東京・仙台に設置しなければならないと提言がありました。その後、吉村和真氏（京都精華大学マンガ学部長）からはマンガ研究を通じた社会、人間の世界を研究する重要性を、当館職員である松田方智子・岡本隆朗からはレファレンスの現場報告やウェブへ情報発信する重要性について、井口和起氏（当館顧問）からは資料館の歴史を振り返り、将来的にはフットワークを軽くし働きかける資料館になって欲しい、という提言がありました。

長尾真氏（京都大学名誉教授）からは、書誌学的・文献学的情報をも組み込んだデジタル資料の目録を充実させ、国際的な京都学構築への期待が語られました。

ディスカッションでは、デジタル技術を使い近代以降の文化施設の役割分担を再構成すること、地域連携の重要性、デジタル化の現実的な課題、人材育成と法的枠組みの再構築などが話し合われました。新館に対する期待と宿題を十分に果たせるか、さまざまな示唆が得られたシンポジウムになりました。

■ 国際京都学シンポジウム
「近代京都の学と美の新生—明治・大正期の日中文化交流の中から—」

2014 年 1 月 11 日

京都市国際交流会館イベントホールで国際京都学シンポジウム「近代京都の学と美の新生—明治・大正期の日中文化交流の中から—」を開催(総合資料館・京都府立大学主催)しました。

シンポジウムでは、中国の辛亥革命によって逃れてきた清朝の文人羅振玉と王国維が京都を舞台に内藤湖南や書画芸術界と交流するなかで、次々と生み出されていった新しい学と美、そして京都文化に与えた影響についての礪波護氏(京都大学名誉教授)、陳捷氏(国文学研究資料館教授)、林香奈氏(京都府立大学准教授)、西村隆氏(京都府立図書館資料課長)、杭迫柏樹氏(日展常務理事(書))から報告がありました。

20世紀初頭とえば、日中間では政治的対立が激化し、世界的にも戦争の時代に突入する時期です。しかし、日本と中国で花開いた豊かな文化交流は、政治的対立を超えて、近代京都の文化的背景に確かな影響を与えたことが確認されました。

会場には、羅振玉が京都府立図書館に寄贈し、現在は京都府立総合資料館に所蔵されている 13 点の貴重書も展示しました。参加された方は貴重な資料を興味深そうに見ていました。



【礪波護講師の講演の様子】



【シンポジウムのポスター】

■ 寺子屋講座

2013 年 8 月 1 日



【下書きをしたあと色を塗りました】

みんなとっても上手にできましたね。大人も子供も夢中になって作りました。



「寺子屋講座～夏を涼しく！京うちわ～」を開催しました。暑い夏はクーラーが欠かせませんが、京都では昔から使われてきた伝統的な京うちわがあります。

日本画家の鷗飼雅樹先生と子供たちが、京うちわの歴史を学びながら自分だけのオリジナルうちわをデザインしました。

小学校 4 年生以上の子供とその保護者を募集しましたが、キャンセル待ちが出るほどの人気で、申込みが殺到しました。子供たちに楽しんでもらおうと、担当職員は何度も先生と打ち合わせを行い、たくさんの色の絵の具や絵筆、絵の見本、資料、京うちわを用意しました。

当日は、子供も大人も京うちわ作りに夢中になり、カブトムシや京野菜を描いたカラフルなうちわが次々と出来上がりました。

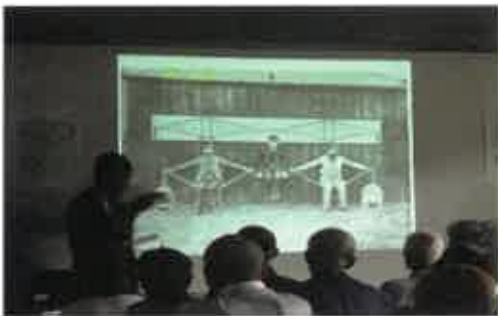
■ 京都学へのいざない講座 — 京都力を探る —

2013 年 10 月 6 日・23 日、11 月 19 日、2014 年 1 月 22 日

2016（平成 28）年度の国際京都学センター開設に向けて、2012（平成 24）年度から開催（総合資料館・京都府立大学主催）している講座です。毎年 1 つの共通



【第 1 回】高橋徹講師



【第 2 回】宗田好史講師



【第 3 回】露口卓也講師



【第 4 回】三橋俊雄講師

テーマのもと、4 回の講座（うち 1 回は現地見学）を開催しています。今年度は「京都のものづくりのチカラ」をテーマとして実施しました。

第 1 回（10 月 6 日）は先端技術を利用した古地図の楽しみ方、第 2 回（10 月 23 日）は蹴上浄水場の見学の後、琵琶湖疏水の建築技術についてお話いただきました。第 3 回（11 月 19 日）は大河ドラマ「八重の桜」にも登場する山本覚馬がいに京都の文明開化に関わったかについて。最後の第 4 回（1 月 22 日）は京都を代表する伝統産業である西陣織の美の世界についてお話いただきました。

先端技術、建築、産業政策、伝統工芸と、京都のものづくりの幅広さを実感する講座となりました。



第 2 回では雨のなか、蹴上浄水場の見学をしました。



【京都学へのいざない講座 ポスター】

■ 古文書入門教室

2013 年 12 月 24 日～26 日



2009 年から始まった古文書入門教室は、大人気の講座です。古文書の面白さを伝えたいと思い、頑張っています。



文書入門教室は、主に初めて古文書に触れる方をした講座で、2009（平成 21）年度から実施しています。講義は、古文書を読み解くにはどのような辞書を用いるのかということからはじまり、文書の管理の仕方、文書を扱うときの手洗い、保管箱の扱いかたなど、数々の重要な点を解説します。

さらに、近世文書によく出てくる崩し字や文体等を、実際の古文書の写真版を用いながら解説し、最終的には翻刻の基礎を講義します。

中世文書では、和漢文体と呼ばれる現代では用いない文章や語彙が多数出てきますので、原文と活字を照らし合わせながら講義が行われます。

毎年、会場に入りきらないほど大勢の申込みがありますので、抽選を行い 120 名の方に受講していただいています。当初は定員を 60 名としていましたが、多くの人に参加いただくため、京都府立大学の広い会場をお借りして開催しています。

■ 歴史資料解読講座

2014 年 3 月 4 日～6 日

歴史資料解読講座は、それまで行っていた歴史資料カレッジを衣替えした講座で、2012（平成 24）年度から開催しています。歴史資料カレッジでは史料を用いて歴史を読み解くことを目指した講座でしたが、歴史資料解読講座は、古文書



いつもたくさんのご参加、ありがとうございます！



入門教室に比べて上級者向けの講座とし、単に文字を読むだけでなく、紙・墨・印・花押、さらに紙のサイズや保管のされ方、紙の折り方なども含めた解説を目指します。

昨年度は、印章（はんこ）をテーマにした講義も行いました。今年度は、古文書等の歴史資料を通して、具体的に歴史を読むという点に再び重点を置き、近世における年貢の決め方や、京都府の行政文書（重要文化財）に見られる神社の社格や社号を示す石標の建立、さらに丹後国久美浜代官所関係文書を通して、古文書そのものを深く読むという内容にしました。

なお、この講座も大変人気があり、いつも教室がいっぱいになるため、今年か申込制（200名）にすることにしました。

■東寺百合文書展

2013年10月12日～11月10日

現物の展示と、資料のデジタル化と両方進めています。



当館2階展示室で平成25年度東寺百合文書展を開催しました。東寺百合文書は、ユネスコの記憶遺産登録に向けて推薦されることが2013年5月に決定しましたので、これに関連した内容の展示を行いました。

ユネスコの記憶遺産は、文書や書物、地図や音楽、写真、映画などの資料の存在や重要性を広く知ってもらい、保存活動を進めること、多くの人が簡単にこれらの資料にアクセスできるようにすることなどを目的としています。

そこで、今回の展示は、はじめて東寺

そのため、2014年3月、東寺百合文書をWEBでも公開しました！
URLはこちらです。
<http://hyakugo.kyoto.jp/>
ぜひ、ご覧ください！



百合文書をみる人にも興味を持ってもらえるような、わかりやすくかつ面白い展示を目指しました。中世以来、東寺で文書が保存・管理されてきたありかたや、世上の混乱などで文書が失われてしまう状況がわかるような文書をはじめ、著名な文書、一風変わった文書なども展示しました。

10月19日と26日には列品解説を行い、多くの方が参加されました。

■企画展 資料にぞくっ～昭和で25年・平成で25年を所蔵品でふりかえる～

2013年11月14日

～12月15日



この50年間に資料館が収集した資料は、図書が約36万点、文書が約20万点を数えます。この企画展では、これらの資料の中から「利活用資料について」「アンケート・リクエスト資料」「職員推薦資料」という3つのテーマで選んだものを紹介しました。



【列品解説の様子】

また、隣接する会議室で「みんなで作る50年史」展を開催しました。50年の年表を張り出し、来館者に自分の思い出を付箋に書きこんでもらい、資料館で使っていたなつかしの道具や、資料館建設時の模型と新館の模型などを展示しました。会期中、資料館内を回りながら建物の歴史を解説するツアーを実施しました。今も残るわずかな形跡から、資料館内にある大小さまざまな部屋の使い方の変遷などを説明しました。

新館に向けて

① 本ずづくりプロジェクト

2012年4月～2013年3月



【お茶のセミナー。お茶栽培農家や関係者からお茶や宇治の歴史を教えてください】



【ヨシ刈り体験。長さをそろえて刈ります】



【ヨシズ作り体験。縄はヨシより先に消耗するので現在は黒のPPロープでヨシズを編みます】

2012（平成 24）年度に、京都府立大学の京都府立大学地域貢献型特別研究として「学際的・国際的視点にたつ京都学構築のための方法的探求」（京都学 ACTR）が採用され、府立大学と資料館で共同研究を実施しました。そのなかで、「現代京都の今を記録する」という目的で、宇治茶の「本ず栽培」の記録と聞き取り調査を宇治で実施しました。

「本ず」とは、茶園を覆うヨシズ（ヨシを編んだもの）や稲ワラのことです。「本ず栽培」とは、茶の新芽が出る頃から茶園全体をヨシズとワラで覆い、一定期間直射日光を遮って育てる方法です。宇治市域で玉露や抹茶を生産するとき用いられ、400年以上続くとされる伝統的な栽培方法です。茶園を覆い光を遮ると、茶のうまみ成分となるテアニンが増え、鮮やかな緑色と独特の香り、まろやかなうまみ、甘みのあるお茶ができるのです。

プロジェクトでは、琵琶湖のヨシを刈り、ヨシズを作り、実際に茶畑に「本ず」を設置する過程に参加された皆さんと一緒に体験しました。聞き取り調査からは、「本ず栽培」や茶農家が直面する課題が明らかになりました。例えば、「本ず栽培」



【本ずの設置体験。茶園の上にヨシズを広げて光を遮ります】

を行う茶農家には大変な労力と手間がかかりますが、買入れ価格が低いため経済的に立ち行かないという証言がありました。また、近年は化学繊維を使用する農家が増え、「本ず栽培」の技術をどうやって継承するかも、問題になっています。「本ず栽培」を保存し、技術を継承していくために、行政機関はどのような施策を展開すべきか考えていくことが求められています。

② 地蔵信仰と地蔵盆の調査

2013年7月～2014年3月

文化庁の2013（平成25）年度「文化遺産を活かした地域活性化事業」の補助金をうけ、総合資料館内に組織した実行委員会が「京都の「地蔵」信仰と地蔵盆を活かした地域活性化事業」を実施しました。

この事業は、京都の「地蔵盆」を準備の段階から記録するとともに、京都市内のあちこちにある「地蔵」の分布調査を通して「地蔵」信仰の実態を明らかにしようとしたものです。調査では、京都の町に膨大な「お地蔵様」を祀った施設があり、地域の方に大切に守られていること、そうした「お地蔵様」を中心とした町共同体による行事「地蔵盆」が各地で行われていることが明らかになってきました。こうした、地域で「あたりまえ」の風景となっている「お地蔵様」や「地



【地蔵をカメラで記録します】



【準備の様子をカメラで記録します】

「地蔵盆」を通して、地域文化としての「地蔵」信仰の重要性を再発見していきたいと考えています。



【地蔵盆のためお化粧したお地蔵さま】

わあー！！
きれいな
お地蔵さま
がいっぱい！！



地蔵プロジェクトと
「本ず」プロジェクト
は、新資料館にできる
国際京都学センターの
準備の一つなんだね。



写真で見る総合資料館

昭和時代 1963～1989

1963（昭和38）年11月、図書資料の収集・整理・閲覧、現物資料の収集・整理・展示を主な業務として開館しました。1967年、「東寺百合文書」を受け入れると古文書業務もはじめ、1972年に京都府行政文書が移管されると、図書館機能・文書館機能・博物館機能を有する総合的な施設になりました。1988年に博物館業務を京都文化財団に委託しました。

○1963年9月 開館前の工事



【11月の開館に向けて着々と工事が進む】

○1963年11月 開館直前



【開館式を4日後に控えた総合資料館】

○1970年8月 古文書講習会を開始



【第4回古文書講習会の会場の様子】

○1971年1月 「資料館だより」第1号発刊



京都府・全国の出来事

- 1963 阪急京都線 大宮～河原町 開業
- 1964 東海道新幹線 東京～新大阪 開業
東京オリンピック開催
- 1966 ビートルズ来日
- 1968 東京都府中市で3億円事件
- 1969 アポロ11号人類初の月面着陸
- 1970 大阪府吹田市で大阪万博開催
よど号ハイジャック事件
- 1972 沖縄日本返還
田中角栄首相 訪中・日中国交正常化

○2002年6月 「京都府行政文書」が重要文化財に指定される



○2003年5月 「革嶋家文書」が重要文化財に指定される



○2004年4月 京都北山アーカイブズを公開



【京都北山アーカイブズの現在のトップ画面】

○2009年3月 「古久保家文書」が京都府指定有形文化財に指定される



○2012年12月 新総合資料館（仮称）実施設計完了



←【新総合資料館（仮称）のイメージ図】

京都府・全国の出来事

- ・1998 長野オリンピック開催
- ・2001 アメリカ同時多発テロ事件
- ・2002 サッカー・日韓ワールドカップ開催
- ・2003 新型肺炎SARS世界的流行
- ・2004 丹波町で高病原性鳥インフルエンザ発生
- ・2005 京都議定書発効
- ・2009 裁判員裁判始まる
- ・2011 東北地方太平洋沖地震、東日本大震災発生、国民文化祭を京都府で開催
- ・2012 東京スカイツリー竣工

資料編

1963年～2013年

(昭和38年～平成25年)

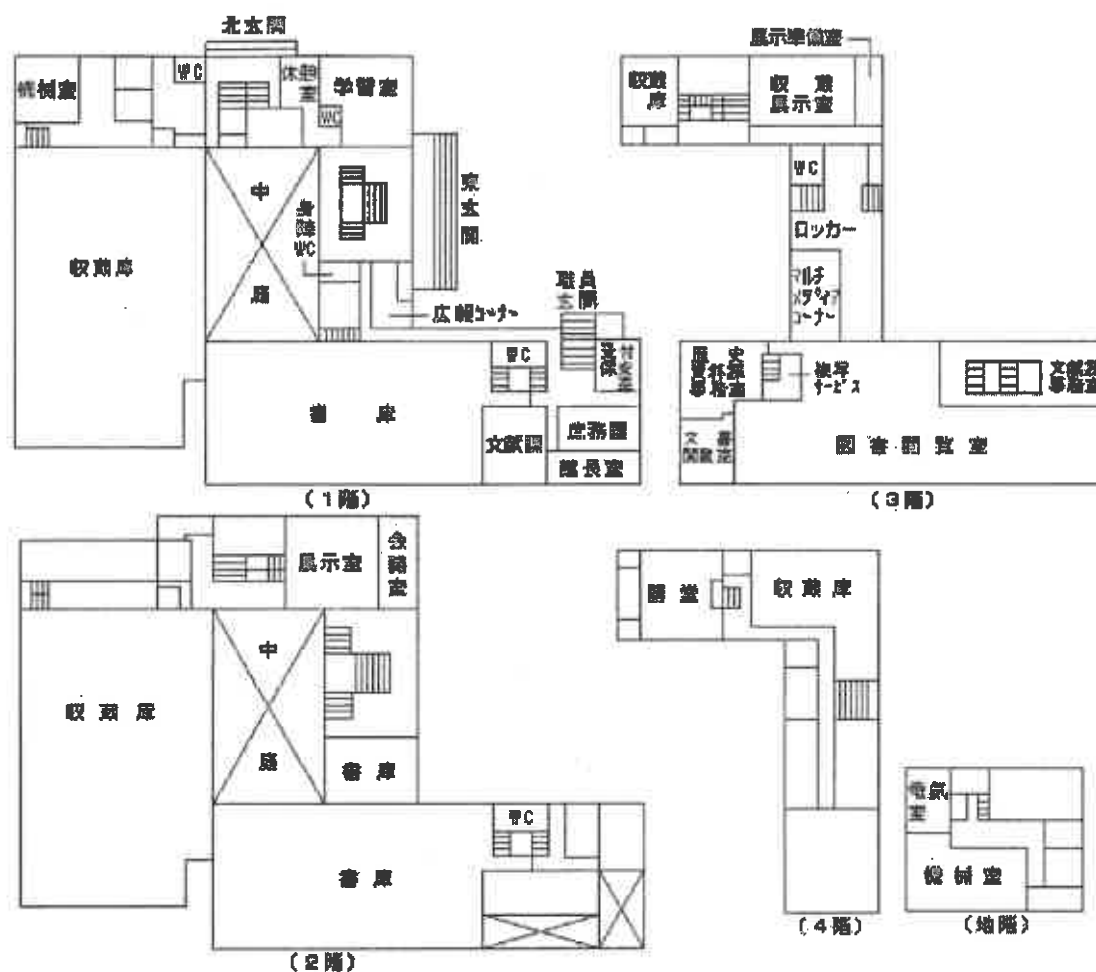
資料名	頁
施設の概要	65
京都府立総合資料館 50年史年表	66
年度別利用者数の推移	71
館蔵資料数の推移	72
主要所蔵資料	73
東寺観智院金剛蔵聖教調査実施状況	74
古文書所在情報調査実施状況	74
古文書実地調査実施状況	75
近世領主並びに近世村町別閲覧可能関連文書所在調査実施状況	78
民謡調査実施状況	78
昔話調査採集話数一覧	78
府内市町村行政文書保存状況・実態調査実施状況	79
展覧会開催状況	80
古文書講習会開催状況	84
古文書教室開催状況	85
古文書解読講座開催状況	88
古文書入門教室開催状況	89
講座開催状況	90
出張講座開催状況	94
歴史資料カレッジ開催状況	94
歴史資料解読講座開催状況	94
半木半読会開催状況	95
刊行物出版状況	95
館蔵資料の国宝等指定一覧	98
館蔵資料の所蔵状況	99
歴代館長一覧	99
総合資料館基本構想	100
北山文化環境ゾーン整備推進についての検討報告（一部抜粋）	110

■ 施設の概要

敷地面積	13,911.95㎡		
建物面積	4,501.57㎡	延13,743.33㎡	
建設費	建物及び造園工事費 54,178万円	内部設備費 15,007万円	
	計 69,185万円		
構造	鉄筋コンクリート	一部鉄骨	地上4階 地下1階

主要室の規模（平成26年3月31日現在）

1階		2階		3階		4階	
学習室	189㎡	展示室	194㎡	図書閲覧室	975㎡	講堂	327㎡(350席)
書庫	1,089㎡	書庫	1,045㎡	文書閲覧室	85㎡		
風俗資料室	116㎡	収蔵庫	478㎡	マルチメディアコーナー	65㎡		
収蔵庫	1,014㎡	第三書庫	335㎡	収蔵展示室	255㎡		



【館内配置図】

京都府立総合資料館	京都府 全国
1985 (昭和60) 年	
5.16 府内市町村図書館等を窓口とする館蔵圖書の複写受付業務を開始	1.18 国道9号バイパス新老ノ坂トンネル貫通式
1986 (昭和61) 年	
7.1 国立国会図書館所蔵圖書の閲覧利用サービスを開始	4.6 府知事に荒巻禎一が初当選 5.9 英国チャールズ皇太子同妃両殿下歓迎昼食会開催 8.4 知事とのさわやかサロン(第1回) 10.15 府ニューヨーク駐在員事務所開所式
1987 (昭和62) 年	
6.12 「古文書相談」を開始	3.1 日吉ダム移転者難村式 3.27 府総合見本市会館「パルスプラザ」竣工式 5.23 京滋バイパス宇治トンネル貫通式 8.3 建設省、府道天の橋立線を含む「日本の道100選」決定
1988 (昭和63) 年	
3.29 美術工芸・歴史民俗等の現物資料の収集、保存及び展示業務を京都府京都文化博物館(昭和63年10月開館)を運営する財団法人京都文化財団に委託するため、総合資料館条例一部改正条例(昭和63年条例第3号)を制定公布	4.24 舞鶴引揚記念館オープン
4.14 ブック・ディテクション・システム(図書持出防止装置)設置	6.11 京都市高速鉄道烏丸線・京都駅竹田駅間開通 8.29 国道1号京滋バイパス開通
4.18 文化資料課を廃止(庶務課(庶務係、経理係)、文芸課、歴史資料課の3課2係)。美術工芸、歴史民俗等の現物資料の収集、保存及び展示業務を財団法人京都文化財団に委託	9.4 京都国体夏季大会開会(〜7日)
9.30 京都府京都文化博物館の開館に伴い、「展示室」を廃止。「京都府行政情報資料センター」を廃止	9.12 府京都文化博物館完成式
10.1 京都府情報公開条例の施行に伴い「府政情報コーナー」を設置	
1989 (平成元) 年	
4.- 貴重書のマイクロフィルム作成事業を開始。廃止した展示室の書庫・文書庫への改修など収蔵施設の整備を実施	1.7 昭和天皇陛下崩御新天皇御即位 1.8 新元号「平成」と決定 5.13 府、土曜開庁スタート 6.1 京都SKYセンター発足 10.1 府、こども・家庭110番開設
10.20 第1回「文化講座」を開催	
1990 (平成2) 年	
9.13 第100回古文書教室を開催	3.6 第42回全国植樹祭シンボルマーク決定。府の草花に「嵯峨ぎく」と「なでしこ」決定 4.1 北近畿タンゴ鉄道(KTR)宮津線開業 4.9 琵琶湖疏水竣工100周年記念式典開催
10.8 古文書のマイクロフィルム公開を開始	
1991 (平成3) 年	
2.6 平成3年度近畿公共図書館協議会整理部門研究集会主催 5.- 明治期京都府庁文書(永年文書)の緊急修復事業を開始	4.19 ソ連ゴルバチョフ大統領入洛 7.23 府「老人性痴呆診断センター」を府立医大付属病院、府立与謝の海病院に開設
1992 (平成4) 年	
4.1 日本図書館協会に再加入。大閲覧室にセルフコピー機設置 7.1 京都府図書館等連絡協議会に加盟する図書館等との資料貸借業務を開始	1.7 ブッシュ米大統領入洛 4.15 府立堂本印象美術館オープン 9.12 学校週5日制スタート
1993 (平成5) 年	
4.1 定例休館日を毎月20日から毎月第2水曜日に変更 5.20 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会に設立加入 10.1 大閲覧室受付を三階へ移転 10.1〜7 開館30周年記念・ねんりんピック '93協賛「全国ふるさとの人形展」を開催 11.7 開館30周年記念事業「北山まつり」を開催	3.29 府立医科大学医学技術短期大学部校舎竣工 4.27 文化学術研究交流施設「けいはんなプラザ」竣工式 11.16 舞鶴港「前島みなと公園」竣工式 12.16 「京都府個人情報保護推進懇話会」第1回会議開催
1994 (平成6) 年	
1.14 コンパクトディスク版公開特許公報運用開始 6.4 「特別資料室」を開設し、吉田文庫を公開 10.27 文書館事情視察のため平日の中国国家檔案局訪日団が当館を視察 11.1〜平安建都1200年記念協賛事業として黒川翠山没後50年記念写真展30『京都、いまおかしー山と「KYOTO EYE」』を開催	2.10 府警「平安騎馬隊」が復活 3.8 国道372号亀岡・園部バイパス開通 3.24 「府立陶板名画の庭」竣工式 11.22 財団法人世界人権問題研究センター設立
1995 (平成7) 年	
10.16 韓国国立図書館公共図書館員研修視察団一行が当館を視察 11.1 第21回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会例会開催	11.5 府立大学開学100周年記念式典を開催
1996 (平成8) 年	
3.11 リパブル大学文書館館長 マイケル・クック氏来館 6.11 第100回古文書相談を開催	1.25 「110番指令センター」完成 3.12 府ホームページ開設 7.22 府、「食中毒(0-157)対策本部」を設置 10.1 「京都府個人情報保護条例」施行

京都府立総合資料館	京都府・全国
1997（平成9）年	
4.- 京都府立図書館の貴重書デジタル画像作成に資料提供	1.2 ロシアタンカー「ナホトカ号」沈没・重油流出
6.30 「東寺百合文書」が国宝に指定される	4.1 「京田辺市」市制施行
	7.12 新JR京都駅開業
1998（平成10）年	
3.31 「京都府知的著作権センター」開設により「特許資料室」閉鎖	7.28 府、「こころの健康推進員」を設置
12.- 閲覧可能な古文書の所在情報調査を開始	11.4 新府立図書館起工
1999（平成11）年	
1.11～ 文部省委託事業「社会教育施設情報化・活性化推進事業」による	5.25 府が地球環境大賞・優秀環境自治体賞を受賞
2.26 貴重書のデジタル化作業の実施	6.16 鴨川「花の回廊」竣工式
3.9 京都府蚕業センター所蔵文書調査	11.11 府、「財政健全化指針」を公表
3.24 琵琶湖疏水記念館所蔵文書調査	
4.- 京都府20世紀歴史資料保存事業を開始	
11.11 古文書講座が第200回を迎える	
2000（平成12）年	
2.26 荒巻知事らが府議会にて総合資料館の閲覧、展示機能の充実について言及する	4.1 介護保険制度開始
4.- 京都府20世紀資料整理事業を開始	7.24 京都府雇用促進協議会（第1回）を開催
9.30 「特別資料室」を閉鎖	11.28 府管水道宇治浄水場が環境ISOの認証を得る
10.1 京都府立図書館への図書資料の一部移管作業、館内施設整備等のため、大閲覧室及び学習室を休業	
12.28 文書閲覧室を含め全館休館	
2001（平成13）年	
3.23 「京都府行政文書」が府指定有形文化財に指定される	3.22 府、福井県と合同で原子力防災訓練をはじめて実施
6.11 京都府立図書館の新築開館に合わせ、当館も再開館（大閲覧室を図書閲覧室に名称変更、文書閲覧室を4階から3階へ移設、図書検索・貴重書画像閲覧の端末設置、木曜講座の開催等）	4.29 京都府迷惑行為防止条例施行
6.24 再開館記念「きょうと・歴史と文化の木曜講座」開始	
7.2 京都府図書館総合目録ネットワークシステムによる相互貸借を開始	9.10 京都府緊急雇用創出・就業支援本部を設置
10.9 国立国会図書館総合目録ネットワークに参加	9.11 米国同時多発テロ発生
11.- 再開館記念事業等のため休止していた古文書教室と古文書相談を再開	
2002（平成14）年	
5.23 「総合資料館府民講座」を開始	1.10 知事・議長公用車等に低公害車を導入
6.26 「京都府行政文書」が都道府県行政文書として日本で初めて重要文化財に指定される	1.28 中小企業経営改善借換融資制度を府・市協調により創設
7.19 ホームページを開設	4.7 府知事に山田啓二が初当選
11.26 「古文書解説講座」を開始	10.7 国立国会図書館関西館開館
12.- 「京の文化振興プラン（その1）-京都府が所蔵・保管する貴重な資料の活用方策-」策定	10.25 京都府児童虐待防止ネットワーク会議を設立
2003（平成15）年	
3.6～18 貴重書デジタル画像追加作成のため府立図書館へ貴重書貸出	3.6 府、外郭団体の見直し指針を公表
5.29 「革新家文書」が重要文化財に指定される	6.16 重症急性呼吸器症候群（SARS）に係る「京都府感染症緊急対策本部」設置
10.23 京都府が整備した「京都デジタル疎水ネットワーク」の光ファイバー回線と「みあこネット」（NPO法人運営）を連携させた公衆無線インターネット接続サービスを開始	6.30 京都府母子家庭等自立支援センター開設
11.- 開館40周年を迎える	8.1 府、ヤミ金融専用相談窓口開設
11.80 開館40周年記念「総合資料館名品展」を実施（～12.7）	
2004（平成16）年	
3.26 東寺百合文書複製史料集第1巻を刊行。記念シンポジウムを開催	1.11 府と京都市が防災協定締結
4.1 総合資料館所蔵資料データベース「京都北山アーカイブズ」の公開開始	4.1 丹後6町の合併により京丹後市が発足
	10.2 府立植物園開園80周年記念式典開催
	12.10 府庁旧本館、国の重要文化財指定
2005（平成17）年	
3.31 京都北山アーカイブズに資料7400点を追加、公開	2.16 「京都議定書」発効
10.14 蔵書検索端末OPACが変わる	4.17 京都迎賓館が開館
	5.29 京都府災害ボランティアセンター設立
	10.7 祇園・木屋町特別警察隊発足
2006（平成18）年	
3.1 天賦文庫関係資料の第一次公開を開始（約6千点）	1.1 福知山市と三和・夜久野・大江の3町が合併し、新「福知山市」発足。園部・八木・日吉・美山の4町が合併し「南丹市」発足
5.1 京都北山アーカイブズにさらに資料7430点を追加、公開	6.3 京都文化博物館別館築100周年記念事業（～7.2）
10.6 総合資料館メールマガジンを創刊（隔週水曜日に発行）	8.24 府立医大病院をがん診療連携拠点病院に指定

京都府立総合資料館	京都府・全国
2007（平成19）年	
3.15 京都府庁旧館創建時等写真資料の公開開始	4.1 京都府景観条例施行
4.10 ホームページに「デジタル展覧会」を新設	4.3 総合就業支援拠点「京都ジョブパーク」オープン
5.23 第一回総合資料館あり方検討委員会 開催	5.9 府庁NPOパートナーシップセンター開設
12.- 総合資料館あり方検討プラン策定	7.1 京都府消費生活安全条例施行
	8.3 丹後天橋立大江山国定公園指定
	10.29 京都府発達障害者支援センター開設
2008（平成20）年	
7.- 「四百年前社寺建物取調調査」を公開開始	4.1 京都府公立大学法人発足
9.12 源氏物語千年紀関連講演会を開始	6.18 府、ネットいじめ通報サイト開設
2009（平成21）年	
1.- 総合資料館基本構想を取りまとめる	3.24 府本庁舎に太陽光発電装置設置
3.24 「古久保家文書」が府指定有形文化財に指定	4.1 京都府電気自動車等の普及の促進に関する条例施行
3.27 府立大学、府立植物園、府立総合資料館の3機関が包括協定を締結	7.29 府、消費生活相談の専門家らによる「消費者あんしんチーム」を設置
8.26 「古文書入門教室」を開始	10.9 「第26回国民文化祭・京都2011」PR隊長「まゆまる」デビュー
9.10 「歴史資料カレッジ」を開始	10.16 京都府高等学校等就学支援基金創設
10.17～ 植物園、府立大学と共同で包括協定締結記念事業「北山から未来へ」を開催	
11.26 を開催	
10.29 民主党京都府議団事業仕分けの対象となる	
10.- 「北山文化環境ゾーン整備推進についての検討報告」策定	
2010（平成22）年	
5.- 『「北山文化環境ゾーン整備委員会」における検討状況について』公表	6.1 府、電気自動車等によるエコ観光をPR（～12.31）
11.1 書籍『古典籍へようこそー京都府立総合資料館の書庫からー』を出版	6.28 府林業トレーニングセンター開設
11.24～ 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 京都大会（事務局担当）	10.8 新京都府環境基本計画の策定
25	
	11.21 第100回知事と和のいミーティング開催
	12.1 関西広域連合設立
2011（平成23）年	
4.6～12 災害ボランティアを福島へ派遣	1.1 新たな府政の運営方針「明日の京都」スタート
7.1 画像データ閲覧システム「京の記憶ライブラリ」を公開	3.11 東日本大震災発生
10.16～ 国民文化祭・京都2011開催記念企画展「目で見る京都の今昔ー写真でたどる京都の変遷ー」	3.18 京都府がん対策推進条例施行
	3.22 東日本大震災 京都府緊急経済等対策本部設置「京都シャトルバス」（福島～京都）運行開始
	4.1 京都府暴力団排除条例施行
2012（平成24）年	
5.16 国際京都学センターの設立準備のための京都府立大学と総合資料館の共同研究（ACTR）の第1回研究会を開催	4.6 文化庁の関西分室（関西元気文化圏推進・連携支援室）が府庁旧本館へ移転
10.2 国際京都学センター設立へ向けて「京都学へのいざない講座」を開始	9.2 東海・東南海・南海の3連動と直下型地震を想定した総合防災訓練を実施
12.8 「国立公文書館所蔵資料展 公文書の世界in京都」を開催（～12.23）	9.10 京都第二外環状道路全線貫通祝賀式が開催される
11.10 「本づくり」プロジェクトを開始（～2013年3月）	12.10 京都大学・山中伸弥教授がノーベル医学・生理学賞受賞
2013（平成25）年	
5.21 館所蔵の国宝「東寺百合文書」が、ユネスコ記憶遺産の登録候補として日本ユネスコ国内委員会ユネスコ記憶遺産選考委員会から推薦されることに決定	2.28 府、微小粒子状物質（PM2.5）が規定値を超えると予測される場合に注意喚起を行うことを開始
6.24 総合資料館開館50周年記念ロゴ「きものくん」デビュー	8.15 福知山市の花火大会で爆発事故発生
7.4 新総合資料館新築工事を契約（8.1工事開始）	6.22 富士山が世界文化遺産に決定される
7.14 開館50周年記念事業のはじまりとしてトークセッション「新資料館に期待する」を実施	8.30 祇園祭の山鉦巡行が来年から先祭と後祭に分離することが決定
7.- 地蔵信仰と地蔵盆の調査（地蔵プロジェクト）を開始（～2014年3月）	12.4 「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコの無形文化遺産に登録決定される
10.14 国際京都学シンポジウム「東寺百合文書のこれからーユネスコ記憶遺産に向かってー」を開催	
11.16 50周年記念シンポジウム「総合資料館の50年と未来」開催	
2014（平成26）年	
1.11 国際京都学シンポジウム「近代京都の学と美の新生」を開催	4.1 消費税が8パーセントになる
3.3 東寺百合文書WEB公開開始	

■ 年度別利用者数の推移

年目	年度	開館日数	閲覧室等 利用者数	学習室	展示室 (企画展)	貸室 (講堂・展示室・研究室)	利用者数 計	各種資料相談 (図書・古文書)
1	昭38	107	43,469	42,333	10,609		96,411	5,197
2	昭39	288	107,319	71,801	22,230	28,445	229,795	7,928
3	昭40	298	138,042	76,336	21,919	35,584	271,881	11,993
4	昭41	278	155,351	88,402	26,504	24,852	295,109	13,651
5	昭42	297	160,221	92,468	19,679	22,141	294,509	15,849
6	昭43	298	154,662	78,735	20,491	58,843	312,731	15,453
7	昭44	296	160,823	69,545	21,251	21,365	272,984	12,229
8	昭45	297	137,187	53,921	18,219	36,761	246,088	11,495
9	昭46	297	140,924	50,307	60,577	41,011	292,819	10,833
10	昭47	285	134,620	32,766	40,197	18,482	226,065	10,405
11	昭48	275	141,772	不明	55,666	32,043	229,481	10,813
12	昭49	277	120,594	47,800	47,924	34,202	250,520	8,542
13	昭50	278	103,849	49,645	41,611	16,756	211,861	7,691
14	昭51	284	105,792	44,323	44,035	10,375	204,525	5,882
15	昭52	283	116,688	53,734	35,961	10,563	216,946	4,688
16	昭53	286	120,294	52,850	40,449	9,988	223,581	6,029
17	昭54	295	116,703	63,886	46,428	12,799	239,816	6,440
18	昭55	285	115,129	53,759	43,320	9,264	221,472	6,327
19	昭56	281	116,063	58,580	31,698	18,990	225,331	8,141
20	昭57	324	124,197	70,118	51,995	15,911	262,221	8,885
21	昭58	312	109,613	53,092	30,102	9,205	202,012	7,450
22	昭59	317	111,073	58,842	41,754	13,916	225,585	7,587
23	昭60	320	121,690	59,074	36,652	9,783	227,199	7,594
24	昭61	322	118,503	53,599	41,585	11,278	224,965	6,648
25	昭62	312	109,334	49,558	23,972	12,137	195,001	5,230
26	昭63	319	95,226	51,121	1,533	2,955	150,835	5,918
27	平元	312	89,815	43,904	2,113		135,832	5,386
28	平2	321	99,059	44,592	1,116		144,767	6,667
29	平3	322	100,431	51,123	1,840		153,394	8,838
30	平4	323	101,407	48,120	1,629		151,156	8,646
31	平5	321	99,793	46,402	5,486		151,681	8,826
32	平6	318	111,202	42,248	6,199		159,649	8,221
33	平7	322	119,220	40,134	6,245		165,599	11,866
34	平8	320	118,889	34,876	5,983		159,748	11,440
35	平9	322	116,089	30,197	4,905		151,191	9,607
36	平10	320	112,749	30,289	4,176		147,214	11,396
37	平11	321	112,935	32,570	2,127		147,632	8,709
38	平12	159	58,189	17,489	4,385		80,063	3,980
39	平13	297	118,005	28,284	9,431		155,720	14,351
40	平14	319	122,878	30,308	7,494		160,680	16,595
41	平15	323	120,106	32,720	6,810		159,636	15,560
42	平16	320	65,015	30,444	6,263		101,722	15,898
43	平17	318	60,209	26,382	6,191		92,782	14,022
44	平18	319	56,156	25,652	5,106		86,914	13,680
45	平19	320	54,897	27,924	4,870		87,691	13,070
46	平20	316	54,088	27,908	6,672		88,668	13,886
47	平21	318	55,459	26,694	4,214		86,367	13,438
48	平22	318	59,354	28,074	4,854		92,282	12,434
49	平23	320	58,054	29,215	6,002		93,271	12,865
50	平24	319	57,298	27,275	6,328		90,893	13,427
合計							9,094,295	

注) 閲覧等利用者数には、図書閲覧室(大閲覧室)・経読書室・行政情報資料センター・特別資料室・文書閲覧室の利用者及び各種講習会・講座等への参加者を含む。

■ 館蔵資料数の推移

区分	図書資料	古文書	行政文書	近代文学資料	写真資料	その他 現物資料 (文書資料)	その他 現物資料 (図書資料)	現物資料 (管理委託資料)	行政情報資料	合計
昭和38年度	207,727					8,000				218,727
昭和39年度	222,589					24,289				246,878
昭和40年度	239,055					27,171				266,226
昭和41年度	251,116					27,751				278,867
昭和42年度	266,814					27,997				294,811
昭和43年度	281,716					31,175				312,891
昭和44年度	294,222					31,835				325,857
昭和45年度	308,185	20,485				32,009				380,679
昭和46年度	318,599	20,518				33,193				372,310
昭和47年度	329,323	22,174	不明			33,518				385,015
昭和48年度	338,436	22,204	15,880			36,631				413,151
昭和49年度	357,552	24,152	16,330			38,464				436,498
昭和50年度	363,910	24,152	17,458			39,023				444,543
昭和51年度	377,423	25,617	16,508			39,686				459,234
昭和52年度	388,341	25,736	17,423			40,462				471,962
昭和53年度	398,917	25,739	18,515			41,393				484,564
昭和54年度	412,992	25,789	19,608			41,542				499,931
昭和55年度	425,267	26,786	20,439			43,453				517,944
昭和56年度	435,376	30,086	21,389			43,718				530,558
昭和57年度	445,937	31,310	22,994			43,935				544,176
昭和58年度	454,977	34,113	23,616			44,150		4,300		561,156
昭和59年度	471,793	34,289	24,330	557		44,300		6,990		581,639
昭和60年度	482,544	35,014	25,149	557		44,671		8,206		596,141
昭和61年度	494,161	36,264	25,166	657		44,671		11,916		612,935
昭和62年度	506,170	36,409	27,299	1,048		45,101		14,928		630,953
昭和63年度	517,219	36,501	29,357	1,048		5,254	1,232	39,349		629,990
平成元年度	527,136	36,549	31,589	1,048		5,261	1,247	40,897		643,727
平成2年度	545,295	36,638	34,098	1,048		5,264	1,249	40,985		664,557
平成3年度	555,983	37,795	35,474	1,048		5,264	1,249	41,025		677,838
平成4年度	565,880	39,285	36,747	1,048		5,264	1,249	41,107		690,580
平成5年度	575,635	39,380	39,296	19,330		5,264	1,289	41,537		721,731
平成6年度	618,278	41,784	40,434	19,330		5,264	2,448	41,899		769,185
平成7年度	627,152	41,841	42,891	19,330		6,161	2,446	41,740		781,581
平成8年度	636,133	43,782	44,393	19,330	6,957	290	2,446	42,074		795,105
平成9年度	645,317	43,682	45,195	23,782	6,957	290	2,446	42,151		809,720
平成10年度	640,194	45,843	45,717	23,782	6,957	290	2,446	42,431		807,360
平成11年度	646,743	45,894	49,154	23,782	6,957	290	2,446	42,488		817,434
平成12年度	302,309	47,529	50,553	23,782	6,957	290	2,446	42,516		476,082
平成13年度	307,119	66,924	53,484	23,782	6,957	256	2,446	42,764		503,422
平成14年度	312,811	69,742	55,018	23,782	6,957	256	2,446	50,962		521,664
平成15年度	317,574	69,905	56,838	23,782	6,957	256	2,446	51,011		526,369
平成16年度	323,662	69,947	58,371	23,782	6,957	256	2,446	51,081		536,202
平成17年度	328,100	80,554	59,961	23,782	6,957	256	2,446	51,132		552,888
平成18年度	333,651	81,735	61,547	23,782	6,768	256	2,446	51,248		561,433
平成19年度	338,686	83,910	67,713	23,788	6,768	256	2,446	51,258		574,834
平成20年度	343,800	85,398	73,550	23,788	6,768	256	2,446	51,317		587,313
平成21年度	349,170	85,533	76,140	23,788	6,768	256	2,446	51,365		594,466
平成22年度	354,088	89,674	79,908	23,788	6,770	256	2,446	51,745		607,575
平成23年度	359,049	90,963	79,376	23,788	6,959	256	2,446	51,774		614,511
平成24年度	364,226	91,599	81,955	23,788	6,959	256	2,446	51,793		622,922

■ 主要所蔵資料

1 多種多様な貴重資料

① 東寺百合文書 (国宝)	教王護国寺(東寺)に伝えられた文書群で、奈良時代から江戸時代初期までの約1,000年間にわたる約2万点の文書からなる。内容は、寺院組織を運営していく上で作成された多様な文書で、会議の議事録、所領を巡る裁判、所領の経営等に関する書類など多岐にわたり、日本中世史研究の基本史料として、質量ともに最も優れた文書史料の一つである。昭和42年に京都府が文化財保護を目的に購入し、平成9年6月に国宝に指定されている。
② 貴重書	慶長(1615年)以前の和書、明代以前の唐本等、資料的価値の高いもの約600点、4,400冊を貴重書に指定している。経営、仏書、歴史・地誌、風俗、数学、医学、美術工芸、文学などジャンルは幅広く、中でも『平家物語』については多くの写本や古活字版を所蔵し、全国的に知られている。また、このほかにも約6万5千冊の和漢書(準貴重書)を所蔵している。
③ 京都府行政文書 (重要文化財)	京都府の公文書で、府の政治、行政、文化等を明らかにする貴重な資料群である。その伝来の経過から「京都府庁文書」(京都府立庁当時から昭和21年度完結分までの永年保存指定文書)、「府庁史料」、「郡役所文書」、「豊岡県第14・15大区区務所文書」、「宮津藩政記録」の文書群15,407点が、「京都府行政文書」として、平成14年6月に、自治体で初めて国の重要文化財に指定された。

2 寄贈を受けた主な個人コレクション

① 革嶋家文書 (重要文化財)	京都市西京区川島の革嶋家に伝来した鎌倉時代から大正年間に至る2,129点の文書で、昭和49年に故革嶋康三郎氏から寄贈を受けたものである。 この文書は、代々革嶋南庄の下司職を相伝した革嶋家の盛衰800年に及ぶ歴史を物語る文書であるだけでなく、京都近郊の中世在地領主及び近世庶人身分のあり方、あるいは幕末尊攘運動の様子を示す貴重な資料であり、平成15年5月に国の重要文化財に指定された。
② 古久保家文書 (府指定有形文化財)	江戸時代、京都町奉行所と京都市中の町との間の諸事務を勤め、上京下西陣組の上町代であった古久保家に伝来した慶長4(1599)年から明治年間に至る318点の文書で、昭和46年以降3回にわたり、故古久保末雄氏らから寄贈を受けたものである。 京都町奉行所から出された命令である御触を書き留めた御触留や、京都町奉行所内の公事番所の勤番日記等があり、平成20年3月に府の有形文化財に指定された。
③ 中井家文書	江戸時代、幕府の京都御大工頭を務めた中井家に伝来した、慶長7(1602)年から明治4(1871)年に至る597点の文書である。 主な文書は、内裏御所、公家屋敷、城郭・武家屋敷、寺院・神社の指図のほか、洛中絵図、公家町絵図などがある。
④ 天眠文庫資料 <small>テンミン</small>	青年時代に文学を志し、後に大阪の実業界で活躍した小林政治氏(号天眠)が、明治中期から昭和にかけて手元に残した約2万点にのぼる資料群で、昭和59年9月に天眠翁の長女植田安也子氏を代表とする御遺族7名の方々から寄贈を受け、その後、翁の孫小林昭治氏、さらに植田安也子氏の長女植田眞理子氏から寄贈・寄託を受けたものである。 青年期の文学活動の中で、生涯を通じての友となる与謝野寛・晶子夫妻と出会い深い交流を通して残された資料群のほか、明治・大正期の関西を中心とした文壇関係や文学者の資料、文学出版社として名を馳せた天佑社資料なども含まれ、明治・大正期の貴重な文学資料となっている。
⑤ 吉井勇資料	吉井勇は明治から大正、昭和にかけて活躍した歌人、劇作家、小説家。晩年は京都を拠点としながら、短歌、戯曲、小説、随筆などの著述を残し、また、数多くの文化人と交わったが、その中で蓄積された資料群。書状、原稿、写真、書籍、雑誌、吉井の日記や手帳類、そして彼が収集したと思われる書画などがある。とくに書状には谷崎潤一郎、川端康成、佐藤春夫、志賀直哉、佐佐木信綱などの文学者に加え、上村松園、横山大観、湯川秀樹などの画家や学者たちからの手紙も含まれている。
⑥ 吉田光邦文庫	元京都文化博物館長・京都大学名誉教授の故吉田光邦氏の蔵書で、図書約2万9千冊のほか、大量の雑誌・パンフレット類を含む計約3万3千冊に及ぶ。自然科学から社会科学、哲学・思想、美術工芸・デザイン、近代製造業、職人・芸術家の伝記、社史や各種団体誌などの総合的なコレクション。平成4年1月、子息吉田茂博氏から寄贈を受ける。
⑦ 黒川翠山撮影写真資料 <small>スイザン</small>	明治15年、京都市上京区の呉服商を営む家に生まれたが、写真家を志して独学で撮影技術を習得し、明治末期から昭和初期にかけての京都を中心とした社寺、名所、祭礼、風俗、街並み等を撮影したガラス乾板(無色透明のガラス板に光を感光する銀塩の乳剤を塗ったもの)約2,000点を所蔵している。
⑧ 吉川観方コレクション (昭和63年4月から (財)京都文化財団に管理委託)	日本画家であり、著名な風俗研究者でもあった故吉川観方氏から寄贈を受けたもので、近世後期の京都の美人画作品、染織資料(約1,200点)のほか、吉川氏が70年余にわたって収集した公家、武家、町衆、僧侶、神官等の服飾、玩具、武器、書画、図書、古文書類など京都における風俗の流れを知る上で欠かせない資料(約1万5千点)となっている。
⑨ 臚コレクション	京都在住の故臚健之助氏が、昭和初期から半世紀をかけて収集した郷土人形(京都の伏見人形をはじめ日本国内全域を網羅し、東アジア等外国の人形もある)や玩具のコレクションで、昭和39年以降、4回にわたって寄贈を受け、総数は12,177点にのぼる。

■ 東寺観智院金剛蔵聖教調査実施状況

年度	回数	調査期間	調査数量		
			箱	件	点
昭48	1	49.3.22~3.27	19	86	329
昭49	2	49.5.28~6.6	19	414	705
	3	49.9.22~9.28	17	126	567
昭50	4	50.9.28~10.4	14	104	311
	5	51.3.22~3.27	16	265	507
昭51	6	51.5.16~5.22	10	316	422
	7	51.9.27~10.2	13	417	1,134
昭52	8	52.5.23~5.28	9	253	422
	9	52.9.19~9.24	11	371	775
昭53	10	53.5.29~6.3	10	285	471
	11	53.9.25~9.30	9	283	488
昭54	12	54.7.30~8.4	9	288	390
	13	54.9.25~9.29	9	388	506
	14	55.2.5~2.10	10	352	951
昭55	15	55.6.22~6.27	9	302	440
	16	55.11.10~11.15	12	495	912
	17	56.3.22~3.27	10	607	981
昭56	18	56.9.7~9.12	15	480	671
	19	57.1.29~2.4	6	163	143
	20	57.3.29~3.31	5	310	527
昭57	21	57.8.30~9.4	9	205	882
	22	57.11.15~11.19	10	408	1,646
	23	58.3.22~3.25	9	371	771
昭58	24	58.8.29~9.3	18	597	2,559
	25	58.11.14~11.19	12	654	759
	26	59.1.23~1.28	10	397	930
昭59	27	59.5.28~6.2	28	795	2,410
	28	59.8.27~9.1	18	463	848
	29	59.11.19~11.24	6	276	1,450
昭60	30	60.6.6~6.11	概要執筆調査		
	31	60.9.5~9.10	〃		

■ 古文書所在情報調査実施状況

年度	市町村名	実施日	調査先	
昭52	宇治市	52.10.14	宇治市史編さん室	
	京北町	52.12.9	京北町教育委員会	
	綾部市	53.2.27	綾部市史編さん室	
	舞鶴市	53.2.28	舞鶴市史編さん室	
	野田川町	53.3.7	野田川町教育委員会	
	加悦町	53.3.8	加悦町教育委員会	
	井手町	53.3.14	井手町庶務課	
	昭53	八幡市	53.5.24	八幡市企画広報課
		向日市	53.6.7	向日市教育委員会
		長岡京市	53.6.7	長岡京市教育委員会
加茂町		53.6.28	加茂町教育委員会	
木津町		53.6.28	木津町教育委員会	
南山城村		53.7.11	南山城村教育委員会	
笠置町		53.7.11	笠置町教育委員会	
久美浜町		53.11.14	久美浜町教育委員会	
丹後町		53.11.15	丹後町教育委員会	
福知山市		53.11.21	福知山市史編さん室	
夜久野町		53.11.22	夜久野町教育委員会	
丹波町		53.12.7	丹波町教育委員会	
城陽市		53.12.21	城陽市教育委員会	
宇治田原町		54.2.9	宇治田原町教育委員会	
瑞穂町		54.2.15	瑞穂町教育委員会	
園部町		54.3.6	園部町史編さん室	
精華町		54.3.14	精華町教育委員会	
昭54		和知町	54.5.30	和知町教育委員会
		八木町	54.6.5	八木町教育委員会
	亀岡市	54.6.5	亀岡市教育委員会	
	美山町	54.6.14	美山町教育委員会	
	網野町	54.7.2	網野町教育委員会	
	弥栄町	54.7.3	弥栄町教育委員会	
	峰山町	54.7.3	峰山町教育委員会	
	大宮町	54.7.4	大宮町教育委員会	
	三和町	54.9.4	三和町教育委員会	
	大江町	54.10.12	大江町教育委員会	
	宮津市	54.12.10	宮津市教育委員会	
	伊根町	54.12.11	伊根町教育委員会	
	岩滝町	54.12.12	岩滝町教育委員会	
	日吉町	54.12.18	日吉町教育委員会	
	大山崎町	55.1.30	大山崎町教育委員会	
	山城町	55.2.8	山城町教育委員会	
	田辺町	55.2.8	田辺町教育委員会	
	和束町	55.2.12	和束町教育委員会	
	久御山町	55.3.26	久御山町教育委員会	

■ 古文書実地調査実施状況

年度	文書名	関連地域	収集・公開状況
昭55	土堅家文書	京都市	寄託・公開
	大江左太郎家文書	京都市	
	林康夫家文書	京都市	
	小河英夫家文書	井手町	寄託・公開
	宮本守三家文書	井手町	寄託・公開
昭56	金剛心院文書	官津市	
	天長寺文書	官津市	
	成相寺文書	官津市	7170収集・公開
	田辺家文書	綾部市	
	百鳥講文書	官津市	
	桂林寺文書	舞鶴市	7170収集・公開
	土屋家文書	京都市	
	森田高史家文書	精華町	
	丹後国分寺文書	官津市	
	観音寺文書	福知山市	7170収集・公開
	金光寺文書	福知山市	
昭57	天寧寺文書	福知山市	
	岡田卓穂家文書	木津町	7170収集・公開
	妙蓮寺文書	京都市	
	観音寺区有文書	加茂町	7170収集・公開
	禅定寺文書	宇治田原町	寄託・公開
	江崎家文書	京都市	7170収集・公開
	笹屋町文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	岡本清弼日記 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	網仲買仲間文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	脇戸町文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	若宮菊屋町文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
昭58	淀川水運関係文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	西石垣町文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	桑田郡馬路文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	古京記録 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	沼田義一家文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	金局公用誌 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	京都伏見稲荷文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	上下古京町代願書清方記 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	八木家文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	
	西賀茂村共有文書 (立命館大学文庫資料室所蔵)	京都市	7170収集・公開
	飯田嚼穂家文書	木津町	
昭59	鹿背山区有文書	木津町	7170収集・公開
	奥村昌弘家文書	京都市	
	小巻由男家文書	京都市	
	木津天明座文書	木津町	
	福隅秋子家文書	木津町	
	木津町太鼓台組文書	木津町	7170収集・公開
	吉村勉家文書	木津町	
	神習教相楽大教会文書	木津町	
	相楽神社文書	木津町	
	安養寺文書	木津町	
	大龍寺文書	木津町	
昭60	正法寺文書	八幡市	7170収集・公開
	松岡家文書	加茂町	寄託・公開
	武田喜代次家文書	木津町	7170収集・公開
	御置神社文書	木津町	
	大智寺文書	木津町	7170収集・公開
	土久里和家文書	木津町	

年度	文書名	関連地域	収集・公開状況
昭58	滋井正文家文書	木津町	7170収集・公開
	駒喜多秋夫家文書	木津町	
	藤本安雄家文書	木津町	
	木津一郎家文書	木津町	
	伊佐家文書	八幡市	
	内藤直次郎家文書	京都市	
	善修寺文書	木津町	
	心栄寺文書	木津町	
	粟田宇内家文書	精華町	7170収集・公開
	松田安司家文書	精華町	
	喜多亮次家文書	木津町	7170収集・公開
昭59	中岡義隆家文書	木津町	
	磯川次雄家文書	木津町	
	塩屋町文書	向日市	寄託・公開
	藤本知恵家文書	木津町	
	亀岡喜代一家文書	木津町	7170収集・公開
	八木芳郎家文書	木津町	
	藤沢淳啓家文書	木津町	
	尾崎重雄家文書	木津町	
	曾根山村文書	木津町	
	中岡一喜家文書	木津町	7170収集・公開
	大宮神社宮總代引継文書	木津町	
昭60	奥野正次家文書	木津町	
	遠光英雄家文書	木津町	
	福井幸生家文書	精華町	7170収集・公開
	河村裕家文書	木津町	
	岩井忠和家文書	木津町	
	吐師区有文書	木津町	7170収集・公開
	樋口国康家文書	木津町	
	市坂区有文書	木津町	
	北福八間区有文書	精華町	
	菱田区有文書	精華町	
	武内神社文書	精華町	
昭61	白井明家文書	精華町	
	上村穂家文書	精華町	
	庄田隆司家文書	精華町	
	駒好修家文書	木津町	
	吉川三郎家文書	木津町	
	江並寛治家文書	木津町	
	中田喜久夫家文書	木津町	
	福嶋郁夫家文書	木津町	7170収集・公開
	森田馨家文書	木津町	
	光橋政治家文書	木津町	7170収集・公開
	正覚寺文書	木津町	
昭62	森島二郎家文書	精華町	7170収集・公開
	藤田茂夫家文書	精華町	
	川井昭夫家文書	精華町	
	菅井区有文書	精華町	
	木津小学校文書	木津町	7170収集・公開
	林金次家文書	木津町	
	木津中学校文書	木津町	
	相楽小学校文書	木津町	
	福隅利温家文書	木津町	
	滝口博司家文書	木津町	
	四条町文書	京都市	寄託・公開
昭63	西方寺(祝園)文書	精華町	
	若王寺文書	精華町	7170収集・公開
	生蓮寺文書	精華町	
	西方寺(菱田)文書	精華町	
	想念寺文書	精華町	7170収集・公開
	常念寺文書	精華町	
	春日神社(舟)文書	精華町	
	平田正晴家文書	精華町	7170収集・公開
	吉川義治家文書	精華町	
	太田直一家文書	精華町	
	太田長司家文書	精華町	
昭64	山中宏家文書	精華町	
	春日神社(菱田)真座文書	精華町	
	春日神社(菱田)本座文書	精華町	

年度	文書名	関連地域	収集・公開状況	
昭61	中川博治家文書	精華町	7170収集・公開	
	大喜多秀治家文書	精華町		
	大谷耕司家文書	精華町		
	前田悦子家文書	精華町		
	福進造家文書	精華町		
	森田慶市家文書	精華町		
	東畑神社内郷土資料館所蔵文書	精華町		
	観音寺文書	精華町		
	川井守家文書	精華町		
	中井増郎家文書	精華町		
	辻藤枝家文書	精華町		
	板原美代子家文書	京都市		
	田中家文書	精華町	7170収集・公開	
	東谷神社宮座文書	精華町		
	西村正則家文書	精華町		
	寺島和夫家文書	精華町		
	光明寺文書	精華町		
	井口新助氏所蔵文書	向日市		
	安宅孝郎家文書	精華町		
	昭62	山路家文書	精華町	
		森島国男家文書	精華町	
沢見力家文書		精華町		
精華町役場文書		精華町		
高田尚彦家文書		精華町		
大崎国平家文書		精華町		
木村清二家文書		精華町		
森力木子家文書		精華町		
精華町教育委員会保管文書		精華町		
木村晏家文書		精華町		
飯田種男家文書		木津町	7170収集・公開	
木津高校文書		木津町		
高田健家文書		精華町		
昭63		専光寺文書	精華町	
		一宮権一家文書	精華町	
	藤田享二家文書	精華町		
	木津三丁目町内会文書	木津町		
	上野英雄氏所蔵文書	精華町	7170収集・公開	
	永島清治家文書	精華町		
	岩前鉄男家文書	精華町		
	中井義雄家文書	精華町		
	森村弘男家文書	京田辺市		
	平元	田中薫家文書	精華町	
高田洋家文書		精華町		
植村嘉男家文書		精華町		
松本幸三家文書		精華町		
平2		宮本守三家文書	井手町	寄贈・公開
	山口嘉男氏所蔵文書	精華町	7170収集・公開	
	川井孝夫家文書	精華町		
	美田伊勢講文書	精華町		
	上田傳家文書	亀岡市	7170収集・公開	
	本多辰次郎家文書	京都市	寄贈・公開	
	平3	近江屋吉左衛門家文書	京都市	
香山家文書		京都市	7170収集・公開	
上田シズ家文書		城陽市		
森元博家文書		精華町	7170収集・公開	
岩屋周英家文書		精華町		
大澤家文書 (明治大学刑事博物館所蔵)		東京都	7170収集・公開	
平4	金剛院文書	岸鶴市		
	天龍寺文書	京都市		
	隨心院文書	京都市	寄託・公開	
	妙顯寺文書	京都市	7170収集・公開	
	本庄区有文書	和知町		
	野間耕太郎家文書	和知町		
	清水音羽川筋町文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	京都今出川町文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	京高野家文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		

年度	文書名	関連地域	収集・公開状況	
平4	伏見墨染組文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都	7170収集・公開	
	京嶋燭練油仲間文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
平5	本光寺文書	長崎県		
	松田家文書	井手町		
	稻次区有文書	和知町		
	本光寺文書	長崎県		
	松平文庫	長崎県		
	鳥原市図書館所蔵文書	長崎県		
	狂島神社所蔵文書	長崎県		
	稻次区有文書	和知町		
	淀落田辺家文書	京都市	寄贈・公開	
	京松尾神社文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都	7170収集・公開	
	京葵屋町三象松屋文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	城州守治郎池尾村文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	京嶋燭練油仲間文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	山城国愛宕郡鞍馬二之瀬村文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	京北野新地文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
丹波国何鹿郡由利村文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都			
山城国愛宕郡鹿ヶ谷村文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都			
丹波国熊野郡新谷村文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都			
京南北野神社文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都			
京都二条家文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都			
平6	西村正一家文書	南山城村	寄贈・公開	
	三嶋家文書	和知町		
	藤田権一郎家文書	京都市	7170収集・公開	
平7	丹波国竹野郡舟木村文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	丹波国桑田郡馬路村文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	奈良弥家文書	京都市	7170収集・公開	
	湯淺五郎兵衛家文書	日吉町		
	宮本守三家文書	井手町	寄贈・公開	
平8	真町文書 乙	京都市		
	登臣秀吉御葬送行列次第	京都市		
	田辺家文書	京都市		
	金万家文書	京都市		
	京都府布告	京都市		
	新谷家文書	南山城村		
	四新会関係資料	京都市		
	松室重光関係建築設計図	京都市		
	宮本守三家文書	井手町		
	伊勢講文書	京都市	7170収集・公開	
平9	昭和5年国勢調査員関係文書	京都市	寄贈・公開	
	花立町文書	京都市		
	文久3年加茂石清水行幸列次集	京都市	八幡市	
	本多辰次郎文書 丙	京都市		
	稲葉神社所蔵文書	京都市		
	半井家文書	京都市		
	龍野家文書	京都市		
	半井家文書	京都市		
	田辺家文書 乙	京都市		
	宮本守三家文書	井手町		
平10	稲葉神社所蔵文書 乙	京都市		
	平和家文書	綾部市		
	京都久世家文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	平11	西院村文書	京都市	

年度	文書名	関連地域	収集・公開状況	
平11	多賀村文書(第3次)	井手町	7/17収集・公開	
	京都久世家文書 (明治大学刑事博物館所蔵)	東京都		
	古久保家文書 乙	京都市	寄贈 公開	
	平和家文書 福長町文書	綾部市 京都市		
平12	綾部市資料館所蔵資料(綾部藩 関係文書、田辺藩裁判資料)	綾部市		
	新井家文書 (久美浜代官所大庄屋関係文 書)	大江町		
	安川家文書 (西岡中組頭大工関係文書)	京都市		
平13	館蔵「平和家文書」関連資料調 査(個人蔵)	綾部市		
	千吉西村家文書	京都市	寄贈 公開	
	西陣織物館所蔵古文書概要調 査	京都市		
平14	篠山市立青山歴史村所蔵文書 (篠山藩京都府城関連資料、京 都市中取締役関連資料)	兵庫県		
	館蔵「中田家文書」関連資料調 査(個人蔵)	京都市	寄贈・公開	
	近世領主関係文書調査 (東寺近世文書)	京都市		
平15	久美浜町所蔵稲葉家文書共同 調査	久美浜町		
	近世領主関係文書調査 (木下家文書)	綾部市		
	近世領主関係文書調査 (形原松平家文書)	丹波		
	八幡市城関係文書調査 (美濃山区有文書)	八幡市		
	商売仲間関係文書調査 (三井文庫)	京都市		
	神護寺聖教調査	京都市		
平16	京丹後市所蔵稲葉家文書共同 調査	丹後		
	近世領主関係文書調査 (山下家文書)	京都市		
	近世領主関係文書調査 (随心院関係近世文書)	京都市		
	京都町文書調査 (久遠寺前町関係近世文書)	京都市		
	京都町文書調査 (正倉院修理関係資料調査)	奈良市		
	京北町城関係文書共同調査 (山國神社文書)	京北町		
	近世領主関係文書調査 (竹林家伝来文書)	京都市		
	近世領主関係文書調査 (峰山藩関係文書)	丹後		
	近世幕府関係文書調査 (幕府日記)	京都市		
	近世領主関係文書調査 (梶川家文書)	京都市		
	近世領主関係文書調査 (京都町代官手代御用日記)	京都市		
	近世領主関係文書調査 (峰山藩関係文書)	丹後		
	近世領主関係文書調査 (公家久世文書、吉田神社鈴鹿 家文書)(明治大学博物館)	京都市		
	近世領主関係文書調査 (牧野家文書)	舞鶴市		
	京都府城関係文書調査 (石井コレクション)	京都府		
	平17	神護寺聖教調査	京都市	
		近世領主関係文書調査(公家 久世文書)(明治大学博物館)	京都市	

年度	文書名	関連地域	収集・公開状況
平17	山國莊関係文書共同調査 (山國神社文書)	京都市	
	京丹後市所蔵稲葉家文書共同 調査	丹後	
平18	醍醐寺聖教調査	京都市	
	近世領主関係文書調査(藩札)	京都府	
	近世領主関係文書調査 (淀神社所蔵資料)	京都市	
	京丹後市所蔵稲葉家文書共同 調査	丹後	
	京都府城関係古文書所在調査 (近江国領関係文書)	近江	
	近世領主関係文書調査 (糸井文庫)	丹後	
	近代京都府関係私文書調査	京都市	
	近世領主関係文書調査 (戸田家・藤井松平家文書)	丹波	
	醍醐寺聖教調査	京都市	
	近世村文書	丹波	7/17収集・公開
平19	京丹後市所蔵稲葉家文書共同 調査	丹後	
	近世町関係及び私文書調査 (丸木村木町文書等)	京都市	
	近世村文書及び地下官人・私 文書調査	京都市	
	近世領主関係文書 (伏見稻荷神社家文書)	京都市	受入
	近世町文書(大恩寺町)	京都市	
	近世私文書 (幕末風説書・書画類等)	京都市	
	近世地方文書(下鴨倉郷)	京都市	
	醍醐寺聖教調査	京都市	
	近世・近代村文書 (宮本家文書)	山城	受入
	近世私文書	他府県	
平20	近代町文書(手洗水町)	京都市	
	近世・近代社家文書・私文書 (八坂神社社家関連文書)	京都市	
	近世・近代村文書・私文書 (奈良県柳生地域資料・近代医 療関係資料)	他府県 ・京都市	
	醍醐寺聖教調査	京都市	
	近世近代村文書・私文書 (上野家文書)	舞鶴市	受入
	醍醐寺聖教調査	京都市	
	近世領主関係文書調査(岡田家 文書・木村家文書・八田家文 書)	京都市	
	近世村関係文書調査 (東九条村庄屋文書ほか)	京都市	
	近世領主関係文書調査 (地元代官の資料)	亀岡市	
	近世領主関係文書調査 (地下官人の資料)	京都市	
平21	近代町関係資料調査 (戸長宅保存資料)	京都市	
	近世村・近代家関係文書調査 (庄屋宅保存資料)	京都市	
	醍醐寺聖教調査	京都市	
	近世・近代町関係資料調査 (表具屋保存資料)	京都市	
	近世・近代町関係資料調査 (最上屋喜八家所蔵町文書)	京都市	
	近世・近代町関係資料調査 (昭和3年御大典写真・書状ほ か)	京都市	
	醍醐寺聖教調査	京都市	
	近世・近代町関係資料調査	京都市	
	醍醐寺聖教調査	京都市	
	近世・近代町関係資料調査	京都市	

■ 近世領主並びに近世村町別閲覧可能関連文書所在調査実施状況

年度	文 書 名	所在地
平10	閲覧可能文書所蔵状況等アンケート調査（丹波地域）	丹波地域の市町村ほか
平11	精華町史編纂室収集資料（古文書）	精華町
	東京大学法学部法制史資料室所蔵丹後地域関係文書	東京都
	東京大学経済学部図書館古文書室所蔵丹後地域関係文書	東京都
	国文学研究資料館史料館所蔵丹後地域関係文書	東京都
	宮津市史編纂関係資料	宮津市
	京都府立丹後郷土資料館所蔵資料	宮津市
	舞鶴市郷土資料館所蔵資料	舞鶴市
	大江町史編纂関係資料	大江町
	閲覧可能文書所蔵状況等アンケート調査（丹後地域）	丹後地域の市町村ほか
平12	東京大学法学部法制史資料室所蔵山城地域関係文書	東京都
	京都府立山城郷土資料館所蔵山城地域関係文書	山城町
	京都市歴史資料館所蔵山城地域関係文書	京都市
	宇治市歴史資料館所蔵山城地域関係文書	宇治市
	宇治田原町教育委員会所蔵山城地域関係文書	宇治田原町
	長岡京市教育委員会所蔵山城地域関係文書	長岡京市
	八幡市教育委員会所蔵山城地域関係文書	八幡市
閲覧可能文書所蔵状況等アンケート調査（山城地域）	山城地域の市町村ほか	
平13	東京大学法学部法制史資料室所蔵山城及び京都〈洛中洛外町統等〉地域関係文書	東京都
	明治大学刑事博物館所蔵山城及び京都〈洛中洛外町統等〉地域関係文書	東京都
	加茂町教育委員会管理文書概要調査	加茂町
	南山城村教育委員会管理文書概要調査	南山城村
平14	東京大学法学部法制史資料室所蔵京都〈洛中洛外町統等〉地域関係文書	東京都
	明治大学刑事博物館所蔵京都〈洛中洛外町統等〉地域関係文書	東京都
	宮内庁書陵部所蔵京都〈洛中洛外町統等〉地域関係文書	東京都
	閲覧可能文書所蔵状況等アンケート調査（京都〈洛中洛外町統等〉地域）	京都市ほか

■ 民謡調査実施状況

年度	調査地	収録数
昭41	大江町、亀岡市	108曲
昭42	伊根町、加悦町、宮津市、弥栄町、丹後町、久美浜町	78
昭43	京都市	26
昭44		
昭45		
昭46		
昭47	長岡京市、向日市	138
昭48	京北町、美山町	316
昭49	丹後町、弥栄町	136
昭50	精華町、木津町、山城町、笠置町、加茂町	145
昭51		
昭52		
昭53	園部町	81
昭54	丹波町	11
昭55	丹波町	118
昭56	岩滝町	90
昭57	京都市	113
合計		1,499※

※昭和40年度にKBS近畿放送から寄贈をうけた140曲を含む。

■ 昔話調査採集話数一覧

調査地	丹波・和知町	丹後・伊根町	山城・和東町	
調査期間	昭43年11月 ～44年2月	昭45年3月 ～12月	昭48年6月 ～49年3月	
昔話	動物 昔話	(34) 60	(17) 52	(33) 84
	完形 昔話	(96) 190	(88) 184	(126) 196
	因縁	(10) 26	(8) 13	(19) 24
	化物語	(10) 146	(54) 114	(103) 139
	笑話	(26) 40	(13) 36	(18) 26
	形式譚	(26) 40	(13) 36	(18) 26
	計	(267) 462	(180) 398	(299) 469
伝説・ 世間話 その他	152	114	149	
総計	614	512	618	

()は話型数を表わす

■ 府内市町村行政文書保存状況・実態調査状況

保存状況調査		実態調査	
市町村名	調査年月日	調査先	調査年月日
京都市		京都市物品センター	昭55.7.11
福知山市	昭53.11.21	福知山市役所	昭59.10.17 ～18
舞鶴市	昭53.2.28	舞鶴市役所・舞鶴市 史編纂室 舞鶴市郷土資料館	平元.3.15 平11.11.18
綾部市	昭53.2.27	綾部市役所	昭59.10.16
宇治市	昭53.3.10	宇治市歴史資料館	昭59.11.9
宮津市	昭52.3.28	宮津市役所 宮津市日置出張所 宮津市養老支所 宮津市教育委員会 宮津小学校 丹後郷土資料館	昭55.3.24 昭55.3.26～ 26 昭59.3.3 平11.11.18
亀岡市	昭52.3.18	亀岡市禰田野公民館 亀岡市役所	昭55.10.18 昭60.3.19
城陽市	昭53.3.10	城陽市役所	昭58.3.11
向日市	昭52.3.7	乙訓自治会館 向日市役所 向日市文化資料館	昭56.9.21 昭60.3.26
長岡京市	昭52.3.7	長岡京市役所	昭57.3.15
八幡市	昭52.3.23	八幡市役所 八幡市史編纂室	昭61.3.25
京田辺市	昭62.3.15	田辺町資料棟	昭59.10.8 10.19
大山崎町	昭52.3.7	大山崎町役場	昭60.2.21
久御山町	昭52.3.7	久御山町役場 久御山町史編纂室	平3.9.25
井手町	昭53.3.14	井手町役場	平4.10.9
宇治田原町	昭52.3.23	宇治田原町役場 旧町史編纂室	平3.6.21
山城町	昭54.3.14	山城町役場 山城町史編纂室	平元.3.13
木津町	昭52.3.11	木津町役場	昭54.11.15
加茂町	昭52.3.11	加茂町役場 加茂町瓶原公民館 加茂町当尾地区農協 倉庫	昭56.10.23
笠置町	昭53.3.14	笠置町役場	平5.3.12
和束町	昭52.3.11	和束町役場 湯船区事務所	平5.4.30 平6.3.5
精華町	昭54.3.14	精華町役場 精華町史編纂室	平3.2.1
南山城村	昭53.3.14	南山城村役場	平5.6.4
京北町	昭52.12.19	京北町役場	平2.9.27
美山町	昭52.12.19	美山町役場 美山町知井支所	昭59.6.12
園部町	昭54.3.6	園部町役場 園部町役場 園部町教育委員会	昭59.3.15 平6.7.22
八木町	昭52.3.18	八木町役場	昭63.11.11
丹波町	昭52.3.18	丹波町役場 丹波町公民館	昭55.10.6
日吉町	昭52.3.18	日吉町役場	昭63.10.23
瑞穂町	昭54.2.15	瑞穂町役場 梅田振興センター 質美振興センター	昭62.10.4 平6.11.18 平7.3.15

保存状況調査		実態調査	
市町村名	調査年月日	調査先	調査年月日
瑞穂町	昭54.2.15	三ノ宮基幹集落セン ター	平7.3.15
和知町	昭53.12.7	和知町役場	昭62.9.29
三和町	昭54.2.15	三和町役場 三和町郷土資料館 川合集落センター	平2.2.1
夜久野町	昭53.11.22	夜久野町役場	平2.11.20
大江町	昭53.11.22	大江町役場 大江町教育委員会 河守公民館	平元.3.16 平11.11.19
加悦町	昭53.3.8	加悦町役場	平元.2.21
岩滝町	昭52.3.24	岩滝町役場 丹後郷土資料館	平元.2.20
伊根町	昭52.3.24	伊根町役場 伊根町筒川出張所 旧朝妻村役場 旧本庄村役場 伊根町史編纂室	昭59.3.4～5
野田川町	昭53.3.8	野田川町役場	平元.2.21
峰山町	昭53.3.7	峰山町役場 峰山町立図書館 丹波区公民館 峰山町立図書館	平元.11.15 平8.12.5
大宮町	昭52.3.24	大宮町役場 口大野自治会事務所 上常吉区自治会事務所 大宮町字三重「郷 舎」	平2.11.2～ 22 平15.3.13
網野町	昭53.3.7	網野町役場 網野町郷土資料館	昭62.10.19 平9.12.16
丹後町	昭53.11.14	丹後町役場 丹後町宇川支所	昭62.10.20 平3.3.4
弥栄町	昭52.3.24	弥栄町役場 野間地区基幹集落セ ンター	平元.11.16
久美浜町	昭53.11.15	久美浜町役場 久美浜町役場 旧佐瀬北小学校	平2.1.30～ 31 平9.12.18

■ 展覧会開催状況

年度	区分	展覧会名	会期	開催日数	入場者数	
昭38	風俗	開館記念 風俗交遊展	38.11.16~12.22	32	3,266	
	風俗	誕生から結婚まで 婦人と子ども風俗展	39.1.10~3.8	52	4,218	
	絵画	風俗画の種類と浮世絵総合展	39.3.20~4.19	26	3,125	
昭39	伝統工芸	第1回伝統工芸資料展 陶漆金工芸展	39.4.26~5.24	26	7,219	
	風俗	夏の風俗資料展	39.6.6~9.30	100	3,400	
	伝統工芸	第2回伝統工芸資料展 染織工芸展	39.10.10~11.20	36	7,395	
	歴史	京都の古地図展	39.12.5~12.20	14	728	
昭40	民具	脳コレクション 郷土玩具展	40.3.3~3.31	25	3,490	
	絵画	京都画派の源流展	40.4.10~5.31	45	4,748	
	陶芸	古丹波焼展	40.6.10~7.11	28	3,283	
	書道	小野道風千年祭記念 和歌短冊千人集展	40.7.20~8.22	30	1,082	
	染織	ジャワ更紗展	40.9.1~10.3	29	3,871	
	伝統工芸	第3回伝統工芸資料展 木と竹	40.10.16~11.25	35	4,395	
	民具	凧と羽子板展	40.12.16~41.1.16	21	1,405	
	絵画・工芸	椿-その美術と工芸-	41.3.1~3.27	25	3,135	
昭41	伝統工芸	第4回伝統工芸資料展 扇面-近世の名品を中心として-	41.4.26~5.24	25	3,011	
	絵画	第2回浮世絵展-広重-	41.6.1~6.26	23	6,201	
	陶芸	陶芸シリーズ-2- 色絵古陶	41.7.5~7.31	24	2,587	
	風俗	第5回風俗資料展 衣服と文様	41.9.9~10.9	27	3,165	
	伝統工芸	開館3周年記念 第5回伝統工芸資料展-人形-	41.10.22~11.23	28	3,983	
	風俗	漫画の交遊	41.12.10~42.1.15	25	1,435	
	民芸	河井寛次郎コレクション 民芸展	42.3.1~3.30	26	6,122	
昭42	風俗	第6回風俗資料展 日本の女	42.4.11~5.14	30	4,526	
	伝統工芸	第6回伝統工芸資料展 蒔絵	42.5.25~6.25	28	4,069	
	絵画	第3回浮世絵展-豊国-	42.7.8~7.30	20	1,616	
	陶芸	明治初期の洋風陶磁器展-京焼を中心として-	42.9.9~10.10	27	1,741	
	民芸	民芸シリーズ-2- 紅型	42.10.25~11.26	29	4,365	
	風俗	第7回風俗資料展 絹と風俗	42.12.9~43.1.14	25	1,076	
	伝統工芸	第7回伝統工芸資料展 七宝と象嵌	43.3.1~3.31	27	2,286	
	昭43	染織	故元井三門里作品展 絵更紗	43.4.9~4.21	12	2,852
伝統工芸		第8回伝統工芸資料展 京焼-顔川と木米-	43.6.1~6.30	26	3,778	
絵画		京都府開庁100年記念展 明治の美術	43.7.10~8.4	23	1,542	
陶芸		陶芸シリーズ-4- 日本の古民窯	43.8.29~9.20	21	2,825	
風俗		第8回風俗資料展 小袖裂百種	43.9.28~10.20	20	1,466	
伝統工芸		第9回伝統工芸資料展 人間国宝	43.11.1~12.4	29	4,214	
伝統工芸		近世の漆器 -京都を中心として-	43.12.14~44.1.15	21	938	
民芸		民芸シリーズ-3- 縞と緋	44.2.26~3.30	30	2,876	
昭44		絵画	第4回浮世絵展 上方の浮世絵	44.4.12~5.11	26	2,703
		陶芸	第10回伝統工芸資料展 京焼-道八・周平・保全-	44.5.20~6.22	30	4,457
	総合	第1回 所蔵品展	44.7.1~7.27	24	2,156	
	染織	京の染織-室町から江戸末-	44.9.9~10.12	30	4,781	
	版画	日本の版画	44.10.28~11.30	29	3,142	
	風俗	肖像画と風俗	44.12.19~45.1.11	19	562	
	民芸	民芸シリーズ-4- 壺(併設所蔵民具展)	45.2.24~3.29	30	3,450	
	昭45	古文書	東寺百合文書展	45.4.14~5.24	36	2,818
民具		(脳コレクション)ふるさとの土人形-伏見人形を中心-	45.6.9~7.5	24	1,833	
民芸		日本の楽器展-佐竹コレクションを中心に-	45.9.1~9.27	24	2,023	
風俗		(吉川コレクション)年中行事と風俗	45.11.10~12.6	24	1,294	
民具		民具展-暮らしをささえた文化財-	46.3.2~3.28	24	2,457	
昭46	風俗	江戸時代の小袖名作展	46.4.20~5.16	24	6,407	
	陶芸	古窯名陶展	46.6.8~8.1	48	6,711	
	絵画	国画創作協会 五人展	46.11.3~12.5	29	3,632	
	民具	門外不出の名品による 雛人形展	47.3.1~3.31	27	10,577	
昭47	風俗	江戸時代の名品 能装束展	47.4.28~5.28	27	7,048	
	歴史	弘法大師展	47.10.24~11.26	30	4,921	
	陶芸	永楽焼歴代展-保全・和全・得全-	47.12.19~48.1.14	17	3,324	
	民具	雛人形展	48.3.1~3.21	18	5,175	
昭48	風俗・民具	京都の生活文化展	48.5.1~6.3	30	3,306	
	絵画	京の百景展	48.11.16~11.30	16	11,403	
	古文書	東寺百合文書展	49.2.1~2.21	21	1,954	
	伝統工芸	京都近代工芸秀作展	49.3.1~3.31	31	6,123	

年度	区分	展覧会名	会期	開催日数	入場者数
昭49	絵画	今尾景年回顧展	49.5.5~5.31	27	6,239
	伝統工芸	京の茶道工芸展	49.10.20~11.17	28	7,406
昭50	絵画	幸野楳嶺とその高弟展	50.5.3~6.1	29	6,572
	陶芸	宇野宗堯回顧展	50.10.18~11.16	29	3,490
	絵画	京の百景展	51.3.1~3.21	21	3,640
昭51	絵画	寄贈記念 向井潤吉作品展	51.4.6~4.11	6	2,349
	絵画	京都画派の名家 原在中とその流派展	51.5.1~5.30	28	3,699
	染織	染の粋 京の小紋展	51.10.10~11.7	26	5,665
	民具	日本の楽器展	52.3.1~3.21	19	2,400
昭52	陶芸	近代陶芸の巨匠・五代六兵衛 清水六和展	52.5.3~6.5	33	5,778
	民具	京の郷土玩具展(併設 日本とアジアの玩具)	52.10.1~11.6	36	5,568
	絵画	近代絵画秀作展	53.3.1~3.26	25	3,106
昭53	伝統工芸	伝統工芸 木と竹-素材の美と技-	53.5.5~6.4	30	4,127
	染織	紋と繡展-小袖にみる技と美-	53.10.8~11.5	27	5,259
	陶芸	日本の陶磁展-京焼と丹波焼-	54.3.4~3.25	22	4,044
昭54	絵画	近代日本画壇の巨匠 岸竹堂とその芸術展	54.5.3~6.3	30	3,143
	陶芸	明治の京焼展	54.10.6~11.6	30	3,704
	古文書	東寺百合文書展	54.11.15~11.29	15	1,894
	民具	雛人形とかしら展	55.2.23~3.23	29	4,936
昭55	民具	京都の絵馬-祈りの芸術展-	55.5.3~6.1	29	2,985
	絵画	京の百景展	55.10.10~11.9	30	9,473
	民具・風俗	雛人形と屏風展	56.2.25~3.22	25	4,553
昭56	陶芸	五代・六代 清水六兵衛展	56.4.25~5.24	29	6,364
	総合	新収館蔵品展	56.6.8~6.20	12	958
	民具	日本の郷土人形展	56.10.3~11.3	31	3,841
	民具・風俗	伝統楽器と芸能衣装展	57.2.27~3.22	24	2,060
昭57	絵画	森寛齋と山元春挙展-師と高弟の画業の軌跡-	57.5.1~5.30	29	3,661
	陶芸	◇沖繩のやきもの	57.7 ~9.	不明	不明
	染織	友禅展-小袖にみる伝統美-	57.10.8~11.3	26	4,811
	絵画	◇京の町並みを描く西川純作品展	58.1 ~3.	不明	不明
	写真	写真にみる明治・大正の京都	58.2.25~3.21	25	8,148
昭58	古文書	◇東寺百合文書展(京都府文化財保護条例制定記念協賛)	58.4.1~4.17	17	1,706
	総合	開館20周年記念 館蔵名品展	58.5.18~6.19	32	3,734
	民具	◇日本の郷土玩具	58.6.27~8.31	不明	不明
	民具	◇こけし展	58.9.3~9.30	不明	不明
	風俗	開館20周年記念 洛中洛外図の世界展	58.10.15~11.15	29	8,724
	染織・歴史	開館20周年記念 コプト染織展・環頭大刀の発見展	59.2.28~3.25	25	4,997
昭59	総合	◇新収館蔵品展	59.4.3~6.30	不明	不明
	書画・陶芸	大田垣蓮月展	59.4.20~5.20	30	4,633
	古文書	◇第1回東寺百合文書展-中世の京都-	59.7.7~8.19	43	4,200
	古文書	◇禅定寺文書と月舟宗胡展	59.8.25~9.27	34	4,004
	絵画	京の百景展	59.10.5~11.4	29	9,842
	工芸	貝の工芸展(併設 雛人形展)	60.3.1~3.31	29	5,576
	写真	◇写真にみる明治・大正の京都	60.4.4~4.27	不明	不明
昭60	絵画	田能村直入と書岡鉄斎展-その画業と南画の軌跡-	60.5.3~6.2	30	5,300
	古文書	◇第2回東寺百合文書展-中世の寺院-	60.7.1~7.31	31	1,665
	総合	京都文化の伝流展-古都千年のしらべ-	60.10.5~11.4	28	5,888
	民具	雛人形と押絵展	61.3.1~3.30	29	5,691
	陶器	京都近代陶芸の流れ展-創作陶芸の確立-	61.5.3~6.1	29	4,411
	総合	新収館蔵品展	61.6.14~6.26	13	1,090
昭61	古文書	◇第3回東寺百合文書展-東寺の造営-	61.7.1~7.31	31	1,729
	絵画	日本画で描く古都の四季-京の百景展-	61.10.7~11.3	28	9,242
	写真	写真にみる都市づくり-近代京都の歩み-	62.2.28~3.29	29	3,624
	民具	武者人形の流れ展	62.5.1~5.31	30	3,779
	古文書	◇第4回東寺百合文書展-荘園の諸相-	62.7.1~7.31	31	1,296
昭62	民具	◇民具にみる生活	62.8.7~9.24	42	2,981
	楽器	◇日本の音楽と楽器-佐竹コレクションを中心に-	62.10.1~10.26	25	3,002
	染織	◇織の装い-公家・武家・町衆-	62.11.2~11.25	21	3,876

昭和62年度までの展覧会のうち、◇印は館蔵品陳列場(現・2階展示室)で開催したテーマ展であり、その他は展示室で開催した企画展である。

年度	区分	展覧会名	会期	開催日数	入場者数
昭63	古文書	第5回東寺百合文書展－中世の運送と交通－	63.7.1～7.31	31	1,533
平元	古文書	第6回東寺百合文書展－応仁の乱－	元.7.1～7.31	31	2,113
平2	古文書	第7回東寺百合文書展 上桂庄－伝頼と相論－	2.7.1～7.31	31	1,116
平3	古文書	第8回東寺百合文書展－戦国時代の東寺－	3.7.1～7.31	31	1,840
平4	古文書	第9回東寺百合文書展－中世農民の生活－	4.7.1～7.31	31	1,629
	近代文学資料	小林天眠文庫展 与謝野晶子・鉄幹と浪漫派の人々－知られざる近代日本文学小史－【京都文化博物館で開催】	5.2.13～3.7	22	8,576
平5	古文書	第10回東寺百合文書展－花押の世界－	5.7.1～7.31	31	1,693
	民具	資料館30周年記念 全国ふるさとの人形展(ねんりんピック'93協賛)	5.10.1～10.7	7	610
	総合	資料館30周年記念 所蔵名品百選展	5.10.5～11.7	23	3,183
平6	古文書	第11回東寺百合文書展－足利義政とその時代－	6.7.1～7.31	30	2,692
	写真	黒川翠山没後50年記念写真展『京都、いまむかし－翠山と「KYOTO EYE」－』（平安建都1200記念協賛）	6.11.1～11.30	27	3,507
平7	古文書	第12回東寺百合文書展－中世の契約－	7.7.1～7.31	30	2,109
	総合	特別展 京都の震災	7.11.1～11.30	27	4,136
平8	総合	新収蔵資料展	8.6.1～6.24	23	716
	古文書	第13回東寺百合文書展－中世京都の町－	8.7.1～7.31	29	2,175
	総合	特別展 京都のまち－景観とその変遷－	8.11.1～11.30	27	3,092
平9	古文書	国宝指定記念第14回東寺百合文書展－中世東寺の文書管理－	9.7.1～7.31	29	3,014
	近代文学資料	小林天眠生誕120周年記念 天眠の生涯－与謝野鉄幹・晶子夫妻との篤き友情－	9.11.1～11.30	27	1,891
平10	古文書	第15回東寺百合文書展－南北朝内乱と東寺－	10.7.1～7.31	29	2,642
	総合	特別展 京都・近代化のはじまり－京都府立総合資料館所蔵資料から－	10.11.1～11.30	27	1,634
平11	古文書	第16回東寺百合文書展－古文書の様式－	11.7.1～7.31	29	2,127
平12	総合	世紀をむすんでひらく展覧会－京都の20世紀をさきかけた人々－	12.9.4～9.30	24	4,385
平13	古文書	再開館記念 第17回東寺百合文書展－東寺百合文書からみた日本の中世－	13.9.28～10.28	29	2,187
	民具	再開館記念 馬の人形展	14.1.5～1.31	25	2,737
	図書	再開館記念 京の鳥瞰図絵師 吉田初三郎展	14.2.22～3.31	36	4,507
平14	総合	総合資料館 収蔵品展	14.7.6～8.31	54	1,385
	行政文書	重要文化財指定記念 京都府行政文書展－激動の80年、京都府の誕生から敗戦・占領まで－	14.10.4～10.31	26	1,663
	古文書	第18回東寺百合文書展－室町時代の武家文書－	14.11.9～12.8	28	2,379
	総合	総合資料館 収蔵品展－館蔵資料にみる京と水－（第3回世界水フォーラム協賛）	15.2.22～3.23	28	2,067
平15	総合	総合資料館 収蔵品展	15.7.11～8.12	32	1,405
	古文書	重要文化財指定記念 革嶋家文書展	15.10.1～10.26	24	1,961
	総合	開館40周年記念 総合資料館名品展	15.11.8～12.7	28	2,341
	総合	総合資料館 収蔵品展	16.3.12～4.11	30	1,103

昭和63年度以降は、2階展示室で開催した展覧会である。（なお、平成4年度の小林天眠文庫展は、京都府京都文化博物館で開催）

年度	区分	展覧会名	会期	開催日数	入場者数
平16	総合	総合資料館 収蔵品展	16.7.16～8.31	45	1,802
	古文書	第19回東寺百合文書展「足利義満と東寺」	16.10.1～10.31	29	2,434
	総合	企画展「京の商いー『京』ブランドの今むかしー」	17.2.16～3.20	32	2,027
平17	総合	総合資料館 収蔵品展	17.7.19～8.31	43	2,461
	古文書	第20回東寺百合文書展「中世東寺の年中行事ー御影堂ー」	17.11.1～12.4	31	1,443
	総合	企画展「京都府域の藩ー淀・亀岡・園部・山家・綾部・福知山・舞鶴・宮津・峰山ー」	18.3.4～4.9	35	2,287
平18	総合	総合資料館 収蔵品展	18.8.11～9.12	33	1,887
	古文書	第21回東寺百合文書展「奉書と直状」	18.9.30～10.31	30	1,415
	総合	企画展「先人達の京都研究」	19.2.17～3.25	35	1,804
平19	総合	総合資料館 収蔵品展	19.7.14～8.26	42	1,915
	古文書	国宝指定10周年記念「第22回東寺百合文書展ー日本史のなかの百合文書ー」	19.9.29～10.28	28	1,535
	総合	企画展「地域をむすぶー京都府の交通史ー」	20.3.15～4.13	28	1,420
平20	古典籍	古典グルメ・書物グルメのための名品展ー京都府立総合資料館で古典籍をあげようー	20.5.10～5.25	15	1,068
	総合	特別展「京都歴史こぼれ話ー京都新聞連載コラム『雑学京都史』よりー」	20.7.19～8.24	35	1,857
	古文書	第23回東寺百合文書展「南北朝期の群像」	20.9.27～10.26	28	1,420
	総合	総合資料館 収蔵品展	21.2.28～3.29	28	1,796
平21	古典籍	特別展「古典籍へようこそー直江版『文選』とそのなかまたちー」	21.7.25～8.23	29	1,106
	総合	企画展「北山の歴史をふりかえるー資料館・府立大学・植物園の昔と今ー」	21.10.31～11.29	27	1,739
	総合	総合資料館 収蔵品展	22.2.27～3.28	28	1,369
平22	総合	企画展「語り継がれる幕末・維新の京都」	22.7.24～8.22	29	2,165
	古典籍	展覧会「古典籍へようこそー京都新聞連載の古典籍と細川幽斎の文芸ー」	22.10.30～11.28	27	1,294
	総合	総合資料館 収蔵品展	23.2.26～3.27	28	1,395
平23	写真	国民文化祭・京都2011開催記念企画展「目で見る京都の今昔ー写真でたどる京都の変遷ー」	23.10.15～11.13	28	3,250
	古典籍	「古典に学び、古典に遊ぶ」	23.11.26～12.18	22	1,174
	総合	総合資料館 収蔵品展	24.2.25～3.25	28	1,578
平24	総合	総合資料館 収蔵品展	24.7.28～8.26	29	1,552
	総合	企画展「世界遺産条約40周年記念「京都の世界遺産」	24.10.20～11.18	28	1,905
	総合	国立公文書館所蔵資料展「公文書の世界in京都」	24.12.8～12.23	15	1,403
	古文書	平成24年度東寺百合文書展ー原本と翻刻で見る古文書の世界ー	25.2.23～3.17	22	1,460
平25	古文書	ユネスコ記憶遺産推薦決定・京都府立総合資料館開館50周年記念企画展「平成25年度東寺百合文書展」(同時開催企画展「みんなで作る50年史」)	25.10.12～11.10	29	2,091
	総合	京都府立総合資料館開館50周年記念企画展「資料にぞくっ！ー昭和で25年・平成で25年を所蔵品でふりかえるー」(同時開催企画展「みんなで作る50年史」)	25.11.14～12.15	30	1,640
	デジタル	デジタル体験！ 国宝 東寺百合文書展	26.1.6～1.31	24	1,555

■ 古文書講習会開催状況

回数	開催月日	内容(講師名:敬称略)
1	昭45.8.6 ~8.7	【講演】「郷土史を古文書から」 大手前女子大学長 中村直勝 「京都府内民俗資料の収集・保存について」 大阪市立博物館長 平山敏治郎
2	昭46.8.4 ~8.6	【講演】「郷土史の意義と研究の概況」 京都大学教授 上田正昭 【講義】「東寺と密教」 高野山大学教授 宮坂有勝 ・古文書様式論概論
3	昭47.7.25 ~7.27	【講演】「わが国古文書における東寺百合文書の地位」 東京大学名誉教授 宝月主吾 【講義】・古文書学概論
4	昭48.7.25 ~7.27	【講演】「歴史研究と史料について」 橋女子大学教授 前田一良 【講義】・古文書学概論
5	昭50.1.6 ~1.8	【講演】「歴史教育と地方史研究」 同志社大学教授 井ヶ田良治 【講義】・古文書の概説
6	昭51.1.6 ~1.8	【講演】「長岡京の復原」 京都家政短期大学助教授 中山修一 【講義】・古文書の概説
7	昭52.1.5 ~1.7	【講演】「漢字のくずし方について」 新日本書道会会長 秋山公道 【講義】「近世文書概論Ⅰ」 京都大学助教授 朝尾直弘
8	昭53.1.5 ~1.7	【講演】「近世史料の保存と整理」 国立史料館講師 原島陽一 【講義】「近世文書概論Ⅱ」 京都大学助教授 朝尾直弘
9	昭53.10.17 ~10.19	【講演】「惣村文書の性格」 同志社大学教授 仲村研 【講義】「近世文書概論Ⅲ」 京都大学助教授 朝尾直弘
10	昭54.11.27 ~11.29	東寺百合文書列品解説 【講義】・中世古文書学概論
11	昭56.1.6 ~1.8	【講演】「古文書の伝存と保存」 文化庁主任文化財調査官 山本信吉 【講義】「丹波・丹後の古文書から」 京都府立丹後郷土資料館 百田昌夫 ・古文書の取扱い
12	昭57.1.5 ~1.7	【講演】「古代の丹後」 京都府立大学教授 門脇禎二 【講義】「南山城の古文書から」- 国人と百姓と村々- 井手小学校長 中津川敬朗 ・史料としての古文書
13	昭58.1.5 ~1.7	【講演】「中世の京都-自治と一揆-」 橋女子大学教授 脇田晴子 【講義】「上冷泉家と下冷泉家」 平安博物館講師 藤本孝一 ・明治初期の京都府編さん史料

回数	開催月日	内容(講師名:敬称略)
14	昭59.1.6 ~1.7	【講演】「文書と木簡」 京都大学教授 岸俊男 【講義】「近世淀川水運の古文書から」 本照寺住職 日野照正 ・文書の「かたち」と「はたらき」
15	昭60.1.7 ~1.9	【講演】「琵琶湖疏水-北垣国道・田辺朔郎の日記から-」 京都大学教授 西川幸治 【講演】「江戸時代の庄屋記録を読む」 京都府立大学助教授 水本邦彦 ・明治初年の社寺-京都府庁文書に見る-
16	昭61.1.6 ~1.8	【講演】「若杉家資料について」 愛知学院大学教授 村山修一 【講義】「丹後の自由民権運動」 京都府立丹後郷土資料館 石川登志雄 ・「かたまり」の古文書学-その第一歩-
17	昭62.1.6 ~1.8	【講演】「貨幣の歴史」 京都大学名誉教授 小葉田淳 【講義】「南山城の村掾から」 京都府立山城郷土資料館 田中淳一郎 ・江戸時代における文書の整理保存
18	昭63.1.5 ~1.7	【講演】「室町京都に生きた人びと」 富山大学教授 横井清 【講義】「大堰川の水運について」 亀岡市文化資料館 黒川孝宏 ・平田家文書について-近世下級公家の家文書-
19	昭64.1.5 ~1.7	【講演】「近世京都の『町』」 京都大学教授 朝尾直弘 【講義】「木製の古文書」 京都府文化財保護課 田良島哲 ・京都府における明治の地籍図
20	平2.1.5 ~1.7	【講演】「古文書のかたちあれこれ」 摂南大学教授 上島有 【講義】「江戸時代初期の町法」 京都市歴史資料館 伊東宗裕 ・新しく制定された公文書館法
21	平3.1.5 ~1.7	【講演】「平安京と京都をめぐる歴史地理」 京都大学教授 足利健亮 【講義】「近世初頭の十人組・五人組について」 奈良大学教授 鎌田道隆 ・書状を読む
22	平4.1.5 ~1.7	【講演】「信長・秀吉と京都」 大阪大学教授 脇田修 【講義】「中世西国の武士たち」 向日市文化資料館学芸員 玉城玲子 ・東京遷都の軌跡

■ 古文書教室開催状況

回数	開催月日	内容(講師名:敬称略)
23	平5.1.5 ~1.7	【講演】「室町文化と『小京都』」 立命館大学教授 川嶋将生 【講義】「贅沢と儉約令」京都大学 人文科学研究所助手 塚本明 ・京都府庁文書に見る明治前期の公 文書
24	平6.1.5 ~1.7	【講演】「中世京都の刑罰と都市空 間」 京都大学教授 大山喬平 【講義】「江戸時代の木津川治水の 苦闘」 滋賀県志賀町教委 水戸政満 ・ICA大会とアメリカ・イギリスの文 書館
25	平7.3.8 ~3.10	【講演】「徳川家康と京都」 国際日本文化研究センター 笠谷和 比古 【講義】「九条政基小堀庄下向をめ ぐって-九条家文書と随心院文書 -」 長岡京市教委 百瀬ちどり ・「維新前民政資料」ができるまで -明治時代の資料調査-
26	平8.3.6 ~3.8	【講演】「17世紀の京都と武士」 京都大学教授 藤井謙治 【講演】「中世淀川交通と関所」 大山崎町歴史資料館 福島克彦 ・京都府の歴史編纂事業と湯本文彦
27	平9.3.5 ~3.7	【講演】「幕末の京都と薩摩藩」 京都大学人文科学研究所教授 佐々 木克 【講義】「相楽郡における近世所領 の変遷-特に藤堂藩山城領の成立に ついて-」 加茂町町史編集室 芝野康之 ・概論 東寺百合文書
28	平10.3.4 ~3.6	【講演】「近世の長岡」 同志社大学名誉教授 井ヶ田良治 【講義】「江戸時代後期の丹波綾部 藩と村」 三和町町史編集室 西村正芳 ・史料としての東寺百合文書
29	平11.3.3 ~3.5	【講演】「村絵図・都市図と近世 史」 京都府立大学教授 水本邦彦 【講義】「災害と時代相-京都天明 大火の記録-」 住友史料館 安国良一 ・「鹿王院文書と春屋妙範」 京都府文化財保護課 地主智彦
30	平12.3.1 ~3.3	【講演】「古文書から見る南北朝の 動乱」 摂南大学名誉教授 上島有 「史料に見る江戸時代の京都」 京都橘女子大学教授 朝尾直弘 「『我楽多珍報』とその周辺」 立命館大学非常勤講師 福井純子
31	平14.3.5 ~3.8	【講演】「天橋立をめぐる古文書」 京都府立丹後郷土資料館 伊藤太 「近世京都の庶民女性史をめぐっ て」 京都橘女子大学教授 横田冬彦

回数	年月日	テーマ
1	昭56 9.10	古文書の学び方
2	10.8	中世の古文書
3	11.12	近世文書のいろいろ(1)
4	12.10	近代の公文書(1)-回議書-
5	昭57 2.12	花押の話-同定-
6	3.11	古文書の基礎知識
7	4.8	公文書にみる明治初年の社寺
8	5.13	書札のなりたち
9	6.10	近世文書のいろいろ(2)
10	7.8	府庁文書にみる鉄道開設の記録
11	8.12	古文書からみた京都の町-高辻東洞 院あたり-
12	9.9	ある町の記録から-升屋町(1)-
13	10.14	花押の話-発生-
14	11.11	近世文書のいろいろ(3)
15	12.9	明治初年の社寺上地事件
16	昭58 2.14	宣旨と宣旨と奉書
17	3.10	ある町の記録から-升屋町(2)-
18	4.14	古文書からみた京都の町-塩小路大 宮-
19	5.26	近世文書のいろいろ(4)
20	6.9	近代の公文書(2)-令達-
21	7.14	花押の話-分類-
22	8.11	国符と国司庁宣
23	9.8	近世文書のいろいろ(5)
24	10.13	古文書からみた京都の町-梅小路鳥 丸敷地-
25	11.10	明治期 京都の軌道
26	12.8	ある町の記録から-升屋町(3)-
27	昭59 2.9	花押の話-変化-
28	3.8	宣旨と下文
29	4.12	近世文書のいろいろ(6)
30	5.10	明治初年の官国幣社
31	6.14	古文書から見た京都の町-唐橋猪熊 -
32	7.12	ある町の記録から-升屋町(4)-
33	8.9	花押の話-位置-
34	9.13	院宣について
35	10.11	近代の公文書(3)-地券-
36	11.8	近世文書のいろいろ(7)
37	12.13	古文書から見た京都の町-櫛笥町-
38	昭60 2.14	江戸時代の町文書-借家人-
39	3.14	年をわる
40	4.11	口宣と口宣案
41	5.9	近代の公文書(4)-徴兵制度-
42	6.13	近世文書のいろいろ(8)
43	7.11	古文書から見た京都の町-九条坊城 あたり-
44	8.8	江戸時代の町文書-家屋敷の売買-
45	9.12	人をわる
46	10.9	解状について
47	11.14	明治の教育資料(1)
48	12.12	近世文書のいろいろ(9)
49	昭61 2.13	年中行事と古文書-古文書から見た 古今伝授について-
50	3.13	江戸時代の町文書-宗門人別改帳-
51	4.10	荘園の文書-上桂庄(1)-
52	5.8	近代の公文書(5)-郵便-
53	6.12	申文と款状
54	7.10	近世文書のいろいろ(10)

回数	年月日	テーマ
55	昭61	8.14 荘園の文書－上桂庄(2)－
56		9.11 京都府庁文書「政典」(1)
57		10.9 近世の町文書－二日判取扱－
58		11.13 撰政御教書について
59		12.11 明治の庶民生活－種痘－
60	昭62	2.12 江戸時代のくらし(1)－町中江諸懸物之事－
61		3.12 近代の公文書(6)－京都の川と水運(1)－
62		4.9 近世文書のいろいろ(11)
63		5.14 京都府庁文書「政典」(2)
64		6.11 荘園の文書－上桂庄(3)－
65		7.9 近世の町文書－沽券改－
66		8.13 詔書と宣命
67		9.10 明治の庶民生活－コレラ－
68		10.8 江戸時代のくらし(2)－町代勤書－
69		11.12 明治の建白(1)－勧農－
70		12.10 近代の公文書(7)－京都の川と水運(2)－
71	昭63	2.12 近世文書のいろいろ(12)
72		3.1 京都府庁文書「政典」(3)
73		4.14 荘園の文書－上桂庄(4)－
74		5.12 江戸時代の町文書－いろいろの「改」－
75		6.9 御判御教書について
76		7.14 明治時代の庶民生活－地方遠式陸連衆例－
77		8.11 江戸時代のくらし(3)－享保14年4月、★が京都にやってきた－
78		9.8 荘園の文書－上桂庄(5)－
79		10.13 近世文書のいろいろ(13)
80		11.10 明治の建白(2)－丹波老の坂新道造－
81		12.8 下知状について
82	平元	2.9 江戸時代の町文書－町の掟－
83		3.9 近代の公文書(8)－京都の川と水運(3)－
84		4.13 荘園の文書－上桂庄(6)－
85		5.11 近世文書のいろいろ(14)－相論覚書(1)－
86		6.8 明治の庶民生活－療病院－
87		7.13 管領細川氏の文書
88		8.10 近世の町文書－町触(1)－
89		9.14 布令書を読む(1)－慶応4年2月－
90		10.12 荘園の文書－上桂庄(7)－
91		11.9 近世文書のいろいろ(15)－相論覚書(2)－
92		12.14 近代の公文書(9)－京都の川と水運(4)－
93	平2	2.8 戦国期細川氏の発給文書
94		3.8 近世の町文書－町触(2)－
95		4.12 荘園の文書－上桂庄(8)－
96		5.10 近世文書のいろいろ(16)－相論覚書(3)－
97		6.14 明治の建白(3)－教賀・琵琶湖掘割りのこと－
98		7.12 荘園の文書－上桂庄(9)－
99		8.9 近世の町文書－町記録－
100		9.13 近代の公文書(10)－京都の川と水運(5)－
101		10.11 荘園の文書－上桂庄(10)－
102		11.14 近世の町文書－口上書(1)－
103		12.14 明治の建白(4)－運河掘割りと蒸気運船のことなど－

回数	年月日	テーマ
104	平3	2.14 中世荘園文書(1)－荘園絵図－
105		3.14 近世の天皇文書－平田家文書から(1)－
106		4.11 近代の公文書(11)－京都の川と水運(6)－
107		6.9 応仁の乱と東寺(1)
108		6.13 近世文書のいろいろ(17)－新田開発の記録(1)－
109		7.11 布令書を読む(2)－慶応4年3月－
110		8.8 荘園の文書－上桂庄(11)－
111		9.12 近世の町文書－口上書(2)－
112		10.11 明治初期の京都府－京都府日誌－
113		11.14 中世荘園文書(2)
114		12.12 近世の天皇文書－平田家文書から(2)－
115	平4	2.13 明治の建白(6)－教育建白等－
116		3.12 応仁の乱と東寺(2)
117		4.9 近世文書のいろいろ(18)－新田開発の記録(2)－
118		6.14 近代の公文書(12)－京都の川と水運(7)－
119		6.11 荘園の文書－上桂庄(12)－
120		7.9 布令書を読む(3)－慶応4年3月(2)－
121		8.13 町代改義一件(1)
122		9.10 中世荘園文書(3)－年貢の輸送(1)－近世の天皇文書－平田家文書から(3)－
123		10.8 明治の建白(6)－蝦夷地開拓－
124		11.12 応仁の乱と東寺(3)
125		12.10 一東寺の経済「無足の故」－
126	平5	2.12 近世京都の庶民生活－京都町奉行所町代部屋日記から(1)－
127		3.11 京都府立図書館－集書院から図書館新築まで－
128		4.8 荘園の文書－上桂庄(13)－
129		5.13 近世文書のいろいろ(19)－新田開発の記録(3)－
130		6.10 明治期の京都府庁文書から(1)－立庁の前後－
131		7.8 中世荘園文書(4)－年貢の輸送(2)新見荘－
132		8.12 町代改義一件(2)
133		9.9 近代の公文書(13)－京都の川と水運(8)－
134		10.14 中世東寺の寺院組織(1)－交衆－
135		11.11 近世の天皇文書－平田家文書から(4)－
136		12.9 布令書を読む(4)－慶応4年閏4月29日まで(1)－
137	平6	2.10 荘園の文書－上桂庄(14)－
138		3.10 近世京都の庶民生活－京都町奉行所町代部屋日記から(2)－
139		4.14 明治期の京都府庁文書から(2)－明治初期の京都府－
140		5.12 中世荘園文書(5)－中世村落の額文－
141		6.9 近世の天皇文書－平田家文書から(5)－
142		7.14 京都府の衛生行政－種痘所(館)を中心に－
143		8.11 中世東寺の寺院組織(2)－サー口供僧－
144		9.8 近世文書のいろいろ(20)－新田開発の記録(4)－
145		10.13 近代の公文書(14)－京都の川と水運(9)－
146		11.10 荘園の文書－上桂庄(15)－
147		12.8 近世京都の庶民生活－京都町奉行所町代部屋日記から(3)－

回数	年月日	テーマ
148	平7	1.12 明治6年京都博覧会中舞楽を執行す
149		2.9 中世荘園文書(6)-中世の災害 太良荘の場合-
150		4.13 近世の村人たち(1)-木津川の渡し船-
151		5.11 布令書を読む(6)-慶応4年閏4月29日まで(2)-
152		6.8 中世東寺の寺院組織(3)-供僧年預-
153		7.13 近世の天皇文書-平田家文書から(6)-
154		8.10 明治期の京都府庁文書から(3)-廃藩置県と京都府の管轄区域-
155		9.14 荘園の文書-上桂庄(16)-
156		10.12 近世文書のいろいろ(21)-仲間の抜書-
157		11.9 近代の公文書(15)-京都の川と水運(10)-
158		12.14 中世荘園文書(7)-洛中東寺所領の側面「巻所」(1)-
159	平8	1.11 近世京都の庶民生活-町代日記から(4)-
160		2.8 明治演芸事情から-身振狂言の流行と婦女演劇の許可-
161		4.11 中世東寺の寺院組織(4)-法式と置文-
162		5.9 近世の村人たち(2)-諸国巡見使たちへの対応-
163		6.13 旧県の記録-亀岡-
164		7.11 荘園の文書-上桂庄(17)-
165		8.8 丹波國船井郡西田村文書
166		9.12 明治期の京都府庁文書から(4)-明治前期、京都府の行政機構-
167		10.11 中世荘園文書(8)-洛中東寺所領の側面「巻所」(2)-
168		11.14 郷士の文書-革嶋家文書から-
169		12.12 明治の角力あれこれ-京都府庁文書から-
170	平9	1.9 中世東寺の寺院組織(5)-院家-
171		2.13 天保の飢饉
172		4.10 明治初期の京都府の社寺行政-菊号調書について-
173		5.8 荘園の文書-上桂庄(18)-
174		6.12 近世京都の庶民生活-町代日記から(5)-
175		7.10 旧県の記録-山家-
176		8.14 中世海上輸送の側面-瀬戸内海から-
177		9.11 近世村の暮らし(1)-下桂村-
178		10.9 明治期の京都府庁文書から(5)-明治前期、京都の町と村の行政組織-
179		11.13 東寺の造管と大勧進
180		12.11 藩の文書(1)-淀藩(1)-

回数	年月日	テーマ
181	平10	1.8 伏水京都出張所関係文書から
182		2.12 荘園の文書-上桂庄(19)-
183		4.9 近世京都の庶民生活-町代日記から(6)-
184		5.14 明治期の京都府庁文書から(6)-明治前期、京都の町と村の行政組織(続)-
185		6.11 中世流通史の一コマ-替銭と割符-
186		7.9 近世村の暮らし(2)-藤田権一郎家文書より-
187		8.13 西南戦争と京都
188		9.10 若狭国太良庄における梵鐘の鑄造
189		10.8 藩の文書(2)-淀藩(2)-
190		11.12 旧県の記録-園部-
191		12.10 東寺百合文書に見る上狛高林氏
192	平11	1.14 近世京都の庶民生活-町代日記から(7)-
193		2.18 京都府宮津支庁の文書から
194		4.8 荘園の文書-上桂庄(20)-
195		6.10 近世村の暮らし(3)-御触留より-
196		7.8 船事件御違往復-土木に関する沿革取調帳から-
197		8.12 中世交通史の一コマ(1)-淀川-
198		9.9 幕末期の記録から(1)
199		10.14 迷妄と逸脱を嫌う維新政府-民衆生活への介入をめぐる-
200		11.11 荘園の文書-上桂庄(21)-
201		12.9 近世京都の庶民生活-町代日記から(8)-
202	平12	1.13 明治期の遺跡保存の先駆-京田辺市十塚古墳を例として-
203		2.10 中世交通史の一コマ(2)-京上夫-
204		4.13 幕末期の記録から(2)
205		5.11 京都府庁文書にみる「明治の万国博覧会」
206		6.8 荘園の文書-上桂庄(22)-
207		7.13 藩の文書(3) 綾部藩-平和家文書より-
208		8.10 京都・宮津間単道開鑿工事-第三代京都府知事北垣國道が手がけた事業-
209		10.12 中世交通史の一コマ(3)-水路と陸路-
210		11.9 幕末期の記録から(3)
211		12.14 アレーケと市川義方-京都府庁文書にみる明治期の砂防工事-
212	平13	11.8 相国寺の塔供養
213		12.13 近世村の暮らし(4)-幻の由良川還船計画-
214	平14	1.10 御違書を読む
215		2.14 東寺南大門の茶売請文

■ 古文書解読講座開催状況

年度	講座名	初心者Aコース	初心者Bコース	一般Aコース	一般Bコース
	年月日	14.11.26~29	14.12.3~6	15.1.28~31	15.2.4~7
平成14年度	内容A 講師名・敬称略V	1日目 講演・講義 「古文書の世界へようこそ」 神戸大学名誉教授 高尾一彦		中世文書解読 「東寺の仏事」 当館嘱託研究員 黒川直則	
		2日目 古文書の初歩的解読（講義及び実習） 当館職員 古瀬誠三、辻真澄		中世文書解読 「室町時代の武家文書」 当館職員 池田好信	
		3日目		近世文書解読 「江戸の旗本と山城の村－旗本上方領代官森島清右衛門の手紙より－」 奈良女子大学講師 島津良子	
		4日目		近世文書解読 「藩の文書－淀藩『帰国朝鮮通信使御用留』」 当館職員 山田洋一	
平成15年度	講座名	初心者Aコース	初心者Bコース	一般Aコース	一般Bコース
	年月日	16.1.27~30	16.2.3~6	16.2.17~20	16.2.24~27
	内容A 講師名・敬称略V	1日目 講演 「古都の明治維新－私の出会った『古文書』を 通して－」 京都大学人文科学研究所助教授 高木博志		中世文書解読 「戦国期の革場家文書」 当館職員 池田好信	
		2日目 講義 古文書の初歩的解読 当館職員 辻真澄		近世文書解読 「旗本の家督相続騒動－旗本上方領代官森島清右衛門の手紙より－」 奈良女子大学講師 島津良子	
	3日目		近世文書解読 「藩の文書－譜代大名稲葉家淀藩－」 当館職員 山田洋一		
	4日目	実習 当館職員 山田洋一		近代文書解読 「園部公園の設置」 当館職員 渡辺佳子	
平成16年度	講座名	初心者Aコース	初心者Bコース	一般Aコース	一般Bコース
	年月日	16.11.16~19	16.11.16・11.24~26	16.11.30~12.3	16.12.14~17
	内容A 講師名・敬称略V	1日目 講演 「古文書を読むこと」 京都造形芸術大学助教授 石川登志雄		中世文書解読 「手紙券文」 当館職員 池田好信	
		2日目 講義 古文書の初歩的解読 当館職員 辻真澄		近世文書解読 「京都の奉行と藩－「(二条城米蔵) 仮御役中日記」と「(亀岡藩) 御番頭代京火消詰日記」から－」 当館職員 山田洋一	
	3日目		近世文書解読 「主君押込と「奥向き」の女性たち－旗本上方領代官森島清右衛門の手紙より－」 奈良女子大学講師 島津良子		
	4日目	実習 当館職員 山田洋一		近代文書解読 「日露戦争－京都府行政文書に残された記録から－」 当館職員 渡辺佳子	
平成17年度	講座名	初心者Aコース	初心者Bコース	一般Aコース	一般Bコース
	年月日	18.1.24~27	18.1.24・1.31~2.2	18.2.14~17	18.2.21~24
	内容A 講師名・敬称略V	1日目 講演 「江戸時代の古文書と書物－本を読む村人－」 京都橋大学文学部教授 横田冬彦		中世文書解読 「中世の年中行事－東寺西院御影堂－」 当館職員 池田好信	
		2日目 講義 古文書の初歩的解読 当館職員 辻真澄		近世文書解読 「丹後峰山藩の諸相」 当館職員 山田洋一	
	3日目		近代文書解読 「神職の世界－京都府行政文書神社関係資料から－」 当館職員 福島幸宏		
	4日目	実習 当館職員 山田洋一		近世文書解読 「主君押込事件をめぐって－旗本天野氏上方領在地代官森島清右衛門の手紙より－」 奈良女子大学講師 島津良子	

年度	月日	内容(講師名:敬称略)
総合資料館府民講座等	平16 12.10	「古写真を読む」 国際日本文化研究センター教授 白幡洋三郎
	3.2	企画展「京の商い」記念講座1 「京」のブランド その風格と古典的源流 京都造形芸術大学学長 芳賀徹
	3.17	企画展「京の商い」記念講座2 「京菓子の今昔」 奈良教育大学名誉教授 赤井達郎
	平17 5.20	「足利義満と禅宗-日中交流史の観点から-」 京都府立大学文学部教授 上田純一
	6.24	「国画創作協会の画家たち-大正時代の京都画壇の動き-」 京都国立近代美術館学芸課長 嶋田康寛
	9.22	「ミヤコを囲う-豊臣秀吉と御土居堀-」 佛教大学非常勤講師 中村武生
	10.21	「道長の栄華-その豪邸の風景-」 同志社女子大学教授 藤谷寿
	11.30	第20回東寺百合文書展記念講座 「『弘法さん』の年中行事-東寺御影堂と弘法大師信仰-」 東寺宝物館学芸員 新見康子
	12.15	「絵画・工芸にみる源氏絵の世界-私が出会った源氏物語-」 高津古文化会館学芸課長 両宮六途子
	3.16	企画展「京都府域の藩」記念講座1 「京都府域の藩-幕藩体制におけるその地政学的位置-」 国際日本文化研究センター教授 笠谷和比古
3.22	企画展「京都府域の藩」記念講座2 「官津藩文政一揆について」 官津市歴史資料館主任 辰巳寺司	
3.30	企画展「京都府域の藩」記念講座3 「近世「徳川領国」と京都府域の藩」 当館資料主任 山田洋一	
平18 4.14	「与謝野寛・晶子夫妻と小林政治(天眠)-生涯を通じての良友として-」 当館嘱託研究員 黒川直則	
6.7	「能と古典文学-花の都を舞台として-」 京都府立大学教授 山崎福之	
9.15	「京の祭り-葵祭・祇園祭・時代祭を中心に-」 当館職員 大塚活美	
10.19	第21回東寺百合文書展記念講座 「東寺百合文書の魅力を探る」 摂南大学名誉教授 上島有	
11.4	「京の工芸-京焼-」 京都造形芸術大学教授 中ノ堂一信	
11.18	「桓武天皇と渡来人」 京都産業大学教授 井上満郎	
3.1	企画展「先人達の京都研究」記念講座1 「忘れられた近代京都の文化人達-小西大東を中心に-」 当館職員 松田万智子	
3.9	企画展「先人達の京都研究」記念講座2 「『平安通志』をめぐる人々」 京都市歴史資料館 小林文広	
3.15	企画展「先人達の京都研究」記念講座3 「江戸時代の平安京研究」 花園大学教授 山田邦和	
平19 6.26	「京都の町並みと集落 集落形成とその特徴-丹後・丹波地域を中心に-」 京都府立大学教授 大場修	
9.11	「京都市内の遺跡発掘30年-平安京跡を中心に-」 京都市考古資料館 永田信一	

年度	月日	内容(講師名:敬称略)
総合資料館府民講座等	平19 10.11	第22回東寺百合文書展記念講座1 「桂川の流路と東寺百合文書の絵図」 京都大学大学院教授 金田章裕
	10.18	第22回東寺百合文書展記念講座2 「東寺百合文書の歴史」 当館職員 池田好信
	11.11	「近世絵画の華-18世紀の京都画壇-」 京都市立芸術大学講師 田島達也
	3.18	企画展「地域をむすぶ-京都府の交通史-」 記念講座1 「古代の都と交通」 京都府立大学教授 樺木謙周
	3.25	企画展「地域をむすぶ-京都府の交通史-」 記念講座2 「明治の京都縦貫道-京都宮津間車道の開きく-」 京都橋大学教授 高久嶺之介
	平20 4.3	企画展「地域をむすぶ-京都府の交通史-」 記念講演 「京都の鉄道文化史」 当館職員 大塚活美
	5.18	「古典グルメ・書物グルメのディスカッション-京都府立総合資料館で古典籍をあじわう-」 京都府立大学教授 赤瀬信吾ほか
	7.24	次世代教育支援事業
	8.21	「みよう!さわろう!昔の京都」
	7.31	特別展「京都歴史こぼれ話」記念講演 「歴史よもやま話-洛北編-」 (財)京都古文化保存協会 小嶋一郎
9.12	源氏物語千年紀関連講演1 「源氏物語にみえる王朝文学史」 当館職員 土橋誠	
10.14	第23回東寺百合文書展記念講演 「古文書調査の成果-文字の翻字-」 京都女子大学文学部教授 綾村宏	
10.29	源氏物語千年紀関連講演2 「『源氏物語』の時代の天神信仰-怨霊から天満大自在天神へ-」 同志社大学文学部教授 竹居明男	
11.7	新公開資料「四百年前社寺建物取調書」関連講演会 「新公開の資料と明治期京都の古社寺」 金沢工業大学准教授 山崎幹泰	
3.7	寺子屋講座「よみかき編」	
3.14	寺子屋講座「そろばん編」	
3.26	寺子屋講座「そろばん編」	
平21 5.15	京都府指定文化財指定記念講演 「古久保家文書にみる京の町」 京都府教育庁指導部文化財保護課職員 田中淳一郎	
7.30	特別展「古典籍へようこそ」関連事業	
8.11	寺子屋講座「和本をつくろう!」 当館職員	
8.8	特別展「古典籍へようこそ」関連事業 トークセッション「古典籍は愛だ!-直江版『文選』とその水脈-」 奈良大学教授 河内将秀 京都府立大学 林香奈ほか 当館職員 松田万智子	

年度	月日	内容(講師名:敬称略)
総合資料館府民講座等	平21 11.3	包括協定締結記念 公開シンポジウム 「古都のイメージ大解剖」川端康成の『古都』を手がかりに 京都府立大学 野口祐子ほか 京都府立植物園園長 松谷茂 当館館長 井口和起
	11.5	企画展「北山の歴史をふりかえる」関連事業 「北山の都市計画-琵琶湖疎水支線と北山の景観-」 京都工芸繊維大学大学院教授 小野芳明
	11.8	京都府立図書館・京都府立総合資料館連携 「古典の日」講演会 「平家物語の魅力 清盛の人物造型」 京都府立大学教授 池田敬子
	11.14	「京都の歴史を歩こう!-北山魅力発見!探検ウォーク-」 京都府立大学文学部准教授 上杉和央ほか
	11.26	包括協定締結記念事業 「北山から未来へ」 記念講演 地域連携講演会&パネルディスカッション 「地域のつながり-歴史と文化-」 賀茂別雷神社宮司 田中安比呂 総合地球環境学研究所副所長 秋道智彌
	3.26	収蔵品展関連事業 寺子屋講座 「知ろう!つくろう!北山杉」 北山丸太品質管理協議会事務局長 加藤曠之 京都府京都府林務事務所職員 勝山吉和
	平22 6.30	総合資料館・京都府立大学共同研究(近世部門) 論文集刊行記念講演 「洛中洛外園と徳川の京都」 京都府立大学名誉教授・長浜バイオ大学教授 水本邦彦
8.4	企画展「語り継がれる幕末・維新の京都」記念講演 「坂本龍馬はどこで歿されたのか-京都幕末史蹟の顕彰から検証へ-」 歴史地理史学者・立命館大学非常勤講師 中村武生	
8.17	企画展「語り継がれる幕末・維新の京都」記念講演 「維新観としての『志士』と京都」 佛教大学・京都産業大学非常勤講師 笹部昌利	
8.19	総合資料館・京都府立大学連携事業 寺子屋講座 「学ぼう!京野菜・京の健康食」 京都府立大学生命環境学部教授 大谷貴美子ほか 京都府農林水産部農産課主査 浅野智士 当館職員 松田万智子	
11.11	展覧会「古典籍へようこそ-京都新聞連載の古典籍と細川幽斎の文芸-」記念講演 「細川幽斎・忠興とガラシャ」 京都橋大学文学部教授 田端泰子	
11.14	展覧会「古典籍へようこそ-京都新聞連載の古典籍と細川幽斎の文芸-」シンポジウム 「古典にまなび、古典にあそぶ」 京都府立大学文学部教授 赤瀬信吾 当館職員ほか	
3.13	収蔵品展関連事業 講演会 「京都の暮らしとわらべ歌・仕事歌」 民謡合唱団「算」	
3.26	収蔵品展関連事業 寺子屋講座 「聞こう!学ぼう!京都の民話」 村上郁、吉村悦子	
平23 8.18	寺子屋講座「飲んで!学んで!宇治茶」 (社)京都府茶業会議所職員、当館職員	

年度	月日	内容(講師名:敬称略)
総合資料館府民講座等	平23 10.1	寺子屋講座「京都の歴史を歩こう!北山魅力発見」探検ウォーク2011 京都府立大学准教授 上杉和央ほか
	10.21	国民文化祭・京都2011開催記念企画展「目で見る京都の今昔」関連事業 トークセッション「写真が語る京都-歴史地理学者の眼と写真家の眼」 人間文化研究機構長 金田章裕 写真家 井上隆雄ほか 計7名
	11.2	国民文化祭・京都2011開催記念企画展「目で見る京都の今昔」関連事業 講演会 「GLOBALBASEプロジェクトとは-江戸期の地理学者森幸安の地図から21世紀の地図へ-」 国際日本文化研究センター准教授 森洋久
	12.4	企画展「古典に学び、古典に遊ぶ」関連事業シンポジウム「昔の本に見る笑いとスキャンダル」 京都府立大学文学部教員
	平24 8.2	寺子屋講座「おりがみを折って!学んで!伝統文化」 京都おりがみ会講師 松原ちえ
	10.2	京都学へのいざない講座「平安京の仏教-最澄・空海とその後継者たち-」 国際日本文化研究センター教授 末木文美士
	10.23	京都学へのいざない講座「中世宗教とくこころ」-正直・慈恵・清浄- 京都府立大学文学部准教授 上島享
	10.30	企画展「京都の世界遺産展」記念講演 「世界をつくった大工棟梁 中井大和の守の仕事」 大阪市立大学大学院教授 谷直樹
	11.26	京都学へのいざない講座「下鴨神社と鴨長明」と社殿見学、方丈の庵(河合神社)見学及び展覧会(鴨長明『方丈記』と賀茂御祖神社式年遷宮資料展)見学 賀茂御祖神社福宜 嵯峨井建
	12.9	国際京都学シンポジウム<ユーラシアからみた京都> 「京都とユーラシア東西の首都」 京都大学大学院教授 杉山正明 「相對境界-古都の空間的特徴:かねて古都学の学術空間問題を論ず-」 陝西師範大学副学長 蕭正洪 「『日本のローマ』-戦国時代の京都を憧憬するヨーロッパの宣教師たち-」 京都学国語大学教授 シルヴィオ・ヴィータ 「日中交流の中の『茶』」 京都府立大学文学部教授 上田純一 「わたしのこだわり 本ず栽培の宇治茶」 宇治市宇治茶生産組合前組合長 山本晃一郎
	12.21	京都学へのいざない講座「憂き世に迷う心-鴨長明と『方丈記』-」 京都産業大学文化学部教授 小林一彦
	3.17	地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム-洛北岩倉・大原・松ヶ崎の実践報告を中心として-事例報告とパネルディスカッション 岩倉の歴史と文化を学ぶ会 中村治 大原古文書研究会 上田寿一 京都府立大学文学部准教授 東昇 京都府立大学文学部准教授 上杉和央
3.23	寺子屋講座「京都の歴史を歩こう!2013-早春の松ヶ崎探検ウォーク-」 京都府立大学文学部准教授 上杉和央ほか	

年度	月日	内容(講師名:敬称略)
総合資料館 府民講座等	平25 7.14	開館50周年記念 トークセッション 「新資料館に期待する」 国際日本文化研究センター図書館職員 江上敏哲 立命館大学国際平和ミュージアム学芸員 兼清順子 大阪市史料調査会調査員 松岡弘之 当館職員 福島幸宏
	8.1	開館50周年記念 寺子屋講座 「夏を涼しく!京うちわ」 日展東丘社所属 日本画家 鷲飼雅樹
	9.29	開館50周年記念 地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウムー山城地域の活動報告を中心としてー 「南山城の地域史を学んで」 城南郷土史研究会代表 中津川敬朗 「地域に根ざした文化の発信基地としての活動から」 京田辺市郷土史会副会長 林正 「歴史カルタで八幡再発見」 八幡の歴史を探究する会事務局長 土井三郎 「南山城における養蚕・製糸業ー城陽長池と八幡の関係からー」 京都府立大学文学部特任講師 竹中友里代 コディネーター 京都府立大学文学部准教授 上杉和央
	10.6	開館50周年記念 京都学へのいざない講座 「現代京都のものづくりー伝統文化からデジタル文化にー」 ㈱ATR Creative チーフデザイナー 高橋徹
	10.14	ユネスコ記憶遺産推薦決定・開館50周年記念 国際京都学シンポジウムく東寺百合文書のこれからー記憶遺産に向かってー 「ユネスコ記憶遺産と東寺百合文書」 日本学術会議会員・学習院大学教授 高笠利彦 「東寺百合文書と日本中世史」 東京大学史料編纂所所長 久留島典子 「東寺百合文書の調査と管理」 富山大学名誉教授・元当館職員 富田正弘 「東寺百合文書の概要」 当館職員 小森浩一
	10.23	開館50周年記念 京都学へのいざない講座 「京都ものづくりの基盤の形成ー琵琶湖疏水・田邊期郎とその時代ー」 京都府立大学生命環境学部教授 宗田好史
	11.16	開館50周年記念シンポジウムく総合資料館の50年と未来 「文化資源の保存・活用のために」 東京大学副学長 吉見俊哉 「文化資源保存の重要性ーマンガ研究の立場からー」 京都精華大学マンガ学部長 吉村和真 「新資料館と国際京都学センターに望むこと」 前国立国会図書館長・京都府特別参与 長尾真 「総合資料館の50年と新館構想」 京都府特別参与・当館顧問 井口和起 「総合資料館の実力」 当館職員 松田万智子、岡本隆明
	11.19	開館50周年記念 京都学へのいざない講座 「京都の文明開化ー山本覚馬を中心にー」 同志社大学文学部教授 露口卓也

年度	月日	内容(講師名:敬称略)
総合資料館 府民講座等	平25 1.11	開館50周年記念 国際京都学シンポジウムく近代京都の学と美の新生ー明治・大正期の日中文化交流の中からー 「内藤湖南と羅振玉ー『京都支那学の誕生』ー」 京都大学名誉教授 磯波護 「京都における羅振玉の日本所蔵漢籍の出版事業について」 国文学研究資料館研究部教授 陳捷 「『壬癸集』と京都府立図書館」 京都府立図書館資料課長 西村隆 「王国維『壬癸集』を読むー癸丑三月三日京都蘭亭会詩ー」 京都府立大学文学部准教授 林香奈 「内藤湖南・長尾兩山と京都書壇」 日展常務理事(書)・日本書芸院理事(書)・国際京都学協会常務理事 杭迫柏樹
	1.22	開館50周年記念 京都学へのいざない講座 「京の美学ー西陣織の顔古為新ー」 京都府立大学生命環境学部教授 三橋俊雄
	3.23	開館50周年記念 寺子屋講座「京都の歴史を歩こう!2014ー岡崎編ー」 京都府立大学文学部准教授 上杉和央ほか

京都商工会議所との講演会共催

開催年度	月日	演題・講師
平18	8.11	学びを深めよう「尾形光琳と光琳模様」 奈良教育大学名誉教授 赤井達郎

■ 出張講座開催状況

実施年度	日程	出張先	講師	演題
平21	7月25日(土)	京都表装協会青年部研修会(当館)	辻真澄(当館職員)	古文書入門 -色々な古文書を見る。さわる。読む。-
	7月26日(土)	稲葉神社崇敬会講演会	山田洋一(当館職員)	近世「徳川領国」における波藩と稲葉家
	2月19日(土)	京都府立丹後郷土資料館古文書講習会	池田好信(当館職員)	東寺百合文書の歴史
	2月20日(日)	京都表装協会青年部研修会(当館)	辻真澄(当館職員)	古文書入門 -古文書解説事始め-
平22	4月17日(土)	綾部市郷土史講座	山田洋一(当館職員)	触にみる近世「徳川領国」内丹波国の構造-京都府域関係古文書のアレンジメントの前提として⑤-
	10月16日(土)	三重県立斎宮歴史博物館特別展「賀茂斎院と伊勢斎宮」関連講座	土橋誠(当館職員)	賀茂祭の魅力と賀茂斎院
	10月23日(土)	京丹後市文化財セミナー	山田洋一(当館職員)	峯山京極家と峯山藩の運営
	11月27日(土)	京都府立丹後郷土資料館古文書講習会	山田洋一(当館職員)	御用留、御触留にみる近世丹後・丹波・山城・京都
平23	7月28日(木)	京丹後市文化財セミナー	山田洋一(当館職員)	久美法代官所と丹後・但馬・美作
平24	6月28日(木)	京都府立嵯峨野高等学校	山田洋一、辻真澄、岡本隆明(当館職員)	「歴史文化研究」授業の取組のひとつとして

■ 歴史資料カレッジ開催状況

開催年度	日程	講師(敬称略)	演題	
平21	前期	9月10日(木)	井口和起(当館館長)	日露戦争と京都
		9月17日(木)	山田洋一(当館職員)	近世丹波の触と『徳川領国』-解説を中心に-
		9月24日(木)	大塚活美(当館職員)	京都の写真家 黒川翠山の断章
	後期	3月7日(日)	島津良子(奈良女子大学講師)	御用状を読む-旗本天野氏上方代官森島家の文書から-
		3月14日(日)	福島幸宏(当館職員)	戦後京都の出発
平22	前期	3月21日(日)	池田好信(当館職員)	中世の旅の断面 - 東寺百合文書より -
		9月2日(木)	井口和起(当館館長)	私の家も『疎開横補』だった-戦時下京都府の建物疎開を考える-
		9月9日(木)	山田洋一(当館職員)	久美法代官所領の御用留にみる丹後・但馬・美作
	後期	9月30日(木)	東昇(京都府立大学准教授)	『郡村誌』でみる近世・近代の八幡-京都府立大学の現地調査-
		3月3日(木)	島津良子(奈良女子大学講師)	御用状を読む-旗本天野氏上方代官森島家の文書から②-
		3月10日(木)	福島幸宏(当館職員)	京都府が建てたもの-府庁・学校・施設-
		3月17日(木)	池田好信(当館職員)	東寺百合文書にみる京都の諸断面
平23	前期	9月1日(木)	井口和起(当館顧問)	昭和期の与謝野晶子-天眠文庫を素材に-
		9月15日(木)	辻真澄(当館職員)	記録の中の“新選組”
		9月29日(木)	上杉和央(京都府立大学准教授)	描かれた京都 - 江戸時代の地図から -
	後期	3月1日(木)	島津良子(奈良女子大学非常勤講師)	武士身分と農民身分の間-旗本天野氏上方代官森島家の文書から③-
		3月8日(木)	福島幸宏(当館職員)	大規模災害と京都府行政文書
3月15日(木)	岡本隆明(当館職員)	東寺百合文書 その利用のいま・むかし		

■ 歴史資料解説講座開催状況

開催年度	日程	講師(敬称略)	演題
平24	3月5日(火)	島津良子(奈良女子大学非常勤講師)	明治維新後の元旗本天野家と旧領村-森島家に残る書状から-
	3月6日(水)	土橋誠(当館職員)	古代・中世文書に見える印
	3月7日(木)	岡本隆明(当館職員)	東寺百合文書の「つかい方」
平25	3月4日(火)	島津良子(奈良女子大学非常勤講師)	年貢とは何か?-『御用状』にみる年貢米の売却と江戸送金-
	3月5日(水)	大塚活美(当館職員)	社格社号標の建立-京都府行政文書から-
	3月6日(木)	山田洋一(当館職員)	丹後国久美法代官所関係文書より

■ 半木半腕会開催状況

年度	月日	内容(講師名:敬称略)
平9	2.17	「編集者の懺悔」 (株)波交社相談役 白井史朗
	3.17	「虫ぼしを待ちわびる本」 関西大学教授 山野博史
	4.14	「蔵書のゆくえ」 大阪府立中之島図書館 岡村敬二
	5.15	「吉田光邦先生の踏査記」 陶芸家 小山喜平
	6.16	「祇園の文芸女将磯田多佳-漱石・潤一郎・勇-」 当館館長 中山禎輝
	7.15	「祇園・鴨川・先斗町」 同志社女子大学教授 廣瀬千紗子
	9.16	「京都往来」 西陣織物会館専務理事 高橋孝三
	10.15	「琉球版漢籍あれこれ」 具志川市史編纂室 藥野川敦
	11.14	「減びた楽器-一節切の尺八-」 神戸大学名誉教授 高尾一彦
	1.16	「オランダ選辞と書物」 京都大学総合人間学部教授 松田清
	2.16	「節用集の手沢」 京都大学人文科学研究所教授 横山俊夫
	3.16	「『Japanese design』と『デザインメイド イン ニッポン』」 デザインリサーチャー 須田照子
	平10	6.19
7.16		「欧米におけるブックアートの近況について」 和紙造形作家 伊部京子
9.16		「今西錦司『全集』と西堀栄三郎『選集』について-京都と近代登山-」 毎日新聞社編集委員 斎藤清明
10.16		「朝鮮古活字から日本古活字へ」 関西外国語大学助教授 村上明子
11.16		「にいとひびき-一言半句-」 同志社女子大学助教授 朱捷
平11	2.15	「中世公家の家業-蹴鞠をめぐって-」 宇治市源氏物語ミュージアム 西山恵子
	3.15	「京ことばの今むかし」 京都府立大学名誉教授 中井和子
	6.16	「京舞井上流について」 立命館大学アトリサーチセンター研究員 岡田万里子
	7.15	「書庫徘徊-京都大学附属図書館の地下書庫から-」 京都大学附属図書館 古川千佳
	9.16	「国法学とは何か」 京都産業大学名誉教授 宮田壺
	11.16	「『都名所図会』をめぐって」 同志社女子大学教授 廣瀬千紗子
1.17	「長屋王家木簡の昌益学的解剖所見序論」 野菜文化史研究センター代表 久保功	
3.15	「俳書のはなし-『安永三年蕪村春興帳』をめぐって-」 早稲田大学文学部教授 雲英末雄	

■ 刊行物出版状況

① 展覧会図録類

書名	刊行年度
第1回伝統工芸資料展・陶漆金工芸展	昭39
京都の古地図展出品目録	
夏の風俗資料展	
第2回伝統工芸資料展・染織工芸展	昭40
郷土玩具展	
京都画派の源流展	
古丹波焼展	
ジャワ更紗展	昭41
第3回伝統工芸資料展・木と竹	
椿-その美術と工芸-	
第4回伝統工芸資料展 扇面-近世の名品を中心として-	
第5回伝統工芸資料展-人形-	
河井寛次郎コレクション-民芸-	昭42
第6回伝統工芸資料展-蒔絵-	
民芸シリーズ-紅型展-	昭43
第7回伝統工芸資料展 金工-七宝と象嵌-	
絵更紗-故元井三門里作品展-	
第8回伝統工芸資料展-京焼-頼川と木米	昭44
日本の古民窯-徳利を主として-	
第9回伝統工芸資料展 人間国宝-京都の伝統工芸をになう人々	
第10回伝統工芸資料展 京焼-道八、周平、保全-	
日本の版画	昭45
民芸シリーズ4-壺-	
図録東寺百合文書	
民具	昭46
ふるさとの土人形	
日本の楽器	
年中行事と風俗	
江戸時代の小袖名作展	昭47
古窯名陶展	
国画創作協会五人展	昭48
雑人形展 出品目録	
能装束展	
弘法大師	昭49
永楽焼歴代展	
雑人形展	
京都の生活文化展	
続図録東寺百合文書	昭50
京都近代工芸秀作展	
幸野樸嶺とその高弟展	昭51
宇野宗茂回顧展	
原在中とその流派展	昭52
京の小紋展	
清水六和展	昭53
京の郷土玩具展	
伝統工芸 木と竹 -素材の美と技-	昭54
絞と縹 -小袖にみる技と美-	
近代京都画壇の巨匠 岸竹堂とその芸術	昭55
明治の京焼	
続々図録東寺百合文書	昭56
京都の絵馬	
清水六兵衛歴代作品図録	昭57
日本の郷土人形	
森寛斎と山元春舉-師と高弟の画業の軌跡-	

書名	刊行年度
洛中洛外図の世界	昭58
コプト染織展－エジプト文化の遺産－	
環頭大刀の発見－丹後・湯舟坂2号墳－	
大田垣達月	昭59
貝の工芸	
田能村直入と富岡鉄斎	昭60
京都文化の伝流	
第1回東寺百合文書展 中世の京都	
第2回東寺百合文書展 中世の寺院	
京都近代陶芸の流れ	昭61
写真にみる都市づくり	
第3回東寺百合文書展 東寺の造営	
武者人形の流れ－男児の節句人形－	昭62
第4回東寺百合文書展 荘園の諸相	
第5回東寺百合文書展 中世の運送と交通	昭63
第6回東寺百合文書展 応仁の乱	平元
第7回東寺百合文書展 上桂庄-伝領と相論-	平2
第8回東寺百合文書展-戦国時代の東寺-	平3
第9回東寺百合文書展 中世農民の生活	平4
小林天眠文庫展 与謝野晶子・鉄幹と浪漫派の人々-知られざる近代日本文学小史-	
第10回東寺百合文書展 花押の世界	平5
第11回東寺百合文書展 足利義政とその時代	平6
第12回東寺百合文書展 中世の契約	平7
第13回東寺百合文書展 中世京都の町	平8
国宝指定記念・第14回東寺百合文書展 中世東寺の文書管理	平9
第15回東寺百合文書展 南北朝内乱と東寺	平10
第16回東寺百合文書展 古文書の様式	平11
第17回東寺百合文書展 東寺百合文書からみた日本の中世	平13
第18回東寺百合文書展 室町時代の武家文書	平14
重要文化財指定記念・革嶋家文書展	平15
「総合資料館名品展」出品目録	
第19回東寺百合文書展 足利義満と東寺	平16
「京の商い-『京』ブランドの今むかし-」出品目録	
第20回東寺百合文書展 中世東寺の年中行事-御影堂-	平17
「京都府城の藩-淀・亀岡・園部・山家・綾部・権知山・舞鶴・宮津・峰山-」出品目録	
第21回東寺百合文書展 奉書と直状	平18
「先人達の京都研究」出品目録	
第22回東寺百合文書展 日本史のなかの百合文書	平19
第23回東寺百合文書展 南北朝期の群像	平20

②資料目録類

書名	刊行年度
デザイン資料目録	昭39
資料部門、視聴覚部門資料仮目録	昭41
京都府庁文書目録(明治編)	
京都府資料所在目録	昭42
資料目録(資料部門)	
デザイン資料目録追録	
学習室図書目録	
視聴覚資料目録	昭43
京都府資料所在目録追録No1	
太宰文庫目録	
京都府資料所在目録追録No2	昭44
京都府関係雑誌論文目録	昭45
京都府資料所在目録追録No3	
京都府立総合資料館 貴重書目録	
行政文書簿冊総目録(明治元年～昭和20年)	昭47
京都関係文献目録 昭45～46	
逐次刊行物目録	昭48
行政資料編(1・2)(収集資料目録 別冊)	
河上肇文庫目録(収集資料月報No18 別冊)	昭49
東寺観智院金剛藏聖教目録第1・2	
東寺百合文書目録 第一	昭50
東寺百合文書目録 第二	昭51
東寺観智院金剛藏聖教目録第3・4	
東寺百合文書目録 第三	昭52
陶磁器、京菓文献目録-故藤岡幸二氏旧蔵資料を含む-(収集資料案内No35 別冊)	
東寺百合文書目録 第四	昭53
東寺観智院金剛藏聖教目録第5・6	
京都府下学校沿革史所蔵目録(収集資料案内別冊第5号)	
東寺百合文書目録 第五	昭54
東寺観智院金剛藏聖教目録第7・8・9	昭55
京都伝統産業関係文献目録-京都府立総合資料館所蔵資料による-(収集資料案内 別冊第6号)	
欄橋氏寄贈文献目録(収集資料案内 別冊第7号)	
逐次刊行物目録(改訂版)	昭56
東寺観智院金剛藏聖教目録第10・11・12	昭57
京都府資料目録	昭58
東寺観智院金剛藏聖教目録第13・14・15	
革嶋家文書目録	
文書解題	昭59
京都府資料目録追録No1	
東寺観智院金剛藏聖教目録第16・17・18・19・20(古文書編1)	
京都府資料目録追録No2	昭60
東寺観智院金剛藏聖教目録第21(古文書編2)	
東寺観智院金剛藏聖教の概要(解題篇)	
京都府資料目録追録No3	昭61
行政文書簿冊総目録2	
堀川統計学文庫目録	昭62
京都府資料目録追録No4	
京都府資料目録追録No5	昭63
京都府資料目録追録No6	平元
京都府資料目録追録No7	平2
京都府資料目録追録No8	平3
京都府資料目録追録No9	平5
文書解題(改訂増補)	

書名	刊行年度
京都府資料目録追録No10	平6
京都府資料目録追録No11	平7
京都府資料目録追録No12	平8
京都府資料目録追録No13	平9

③ 資・史料類

書名	刊行年度
京都府の民謡、民俗芸能-録音に基づく歌詞の表記-	昭40
京都府の民謡、民俗芸能-録音に基づく歌詞の表記- その2	昭41
京都府の民謡、民俗芸能-録音に基づく歌詞の表記- その3	昭42
京都市町村合併史	
京都の伝説民話(一) 惟喬親王	
京都の伝承(1) 京都府船井郡和知町 昔話調査報告書	昭43
京都の伝承(2) 京都府与謝郡伊根町 昔話調査報告書	昭44
京都府統計史料集-百年の統計-	昭43
第1巻(府の沿革、土地、気象、人口、衛生、財政)	
第2巻(農林水産業、商工業)	昭44
第3巻(金融、運輸、通信、建設、電気、ガス、水道)	昭45
第4巻(物価、賃金、家計、府民所得、労働、社会福祉、社会保障)	
子どものよみもの100選	昭44
京都府百年の年表 1 政治行政編	昭45
京都府百年の年表 2 商工編	昭44
京都府百年の年表 3 農林水産編	
京都府百年の年表 4 社会編	昭45
京都府百年の年表 5 教育編	昭44
京都府百年の年表 6 宗教編	
京都府百年の年表 7 建設交通通信編	
京都府百年の年表 8 美術工芸編	
京都府百年の年表 9 芸能編	昭45
京都府百年の年表 10 総索引編	昭46
京都府百年の資料 1 政治行政編	昭47
京都府百年の資料 2 商工編	昭46
京都府百年の資料 3 農林水産編	昭46
京都府百年の資料 4 社会編	昭47
京都府百年の資料 5 教育編	昭46
京都府百年の資料 6 宗教編	
京都府百年の資料 7 建設交通通信編	
京都府百年の資料 8 美術工芸編	
京都府百年の資料 9 芸能編	昭47
ふるさとのつけもの	昭45
京都府郷土史研究・第1輯	
東寺百合文書について	昭46
丹後伊根の昔話	
丹後伊根の昔話(再版)	昭47
京都の漬物	
京都府の民謡	
写真集 京都府民の暮らし百年	昭48
かくされていた空襲-京都空襲の体験と記録-	昭49
革嶋家文書について	
京都府の民具 1 衣食住篇	昭52
京都府の民具 2 農業と林業	昭53
京都府の民具 3 漁業	昭54
京都府の民具 4 諸職 伝統の手仕事	昭56
京都府の民具 5 年中行事(正月行事編)	昭58

書名	刊行年度
山城和東の昔話	昭56
国宝指定記念 東寺百合文書にみる日本の中世(資料館編集)(京都新聞社発行)	平9
国宝指定記念 絵はがき 東寺百合文書	
東寺百合文書 1 (イ函、ロ函の一部)	平15
古文書つれづれ&明治の京都	
東寺百合文書 2 (ロ函の一部)	平16
東寺百合文書 3 (ロ函の一部)	平17
史料保存機関等データブック	
東寺百合文書 4 (ロ函の一部、ハ函の一部)	平18
東寺百合文書 5 (ハ函の一部)	平19
東寺百合文書 6 (ハ函の一部、ニ函の一部)	平20
東寺百合文書 7 (ニ函の一部)	平21
東寺百合文書 8 (ニ函の一部、ホ函の一部、ト函の一部)	平22
東寺百合文書 9 (ト函の一部及び補遺、チ函の一部)	平23
東寺百合文書 10 (チ函の一部)	平24

※「東寺百合文書」1～10には巻末に花押一覧を収録

④ 逐次刊行物

書名	刊行年度
新着図書案内(22冊)	昭44～46
収集図書月報 第23号～第31号(9冊)	昭46～47
収集資料月報 No1～No30	昭48～51
収集資料案内 No31～No59(29冊)	昭51～58
資料館だより 第1号～第4号	昭45～47
総合資料館だより No5～No178	昭47～平25
資料館紀要 創刊号～第42号	昭46～平25

⑤ その他

書名	刊行年度
総合資料館 5年のあゆみ	昭43
しりょうかん No1	昭44
総合資料館 10年のあゆみ	昭48
しりょうかん No2	昭54
しりょうかん No3 20年のあゆみ	昭58
しりょうかん No4 25年のあゆみ	昭63
しりょうかん No5 30年のあゆみ	平5
総合資料館40年のあゆみ	平15
文書啓発リーフレット	平16
総合資料館開館50周年記念誌	平25

■ 館蔵資料の国宝等指定一覧（平成26年3月31日現在）

No	種 別	資 料 名	点数等	概 要
1	国宝 (平9.6.30指定)	東寺百合文書	18,646点	京都市南区の東寺（教王護国寺）に伝えられた文書で、奈良時代から江戸時代初期に至る約1,000年間の文書群です。 内容は宗教活動、寺院経済、荘園経営など中世史研究等の基本資料で、昭和42年、文化財保護を目的に京都府が購入しました。
2	重要文化財 (昭56.6.9指定)	東寺観智院伝来 文書典籍類	57点	東寺の子院である観智院の金剛藏に伝わった中世資料で、東寺百合文書同様、貴重な学術資料です。なお、本典籍類は同文書と同時に購入しました。
3	重要文化財 (平14.6.26指定)	京都府行政文書	15,407点	京都府が行政を行うために管理保存してきた京都府の公文書のうち、京都府立庁前年の慶応3(1867)年から昭和21年度までの文書で、近代の政治、歴史、文化を知り得る貴重な資料です。
4	重要文化財 (平15.5.29指定)	革嶋家文書	2,459通	京都市西京区川島の革嶋家に伝来した文書で、昭和49年、故革嶋康三郎氏から寄贈されたものです。鎌倉時代から大正年間の約800年に及ぶ文書群で、革嶋家の歴史を物語るものです。
5	重要文化財 (昭43.4.25指定)	池 大雅 「柳下童子図 屏風」	1点	江戸時代の画家で、日本の文人画の大成者・池大雅が描いた屏風絵です。平成7年、財団法人池大雅美術館（佐々木もと子館長）から京都府に寄贈された73件、85点に及ぶ大雅の絵画、書跡、関係資料のうちの1点です。
6	府指定有形文化財 (昭59.4.14指定)	袈裟褌文銅鐸	4口	昭和38年に、京都市右京区梅ヶ畑の宅地造成工事現場から発見された銅鐸で、昭和42年に京都府の所蔵になりました。型式の古さ、「入れ子」の状態での発見、同範鐸の存在など、学術的価値の高いものです。
7	府指定有形文化財 (平21.3.24指定)	古久保家文書	266点	寛文8(1668)年以来、代々上京下西陣組の町代を勤めた古久保家に伝わった古文書です。町代は江戸幕府の京都町奉行所と京都市中の町との間の諸事務を勤めました。御触留、町代の公事番所勤番日記等があります。

■ 館蔵資料の所蔵状況（平成25年3月31日現在）

資料区分		資料数
図書資料	図書資料	364,226冊
	その他 ※1	2,446点
	小計	366,672冊(点)
文書資料	古文書 ※2	91,599点
	行政文書	81,955点
	写真資料	6,859点
	近代文学資料	23,788点
	その他 ※3	256点
	小計	204,457点
管理委託 現物資料 ※4	美術工芸資料	9,681点
	歴史民族資料	18,939点
	その他 ※5	23,173点
	小計	51,793点
合計		622,922冊(点)

- ※1 レコード、版木ほか。
 ※2 古文書の点数は、平成13年度から、詳細目録により算定した数値に変更した。
 ※3 鳥類はく製、京都府旧公印ほか。
 ※4 管理委託現物資料は、京都府京都文化博物館を運営する公益財団法人京都文化財団に管理委託した美術工芸資料等の現物資料である。
 ※5 吉川親方コレクション、江馬務コレクションほか。

■ 歴代館長一覧

就任年度	館長氏名	備考
昭和38年度	西村 精一	
昭和39年度		
昭和40年度		
昭和41年度	藤田 二郎	
昭和42年度		
昭和43年度	神川 清	
昭和44年度		
昭和45年度		
昭和46年度	田中 米一	
昭和47年度		
昭和48年度		
昭和49年度	井上 裕雄	
昭和50年度		
昭和51年度		
昭和52年度	松村 裕	
昭和53年度		
昭和54年度		
昭和55年度	庄野 勇夫	
昭和56年度		
昭和57年度		
昭和58年度	田中 三美	
昭和59年度		
昭和60年度		
昭和61年度	安井 茂	
昭和62年度		
昭和63年度		
昭和64年度	並河 秀行	
昭和65年度		
昭和66年度		
昭和67年度	西村 隆雄	
昭和68年度		
昭和69年度		
昭和70年度	行待 史朗	
昭和71年度		
昭和72年度		
平成元年度	小嶋 一夫	
平成2年度		
平成3年度		
平成4年度	太田 至郎	
平成5年度		
平成6年度		
平成7年度	上坂 淳二	
平成8年度		
平成9年度		
平成10年度	中山 禎輝	
平成11年度		
平成12年度		
平成13年度	保理江 久	
平成14年度		
平成15年度		
平成16年度	大槻 明司	
平成17年度		
平成18年度		
平成19年度	辻 逸司	
平成20年度		
平成21年度		
平成22年度	井口 和起	(兼) 特別参与
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度	伊藤 秀一	
平成26年度		

総合資料館基本構想

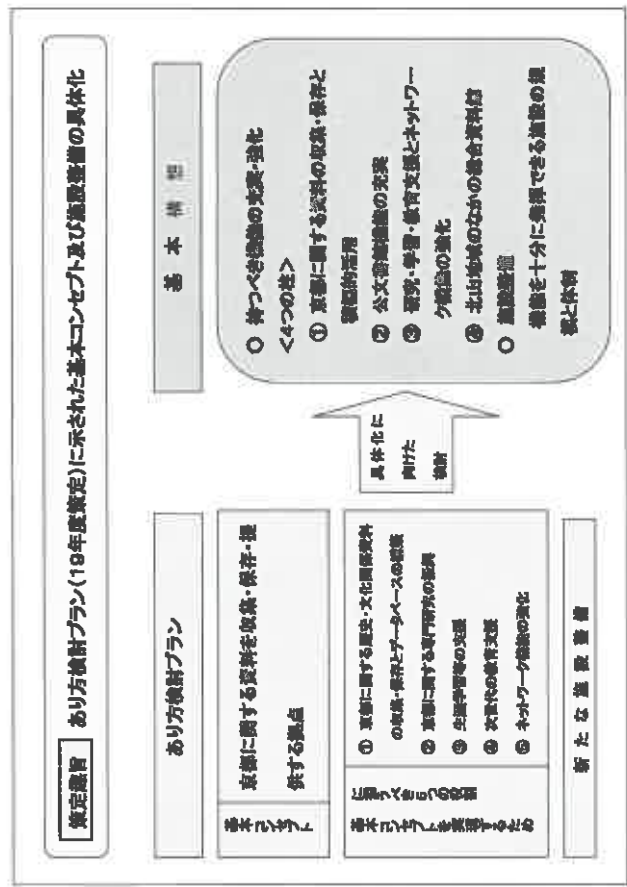
はじめに

創設以来45年間の推移を踏まえ、取り巻く社会環境の大きな変化や多様化する府民ニーズに的確に対応するため、平成19年度に総合資料館の果たすべき役割・機能の方向性などを盛り込んだ「総合資料館あり方検討プラン（以下「あり方検討プラン」という。）」が策定された。

この「あり方検討プラン」は、新たな総合資料館（以下「新資料館」という。）の基本コンセプトとその実現のために担うべき5つの役割並びに北山地域における新たな施設整備について以下の方向性を示している。

本検討委員会は、ここに示された基本コンセプトの具体化に向けて、新資料館が持つべき機能の充実・強化と施設整備の具体化の方向について検討してきた。その検討結果を総合資料館基本構想として、とりまとめたものである。

なお、ここに示す基本構想は、新資料館の実現に向けて具体的な検討を進めるための「基本案」であり、今後、各事業等の進捗状況に応じ具体化を図っていくものである。



I 新資料館の基本方針及び重点事項

1 新資料館の基本方針

- ① 京都に関する過去・現代について調べることのできる施設として、創設以来蓄積してきたノウハウを十分に発揮し、京都に関する資料を的確に収集・保存し、後世へ確実に継承するとともに、引き継ぎ、収集・整理・提供に努めるものとす。
- ② 新資料館の基本姿勢、性格を明確にするため、収集・保存・提供に関するガイドラインを策定し、公表するものとす。

2 重点事項

- I 京都に関する資料の収集・保存と積極的活用
 - ・ 本館創設以来の蓄積を基礎に、古来よりの日本の歴史・文化の遺産に恵まれた京都の地域特性を生かし、歴史・文化関係を中軸に「京都に関する資料」の収集・保存に重点化し、積極的活用を努める。その具体化方向を、京都に関する歴史資料（古文書等）、図書資料、画像・映像資料、美術・工芸品等の項目別に提示する。
- II 公文書館機能の拡充
 - ・ 本館は既に昭和47年から全国に先駆けて公文書館機能を発揮してきたが、この機能の拡充は今日きわめて重要な社会的要請となっている。府政や府民の歩みを示す貴重な歴史資料であるとともに、府民の知る権利を保障し、現在及び将来の府民への行政の説明責任を果たす上できわめて重要な資料である府の公文書等を、的確に収集・保存し、活用しつつ、確実に未来に伝えるための公文書館機能の充実・発展方向を提示する。
- III 研究・学習・教育支援とネットワーク機能の強化
 - ・ 「あり方検討プラン」で指摘されている、本館所蔵資料を活用した京都に関する専門研究の振興・生涯学習等の支援・次世代の教育支援・ネットワーク機能の強化等の具体化方向を提示する。
- IV 北山地域のなかの総合資料館
 - ・ 北山地域に集積した文化施設群との連携を強化しつつ、「あり方検討プラン」に示された基本コンセプトを確実に実行できる施設としての規模と設備及び組織体制の方向性を提示する。

V その他検討を要する課題

新資料館の基本姿勢と性格を明らかにしつつ、府民利用施設として府民ニーズを的確に把握した公的サービスの内容や水準を提供するため、効果的・効率的な運営や組織・体制の検討を進めることが必要である。

I 新資料館の基本方針及び重点事項

基本方針

- ① 開館以来のノウハウを発揮し、京都に関する資料を的確に収集・保存し、次世代へ確実に継承する。
- ② 新資料館の基本姿勢、性格を明確にするため、収集・保存・提供に関するガイドラインを策定し、公表する。

基本方針（事項）

- I 京都に関する資料の的確な収集・保存と後世への確実な継承
- II 館の基本姿勢、性格の明確化
(収集・保存・提供に関するガイドラインの策定・公表)

重点事項（検討の4つの柱）

- I 京都に関する資料の収集・保存と積極的活用
- II 公文書館機能の拡充
- III 研究・学習・教育支援とネットワーキング機能の強化
- IV 北山地域のなかの総合資料館

京都に関する資料を収集・保存・提供する拠点
新 資 料 館

II 京都に関する資料の収集・保存と積極的活用

1 歴史資料（古文書等）

資料館所蔵の国史・東寺百合文書、国重要文化財・草庵家文書をはじめ8万点を超す古文書の一層の活用を図るとともに、古来より日本の中心として、厚みのある歴史・文化遺産等に恵まれた京都地域の特性を活かせる、資料の収集・保存・活用に努める。

① 収集範囲の明確化

研究資料として有効性・活用性の高い、広域にわたる文書を対象として、長期的展望の下に、計画的に収集する。

収集・保存基準の視点

- ① 京都を知る上で必要なもの
- ② 直隷、京都に関する記述があるもの など

② 共同研究の拡充と成果の発信の強化

資料館所蔵の資料を活用した京都府立大学等との共同研究を積極的に拡大するとともに、その成果について広く府民及び研究者等に情報発信する。

2 図書資料

京都に関する専門図書館機能を十分に発揮するため、所蔵する図書資料の分野を「京都に関する研究・学習支援の機能」を果たす図書資料の収集に一層重点化するとともに、旧府立図書館蔵書を引き継いだ貴重な資料である7万冊に及ぶ古典籍についても、保存・整理・調査・活用を進め、より深い京都文化理解を促し、研究・学習支援に資する重要資料として今後も収集する。

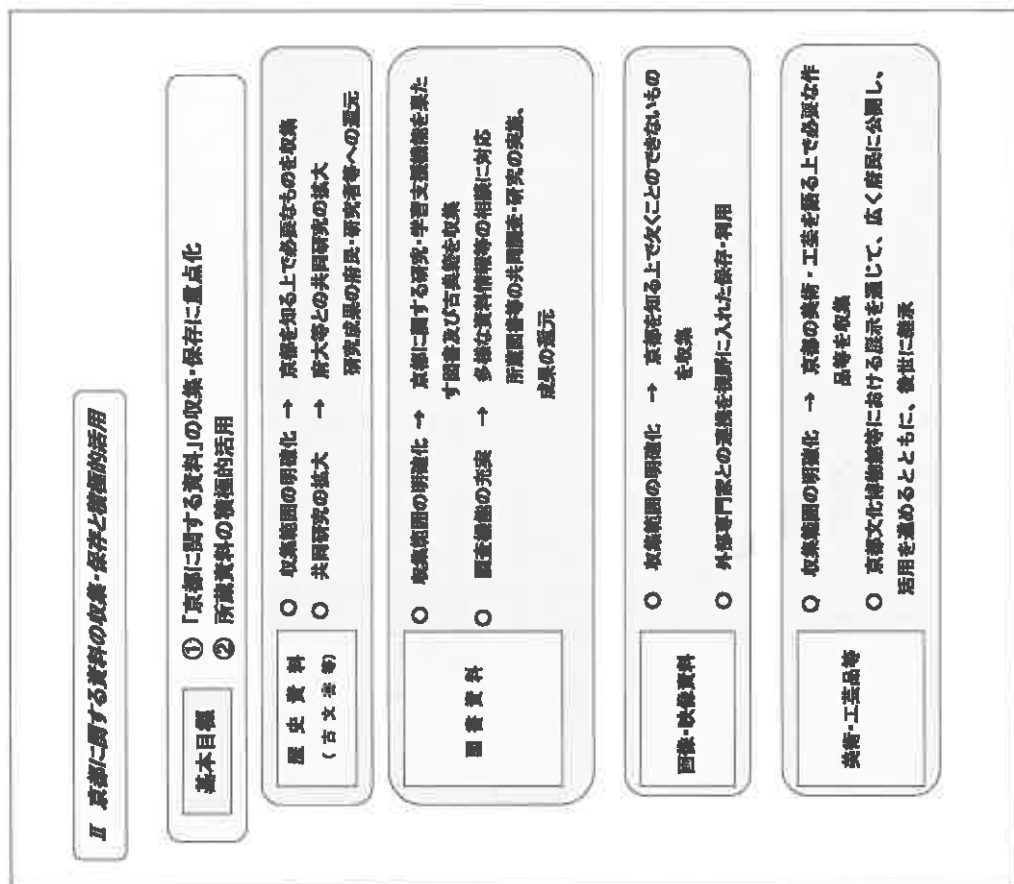
① 収集範囲の明確化

京都に関する研究・学習支援機能を果たす図書及び所蔵する歴史資料や公文書等について調べる上で必要な参考図書等を収集する。

収集・保存基準の視点

- ① 収集する分野は「京都に関する分野」とする。
- ② 図書以外の印刷・出版物の収集に努める。
- ③ これまでの蓄積を生かすとともに、京都に関する研究・学習支援機能を果たす上で必要な図書を厳選して収集する。

- ② 調査・研究機能の充実
 - ・ 所蔵図書、インターネット等のデジタル情報を生かし多様なレファレンス（資料情報等の相談）に応える。
 - ・ 京都に関する研究等を行う機関と連携し、所蔵図書等に関する共同調査・研究を行うとともに、その成果について広く府民、研究者等に情報発信する。
- 3 画像・映像資料
 - ① 京都を知る上で、欠くことのできない貴重なものを収集する。
 - ② 現在所蔵する資料について、今後ますます重要な近現代の歴史資料になることから、外部の専門家との連携を視野に入れながら、歴史資料として保存・活用を進める。
- 4 美術・工芸品等
 - ① 京都の美術・工芸を語る上で必要な作品等を収集する。
 - ② 京都文化博物館等における展示を通じて、広く府民に公開し、活用を進めるとともに、後世に確実に継承する。



Ⅲ 公文書館機能の拡充

公文書館法に定める公文書館としての機能を着実に果たすため、京都府の行政文書の中軸とした公文書等の収集・保存・公開を積極的に進めるほか、すでに国・重要文化財に指定されている1万5千点余の京都府行政文書の保存・活用に努めるとともに、収集・保存・活用に係るシステムを確立し、体制整備を図る。

1 公文書

① 収集範囲の拡大

公文書館機能を着実に果たすため、府の全機関の公文書を収集の対象とすることを原則としつつ、利用者の利便、収集・管理コスト、収蔵スペースの検討状況を踏まえ、各機関の状況に応じた収集が可能となるよう検討を進める。

また、所蔵すべき公文書の範囲を明確にするため、公文書の保存期間に関する問題の整理に必要な各機関における「永年保存規定」の見直しに向けた取組みを支援する。

② 管理体制の確立

(7) 収集・選別基準の作成・公表

公文書館機能が十分に果たせるよう、歴史資料、府政情報としての公文書の位置付けを明確にするため、収集・選別基準を作成し、公表する。

収集・選別基準の視点

国民的又は府民全般に大きな影響を及ぼす事件・事象、歴史的に重要な意思決定など、情報公開と説明責任を果たすために必要な府民の共有財産として収集する。

(4) 公文書の位置付けの明確化

公文書館機能が十分に果たせるよう、情報公開制度との整合性を図り、公文書館制度における「公文書」の閲覧・提供の位置付けを明確にする。

(6) 公文書館機能充実のための制度設計

電子文書を含めた公文書の作成・収集・保存・利用提供まで、一貫した事務が行えるよう、公文書館機能に係る権限について、国の公文書管理法(仮称)の動向も踏まえながら、引き続き関係部局との協議を進める。

協議の視点

公文書に係る府全機関の規定の見直し及び文書関連規程の整備を要請
・ 文書の廃棄に係る実施機関と館との事前協議の枠組みの制度化に向けた検討

③ 閲覧・利用のシステム化

(7) 学術調査研究目的に限定的にしている閲覧制度の見直しを検討し、学術研究はもとより、広く一般の積極的活用を促せるよう努める。

(4) 閲覧制限情報等について客観的な視点を確保し、個人情報保護条例などの整合性を図りつつ、閲覧基準を定め、公表する。

(6) 公文書に関して、文書のライフサイクルに応じてインターネット上での閲覧が可能となるシステムについて関係機関と協議する。

④ 不服審査のシステム化

閲覧利用等制限に対する不服申立への対応のため、客観的・合理的な解決を図るための不服審査機関を設置する。

制度設計の視点

情報公開制度、個人情報保護制度の解釈・運用状況に留意しつつ、整合性を図ることが可能な制度設計を行う。

⑤ 府職員への研修及び業務支援

府職員への文書管理についての研修及び府政に関する所蔵資料の情報提供により業務を支援する。

⑥ 府民等への研究支援・広報

府立大学等の公共政策研究への活用支援をはじめ、府民等の調査・研究を支援するとともに、所蔵する資料情報等の広報に努める。

2 公文書以外の近現代文書

公文書以外の京都府の歴史・文化の発展に密接な関わりをもった歴代知事をはじめ、民間団体、個人等の資料など、近現代文書についても、館としての収集基準を明確にし、収集・保存・公開に努める。

IV 研究・学習・教育支援とネットワーク機能の強化

- 1 京都に関する専門研究の振興
府立大学、他大学及び専門機関や研究者等の参画を得て、京都に関する研究を支援し、振興を図るとともに、共同研究の企画や成果の発表・普及を支援する。
- 2 生涯学習等の支援
「京都について調べたい。学びたい」というニーズに的確に応えるため、展覧会や講座の開催をはじめ、府内の関係機関と連携した取組みを積極的に展開する。

事業展開の視点

- ① 地域で取組まれている歴史教育・伝承活動を応援し、地域力再生の一助とするとともに、具体的な実践活動を通じ、館としての応援プログラムを策定する。
- ② 自主的な研究サークルの組織化に応じて、研究面での支援を行う。
- ③ 京都の歴史・文化に親しみ、興味を持つことができるよう、学校及び地域への出前講座等の取組みを行う。
- ④ 府民が実物（ほんまもん）に触れ、親しむことができる講座、展示を行う。

3 次世代の教育支援

公的施設・大学・寺社その他の文化施設と連携し、小・中・高等学校生徒を対象とした事業に積極的に取組む。

事業展開の視点

- ① 小・中・高等学校生徒を対象として、資料館所蔵の古地図等を活用した京都の歴史・文化等を学ぶ講座等を開催する。
- ② 児童・生徒が実物（ほんまもん）に触れ、親しむことができる講座、展示を行う。
- ③ 京都の歴史・文化に親しみ、興味を持つことができるよう、学校及び地域への出前講座等の取組みを行う。

4 データベースの構築

- ① 所蔵全資料のデータベースの早期構築を目指し、順次公開する。
- ② 府立大学等と連携し、京都府内の関係機関が所蔵する地域資料に関する情報を集約し、京都府全体で歴史資料を保存・活用する体制の構築を目指す。

Ⅱ 公文書館機能の拡充

- 基本目標
- ① 公文書の収集範囲の拡大、公文書以外の近現代文書の収集・保存
 - ② 京都府行政文書(重文)の保存・活用促進
 - ③ 公文書館機能の充実に向けた閲覧利用等のシステムの建立

公文書

- ① 収集範囲の拡大
 - 所全機関への拡大を検討
- ② 管理体制の確立
 - 収集・選別基準の作成・公表
 - 収集範囲の整理・調整
- ③ 閲覧・利用のシステム化
 - 閲覧・利用の拡大・促進
 - 閲覧基準の作成・公表
- ④ 不図消滅のシステム化
 - 不図消滅体制の設置
- ⑤ 職員等への研修・業務支援
 - 文書管理についての研修
 - 情報提供による業務支援
- ⑥ 府民等への研究支援・広報
 - 府立大学等の公共政策研究支援
 - 府民等の調査・研究支援
 - 所蔵資料情報の広報

公文書館制度
公文書館法

取組基準を明確にし、収集・保存公開に努める。

に開いた運営

公文書以外の近現代文書

V 北山地域のなかの総合資料館

- 1 北山地域の施設との連携
- 所蔵資料に関する研究、研究成果の府民還元など、府民利用施設としてのサービスの一層の向上を図るため、北山地域に集積した文化施設群との連携、とりわけ府立大学や府立植物園との事業や施設の有機的な連携について、一層の強化を図る。

連携の視点

- ① 府立大学
所蔵資料を利用した共同研究への積極的な参加などの研究活動やその成果の発信や展示、講座の開催などの普及活動を通じて、大学及び資料館が相互に持つ知識・機能を最大限に発掘し、府民サービスの提供が出来るような連携の整備を図る。
- ② 府立植物園
府立植物園が所蔵する文献・資料等に係る保存・整理・活用に関する連携や子供からお年寄りも参加できる共同事業の実施など、相互に持つ専門知識と技術に応じ、連携を推進する。

- 2 主要な施設
- 「あり方検討プラン」に示された基本コンセプトを確実に実行できる施設・設備を有するものとし、府立大学等周辺施設との連携推進の方向に沿った施設とする。

- (1) 京都に関する資料の重点化関連部門
- ① 閲覧スペース
特別閲覧スペース、研究用個室、マルチメディア対応スペースなど
 - ② 資料整理スペース
仮保管、蒸蒸、資料整理、補修、編集などを行うスペース
 - ③ 収蔵スペース
- (7) 書庫(図書、公文書、古文書等) スペース

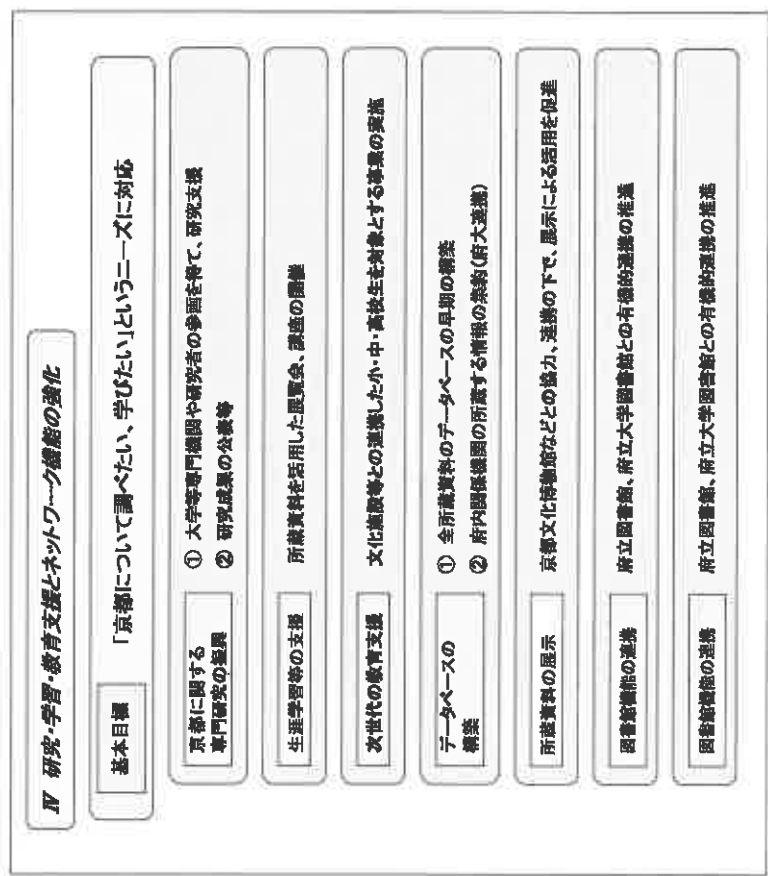
容量・構造・設備の視点

- ・ 概ね50年後までの容量を確保
- ・ 湿・温度管理、防塵、遮光、防火機能を備えた構造・設備とするともに、構造を工夫することによりランニングコスト等を圧縮
- ・ 希少資料(貴重書等)、文化財指定資料については、独立保存・管理ができる構造設備
- ・ 閲覧対応に適した構造・設備

- 5 所蔵資料の展示
- 所蔵資料について、京都文化博物館などとの協力、連携の下に、展示による活用を推進する。

- 6 図書館機能の連携
- 府立図書館、府立大学図書館との間においては、各機関が独自性を発揮する中で、所蔵資料情報の共有化とその提供など有機的な連携を推進し、相互連携を一層高めることにより、更なる利用者の利便性の確保に努める。

- 7 府域の関係機関との連携
- 地域の歴史資料を収集・保存・提供する府立郷土資料館をはじめ、市町村立の歴史資料館及び図書館等関係機関との連携を推進し、相互の情報交換等を通じ歴史資料情報の共有化に努めるなど、ネットワークの強化を図る。



- (1) 公文書に係る中間倉庫スペース
- ・ 館長への権限委任等の枠組みの調査・検討と平行して、適切な規模等の検討も進める。
 - ・ 利用者の利便性等を考慮し、各機関の現行の保存施設を中間倉庫として指定する方向についても検討する。
- (4) 美術品等の取蔵スペース
京都文化博物館（展示）との役割分担を踏まえ、収集視点に従い、寄贈等による京都市府所有の貴重な資料を保存する。

貯蔵・格納・取蔵の視点

- ・ 概ね50年後までの貯蔵を確保
- ・ 湿・湿度管理、防塵、遮光、防火機能を備えた格納・取蔵とするとともに、構造を工夫することによりランニングコストを圧縮

- (5) その他
諸資料の取蔵施設の有効活用を図るため、必要に応じ、所蔵資料の廃棄・移管システムの構築についての検討を行う。
- (2) 生涯学習等の支援部門
- ① 学習支援
研究成果等の府民還元のための講座開催や学習のためのスペース
 - ② 研究支援
自主研究グループ等が活用できるセミナールーム
 - ③ 次世代教育支援等関連部門
常設的な展示及び自主グループ等の研究発表等が行える展示スペース

- 3 主な体制
所蔵する「京都に関する資料」を的確に収集・保存し、府民還元を推進を図るとともに、人材育成の視点をもった体制を整備する。
また、各グループ相互の強みを活かした連携を行い、より効果的・効率的サービスの展開に努める。

(1) 所蔵資料管理部門（仮称：資料管理グループ）

資料の収集・保存・整理と調査・研究や広く資料情報等の相談にも応え得る体制を整備し、機能の充実を図る。

整備の視点

- ・ 京や百合文書を所蔵する京都府の資源として、平成15年度から開始した題詞出版事業の継続が可能となる体制
- ・ 資料の収集・保存・整理・公開に係るシステムの構築ができる体制を整備した職員の確保

- ① 歴史資料部門
資料の収集・調査や共同研究推進に応じうる体制を整備する。
 - ② 図書資料部門
図鑑事務等日常業務の効率化を図るとともに、資料の収集・調査・整理やレファレンスに応じうる体制を整備する。
 - ③ 画像・映像部門
整理・保存等に専門性を持った専任の職員を確保し、体制を整備する。
 - ④ 美術・工芸品部門
京都文化博物館との連携を踏まえ、専門性を持った収集・保存等の管理ができる体制を整備する。
 - ⑤ 公文書部門
資料収集・整理・保存・閲覧・提供システムを適切に運用できる体制を整備する
- (2) 研究支援・企画部門（仮称：研究支援・企画グループ）
展示・生涯学習支援・専門研究推進及び他機関との連携に係る企画運営を行える人材を確保し、館全体で事業推進できるシステムを構築する。
- (3) 施設の管理部門
国宝、重要文化財等貴重な資料を保存、継承する施設であることから、十分な管理が行える体制を整備する。

4 施設の機能・規模

主な施設の機能・規模は、本基本構想の段階においては、概ね以下の機能・規模が見込まれる。

ただし、本計画に見込む規模は、現段階におけるものであって、引き続き、基本計画、基本設計等の各段階において、精査・検討するものであり、特に収蔵機・規模については、現実性のある柔軟な対応を視野に入れて検討を進める。

また、各施設機能については、府立大学との相互利用など柔軟な利用ができるよう配慮する。

(1) 主要施設の機能・規模

- ① 閲覧
所蔵する図書等を閲覧に供するため、席数約180席、キャレルデスクの採用などブラウザインターフェイスに配慮した機能、マイクローラーやデジタル画像の閲覧できるマルチメディア対応機能も整備
- ② 特別閲覧
貴重書等取扱いに配慮を要する図書等を閲覧に供するため、席数約30席の規模を有するスペースを整備
- ③ 文書閲覧
古文書、公文書等を閲覧に供するため、席数約40席の規模を有するスペースを整備
- ④ 大型資料等閲覧(新設)
絵図等の大型資料を閲覧に供するため、絵図等を展開して閲覧できるスペースを整備
- ⑤ 講座
京都に関する歴史や文化、所蔵資料を活用した府民講座などに使用する席数約200席の規模を有するスペースを整備
- ⑥ セミナー(新設)
研究成果の発表などに使用する席数約200席の規模を有するスペースを整備
なお、2室に分割して使用可能な構造も検討する。
- ⑦ 共同研究
共同研究に使用する席数約30席の規模を有するスペースを整備
- ⑧ 生涯学習支援(新設)
地域・職域などの自主研究グループや個人が学習のために使用する席数約70席の規模を有するスペースを整備
- ⑨ 整理・補修(新設)
所蔵資料の整理・補修やデジタル化など情報の編集・発信のためのスペースを整備

⑩ 展示

所蔵資料の展示スペースを整備

なお、大型絵図等が展示できる構造を有するほか、常設展示、デジタル展示視聴コーナー、体験学習が可能なスペースも検討する。

(2) 収蔵機能・規模

新資料館が所蔵する図書、古文書、公文書、画像・映像資料、美術・工芸品等に係る保存・活用・提供などの機能を十分に発揮するためには、相当程度の収蔵スペースが必要であり、詳細な必要面積等については、具体的な施設整備に合わせて検討する。

(3) その他

管理部門：新資料館の規模により別途検討

5 施設に関する検討事項

(1) 立地

① 北山グランドデザイン

北山地域における施設連携等をベースに文化・環境・学術の交流・発信拠点として検討が進められている「北山グランドデザイン」をもとに、新資料館の規模やデザインなど、実施設計に向けた検討を更に進める必要がある。

② 関係施設との利用導線

隣接する「府立大学」はもとより、「府立植物園」、「陶板名画の庭」との連続した利用も可能となるよう、施設への入館経路等を幅広く検討する必要がある。

③ 歴史的経緯

設置後45年を経過し、全国の研究者や関係者から親しまれている経緯に鑑み、引き続き北山地域における歴史・文化の活動拠点として、北山地域での建設を検討する必要がある。

(2) 京都らしさ

千年の歴史の中にも息づく伝統を重んじながらも、常に先進的な技術や思想を取り込んできているという「京都らしさ」を、新資料館の立地、建設、デザインなどに反映できるように検討を進める必要がある。

北山文化環境ゾーン整備推進 についての検討報告

～文化と環境に包まれたやさらぎと文脈の中で、京都を世界に発信する街を目指し、開放感あふれ、歩いてまわりたくなる街となるために～

(一部抜粋)

IV 総合資料館と府立大学とが連携する新施設の整備の方向性等

- 新しい総合資料館については、「総合資料館基本構想」(以下、「基本構想」と略記。20年度、総合資料館基本構想検討委員会策定。)を基本に府立大学等との連携の強化を図るとともに、「北山文化環境ゾーン整備推進」全体の観点から府立大学の施設の一部との合同整備を進める。

1 新施設の目的・性格

- 新施設(新しい総合資料館、府立大学文学部研究室・附属図書館などの新たな建物・設備全体をいう)は、京都の歴史・文化に関する資料を収集・保存・調査・研究するとともに、広く一般に提供し、その調査・研究や学びを支援し、国内外に情報を発信する拠点とする。

2 総合資料館と府立大学との連携強化による新施設の新たな機能の発揮

- 総合資料館と府立大学の連携強化こそが「基本構想」で示された新施設の機能活性化の鍵であり、以下、その連携強化の具体化の方策を提示する。

平成21年10月
北山文化環境ゾーン整備推進委員会

(1)「国際京都学センター」を設置し、全国的・国際的交流と情報発信の拠点とする。

① 国際京都学センターの設置

- ・ 新施設に、「国際京都学センター」(以下、センターと略記。)を設置する。

→ センターの基本的役割は、新資料館が収集・保存する豊かで高い京都関係資料等を駆使した京都の風土・歴史・文化等に関する高度な資料利用に対応し、高度な研究を推進、広く国内外にその成果・情報を発信し、府民のニーズに答え、その生活と文化の発展向上に寄与することにある。

3 新総合資料館等の新たな機能の展開

(1) 新総合資料館

「基本構想」で提案された基本方向の具体化

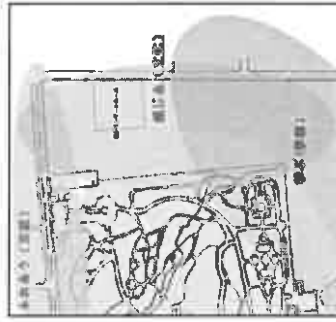
- ① (i) 京都に関する資料の収集・保存と積極的活用
 - (ii) 公文書館機能の拡充
 - (iii) 研究・学習・教育支援とネットワーク機能の強化
 - (iv) 北山地域のなかの総合資料館
- という「基本構想」の基本方針と重点事項で提起された体制整備等諸課題の具体化を糧性をもって進める。

- ② 府立大学以外にも、「基本構想」でも掲げられている府立植物園などとの連携の具体化を重視する。
- ③ 府立の図書館や郷土資料館をはじめ、府域の関係諸機関との連携の推進方策の具体化をし、可能な範囲から実施する。

(2) 府立大学文学部研究室及び同附属図書館

- ③ 機関の包括協定に基づき、共同企画による所蔵資料の展示や府民講座開催、施設・設備・資産等の共同利用や相互活用等、新総合資料館等との連携を強化する。

4 新施設の位置等



- 以上のような施設の性格、機能を踏まえ、多くの人が気軽に集いやすい位置にあるとともに、学習や研究という知的でアカデミックな活動を担保する、知的な環境や雰囲気を整える位置にある必要がある。

- 具体的には、北山地域のエリアイメージとしては「隠れる(隠)と隠る(学術)」がオーバーラップしているあたり、また、新施設の機能面からは、京都市の振興を大きな目標としている府立大学エリアに、もかかると位置あたりがイメージされる。

- 建物は毎つくりのコンセプトに沿った外観・規模とし、備える機能は府民サービス及び利用実態の観点から十分な検討が必要である。

5 新施設の名称

- 新総合資料館・府立大学文学部研究室・府立大学附属図書館を合同整備する新施設について、統一的な名称を付す必要がある。
- また、新総合資料館については、親しみやすく、機能をわかりやすく表すような名称についての検討が必要である。

② センターの主な二つの機能

- (i) 高度な「京都学」の構築・研究推進のコーディネーター
 - ・ 資料利用の高度化を進め、京都の風土・歴史・文化等に関する高度で革新的な総合的・学際的研究としての「京都学」研究を構築・推進するため、コーディネーターの役割を果たす。
 - この研究は、京都地域の「郷土研究」であるとともに、京都の持つ歴史的特性から当然のことながら「日本文化研究」ともなる。
 - 府民の高齢化と同時に全国的・国際的に大きな意義もつことから府民向けと同時に全国的・国際的にも積極的な交流と情報発信を展開する。

(ii) 京都研究の啓発・普及・支援活動の拠点

- ・ 豊かで質の高い京都に関する情報を、広く一般にわかりやすく提供し、京都に関する調査・研究や学習の啓発・普及・支援に努め、「京都発見」の拠点とする。
- 地域社会や関係機関と共同して文化的産業の開発・活性化に寄与する。

③ センター設置に不可欠な総合資料館と府立大学の合同整備

- ・ 収集・所蔵資料に関する専門的調査研究の蓄積と知識を持つ総合資料館と、文学部をはじめ京都の歴史・文化はもちろん、自然・社会・文化遺産等々について優れた知見と高度な研究能力を有する府立大学全体との連携の格段の強化によって、センターの設置はじめて実現可能となる。
- とりわけ、府立大学文学部との直接的な連携強化は不可欠である。

④ センター施設の整備方向

- ・ 施設は、センターの機能が十分に可能となるよう、京都市のコーディネート、京都研究の啓発・普及・支援活動を担う拠点等を備える必要がある。
- ・ なお、センター機能を十分に発揮させるため、新総合資料館・府立大学文学部研究室・府立大学附属図書館の機能が一つの建物内に整備され、必要な共同研究室やホール及び学術研究団体や府民・来館者が自由に活用できる空間などが整備されることが望まれる。

(2) 連携強化による他の新たな機能の発揮（府民サービスの向上）

- ① 府立大学との連携強化により、双方の収集・所蔵資料等の一層広範で利便性に富んだ府民提供方針を開発する。
- ② より豊かで活用しやすい京都調査・研究等に関するレファレンスの積極的展開。
- ③ 府民との一層多様な研究・学習交流の場の提供。
- ④ 両機関の特性を活かした学生や学生対象の各種教育プログラムの共同開発とその社会人への提供。
- ⑤ これらをはじめ、両機関の連携による新事業の展開については、双方の独自性を踏まえつつ、制約に満たない工夫を重ねることによって、府民サービスの向上を目指して具体化する。

あとがき

総合資料館の50年を振り返って

京都府立総合資料館長 伊藤 秀一

総合資料館が開館したのは、1963年（昭和38年）のことです。その当時の日本国内の情勢を調べてみますと、開館の翌年の1964年（昭和39年）には、東海道新幹線、名神高速道路、首都高速道路が相次ぎ開通し、日本で初めての東京オリンピックが開催されています。まさに戦後の復興から世界の先進国の仲間入りを目指そうとしていた時代です。京都府においても「京都府総合開発基本構想」がその2年前にはまとめられ、府内の均衡ある発展を目指した高度経済成長の時代でありました。このような時期に「庶民の暮らしを語る資料館」（開会式の知事あいさつ）をという構想の下で総合資料館はスタートを切りました。

その後、幾多の総合資料館の歴史に大きな転機（その内容は知事あいさつに述べられている。）はありましたが、総合資料館は一貫として府内の様々な資料を収集し、保管し、公開してきました。

この中でも東寺百合文書は、1967年（昭和42年）に京都府が東寺から受け渡しを受けましてから現在に至るまで、50年近くの間、整理、補修の作業と府民の皆さんへの公開に努めてきました。1997年（平成9年）には国宝に指定され、この3月にはWebで文書そのものを公開するまでに至りました。（その内容は資料館のホームページでご覧いただける。）来年度の当初にはユネスコの世界記憶遺産に登録されるよう情報発信等の取組を強めているところであります。

この間の関係職員の並々ならぬ地道な根気のある努力の賜と敬意を表するものであります。

総合資料館は、今後も府内各地の府民の毎日の営みをしっかり記録に留める作業を続けていくべきと考えています。これらの作業は非常に地味で根気のいる仕事であります。しかし、我々の記憶というものは、この変化の激しい時代にあって、昨日のことでさえ、今日の新しい出来事によって上書きされ、掻き消されてしまうような情報過多の情報選択を迫られる時代にあります。まさに「上書きと選択の時代」であります。

こんな時代にこそ、しっかりその地域に、その時を生きた、その人々の営みを残していく使命を総合資料館は負っていると考えています。

あと2年後には、新総合資料館棟（仮称）ができあがり、新しい総合資料館が動き出す予定です。これまでの50年間の実績と伝統は守りながらも、今日の時代の要請に応えられる新しい総合資料館づくりに職員が一体となって取り組んでいかねばなりません。

今後とも府民の皆様の変わらないご理解とご支援を賜りますよう心からお願いしたいと思います。

平成26年3月31日

京都府立総合資料館 開館 50 周年記念誌
1963-2013

平成 26 年 3 月

編集
発行

〒 606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1-4

京都府立総合資料館

TEL (075)723-4831

50th Anniversary
Kyoto prefectural
Library and Archives

1963-2013

Thank you!



October 3, 2012